

博士論文

現代日本語の形容詞の分類

—構文における振る舞いを基準にして—

名古屋大学大学院人文学研究科

人文学専攻

権 裕羅

2023年 2月

目 次

第 1 章	序論	8
1.1	本研究の目的	8
1.2	本研究の分類の指標	11
1.3	対象の形容詞 275 語	16
1.4	本研究の構成	18
第 2 章	形容詞の分類に関する先行研究	20
2.1	時枝（1950）の研究	20
2.2	西尾（1972）の研究	23
2.3	草薙（1977）の研究	29
2.4	寺村（1982）の研究	32
2.5	細川（1989）の研究	35
2.6	荒（1989）の研究	43
2.7	樋口（1996）の研究	45
2.8	山岡（2000）の研究	46

2.9	村上（2017）の研究	54
2.10	まとめと本研究の分類	62
第3章	「～てならない／たまらない／しかたがない」	69
3.1	はじめに	69
3.2	先行研究	71
3.3	調査概要	76
3.4	共起する形容詞の特徴	78
3.4.1	「～てならない」	80
3.4.2	「～てたまらない」	83
3.4.3	「～てしかたがない」	86
3.5	本章のまとめ	91
第4章	他動詞構文「XガYヲ～クスル」と使役構文「XガYヲ ～クサセル」	92
4.1	はじめに	92
4.2	先行研究	95
4.3	コーパス調査の概要	107

4.4	ヲ格名詞句の特徴	109
4.5	共起する形容詞の特徴	115
4.5.1	ヲ格名詞句が「有情物」の場合	117
4.5.2	ヲ格名詞句が「心」の場合	121
4.5.3	ヲ格名詞句が「カラダ」の場合	126
4.5.4	ヲ格名詞句が「コト」の場合	130
4.5.5	ヲ格名詞句が「モノ」の場合	135
4.6	本章のまとめ	139
第5章 比較構文「XガYヨリ～い」		141
5.1	はじめに	141
5.2	先行研究	143
5.3	調査概要	146
5.4	共起する形容詞の特徴	150
5.4.1	「人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い」	150
5.4.2	「モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い」	157
5.4.3	「コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い」	162

5.5	本章のまとめ	168
第6章 程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」		
「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょっと」		
「少し」「やや」		
6.1	はじめに	169
6.2	先行研究	171
6.2.1	佐野（1998）	172
6.2.2	劉・吉田（2006）	175
6.2.3	疏（2018）	177
6.2.4	先行研究のまとめと本章の課題	187
6.3	調査概要	188
6.4	共起する形容詞の特徴	190
6.4.1	「とても」	191
6.4.2	「ちょっと」	194
6.4.3	「少し」	197
6.4.4	「非常に」	199
6.4.5	「かなり」	201

6.4.6	「やや」	204
6.4.7	「相当」	207
6.4.8	「大変」	209
6.4.9	「なかなか」	212
6.4.10	「ずいぶん」	215
6.4.11	「だいぶ」	217
6.5	「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」における比較と共起する 形容詞	221
6.6	本章のまとめ	224
第7章 終わりに		226
7.1	形容詞の分類	226
7.2	形容詞分類の四つの指標	227
7.2.1	「～てならない／たまらない／しかたがない」と自発性 (3章)	227
7.2.2	他動詞構文「XガYヲ～クスル」・使役構文「XガYヲ～ クサセル」とコントロール性(4章)	227
7.2.3	比較構文「XガYヨリ～い」と比較(5章)	228

7.2.4 程度副詞との共起と比較（6章）	228
7.3 本研究における形容詞の七分類	228
7.4 今後の課題	238
参考文献	240

第1章 序論

1.1 本研究の目的

本研究は、現代日本語の形容詞の分類について考察するものである。本研究では形容詞の分類の指標を提示し、日本語の形容詞を感情度の高いものから属性度の高いものまで「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類、「赤い」類の七つに分類し、属性と感情の連続性を明確にすることを目的とする。

形容詞には「少ない」や「赤い」のように事柄や事物の量・色など属性を表すものもあれば、「嬉しい」や「憎い」のように人の感情を表すものもある。形容詞が属性を表すものであるか感情を表すものであるかによって、構文上の使用においても違いが現れる。例えば、(1-1) (1-2)は「少ない」と「嬉しい」の例であるが、一方は用いられるが一方は用いないという違いが見られる。

(1-1) ずいぶん {少ない / *嬉しい}。

(1-2) {*少なく / 嬉しく} てならない。

このように、形容詞の意味（属性・感情）の違いは、構文上の使用における違いとして現れるため、本研究では構文上の使用の違いに基づき形容詞の分類を行う。

また、属性を表す形容詞や感情を表す形容詞の中もさらに分類することができる。例えば、「少ない」と「赤い」は属性を表すものであり、「嬉しい」と「憎い」は感情を表すものであるが、構文上お互いに違いが見られるため、さらに分けられる。

まず、属性を表す「少ない」と「赤い」について見る。(1-3) (1-4) は「少ない」と「赤い」が同じ文法性判断を示す例であり、(1-5) (1-6) は「少ない」と「赤い」が異なる文法性判断を示す例である。

(1-3) ずいぶん {少ない／赤い}。

(1-4) {*少なく／*赤く} てならない。

(1-5) 服を {少なく／*赤く} させる。(「赤くする」なら可)

(1-6) {少なく／*赤く} てしかたがない。

「少ない」も「赤い」も属性を表す形容詞であるが、構文上の使用において(1-5) (1-6) のように働きが異なる場合があり、「少ない」と「赤い」は意味上何らかの違いがあることが考えられる。

次に、感情を表す「嬉しい」と「憎い」について見る。(1-7) (1-8) は「嬉しい」と「憎い」が同じ文法性判断を示す例であり、(1-9) (1-10) は「嬉しい」と「憎い」が異なる文法性判断を示す例である。

(1-7) {嬉しく／憎く} てならない。

(1-8) ずいぶん {*嬉しい／*憎い}。

(1-9) 花子の心を {嬉しく／*憎く} する。

(1-10) この言葉は他のどの言葉よりも {嬉しい／[?]憎い}。

「嬉しい」も「憎い」も感情を表す形容詞であるが、(1-9) (1-10) のように働きが異なる場合があり、「嬉しい」と「憎い」は意味上何らかの違いがあることが考えられる。

以上、「少ない」「赤い」「嬉しい」「憎い」を例として形容詞の意味(属性・感情)の違いが構文上の使用にも現れて、構文上の違いによって形容詞を詳細に分類できることを見た。このように、形容詞の属性・感情

の意味の違いは文法的な働きとしても現れるため、本研究では表1-1のように属性と感情の違いが現れる構文を指標として提示し、これらに基づき形容詞を七つの類型に分類する。分類の指標は大きく四つであるが、各分類の指標については次の1.2節で説明する。

表1-1 本研究の形容詞の分類の指標と形容詞の七分類

		感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す			
		① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱 い」類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類		
3章	～てならない	○	○	○	×	×	×	×		
	～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×		
	～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×		
4章	く クスル	有情物	×	×	○	○	○	○	○	
		有情物 の部分	心	×	△	○	○	○	○	○
			カラダ	×	×	△	○	○	○	○
		非情物	コト	×	×	○	○	○	○	○
	モノ		×	×	×	○	○	○	○	
	く クサセル	有情物	×	○	○	○	○	○	×	
		有情物 の部分	心	×	○	○	○	○	○	×
			カラダ	×	×	×	○	○	○	○
非情物		コト	×	×	○	○	○	○	○	
	モノ	×	×	×	○	△	△	×		
5章	人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	×	×	△	△	○	○	○		
	モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	×	△	○	○	○	○	○		
	コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	×	○	○	○	○	○	○		
6章	非常に～い	○	○	○	○	○	○	○		
	とても～い	○	○	○	○	○	○	○		
	かなり～い	○	○	○	○	○	○	○		
	ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○		
	少し～い	○	○	○	○	○	○	○		
	やや～い	○	○	○	○	○	○	○		
	相当～い	○	○	○	○	○	○	○		
	大変～い	○	○	○	○	○	○	×		
	なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×		
	ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○		
	だいぶ～い	×	×	○	○	○	○	○		

1.2 本研究の分類の指標

本研究では大きく四つの構文を分類の指標として提示して、形容詞を七つの類型に分類する。

本研究の形容詞の分類の指標は大きく四つであり、それは「～てならない／たまらない／しかたがない」（3章）、「XガYヲ～クスル／サセル」（4章）、「XガYヨリ～い」（5章）、程度副詞との共起（6章）である。これらの四つの指標の可否を合わせて見ることで形容詞は七つの類型に分けられる。四つの指標による分類の詳細については第3章～第6章で説明するが、ここではこれらの指標について簡単に説明しておく。

① 「～てならない／たまらない／しかたがない」

これらは「寂しくて {ならない／たまらない／しかたがない}」「赤くて {*ならない/*たまらない/*しかたがない}」のように、自発的に生じる感情・感覚を表す語と共起するものである。各表現と共起する形容詞の特徴をまとめると表1-2のようになる。

表1-2 「～てならない／たまらない／しかたがない」と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
～てならない	○	○	○	×	×	×	×
～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×
～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×

表1-2を見ると、全体的に三つの表現は、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類のように感情度の高い形容詞と共起し、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞とは共起しない点で共通している。しかし、

④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類においては違いが見られる。これに基づき、①～③類の感情は自発的に生じるものである反面、⑥⑦類の属性は自発的に生じにくいものであることが考えられる。

三つの構文と形容詞の七分類の共起関係を見ると、大きく五つの段階に分けることができる。これを表1-2の縦の太線で示す。

②他動詞構文「XガYヲ～クスル」と使役構文「XガYヲ～クサセル」

他動詞構文「XガYヲ～クスル」は「花子がスカートを短くする」のようにX（花子）がY（スカート）の状態を直接的にコントロールするものであり、使役構文「XガYヲ～クサセル」は「花子が太郎を寂しくさせる」のようにX（花子）がY（太郎）の状態を間接的にコントロールするものである。各表現と共起する形容詞の特徴をまとめると表1-3のようになる。

表1-3 「～スル」「～サセル」構文と形容詞の七分類の共起関係

		感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
		① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類
スル	有情物	×	×	○	○	○	○	○
	有情物の部分	心	×	△	○	○	○	○
		カラダ	×	×	△	○	○	○
	非情物	コト	×	×	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	○	○
サセル	有情物	×	○	○	○	○	○	×
	有情物の部分	心	×	○	○	○	○	×
		カラダ	×	×	×	○	○	○
	非情物	コト	×	×	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	△	△

表1-3を見ると、「XガYヲ～クスル」構文も「XガYヲ～クサセル」構文も①「憎い」類のように感情度の高い形容詞とは共起しないが、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように属性度の高い形容詞とは共起する傾向がある。一方、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、⑦「赤い」類は、「XガYヲ～クスル」構文、「XガYヲ～クサセル」構文と共起する場合もあれば共起しない場合もあり、例えば「嬉しい」類は「花子の心を嬉しくする」（「心ヲ～クスル」）は成り立つが「*ピクニックを嬉しくする」（「コトヲ～クスル」）は成り立たない。これに基づき、①類の感情はどのようにしてもコントロールしにくい、②③類の感情は直接・間接的にコントロールできる場合もある。一方、属性はコントロールできるが、⑦類の属性は間接的にはコントロールしにくい。

「XガYヲ～クスル」構文、「XガYヲ～クサセル」構文と形容詞の七分類の共起関係を見ると、大きく六つの段階に分けることができる。これを表1-3の縦の太線で示す。

③比較構文「XガYヨリ～い」

比較構文「XガYヨリ～い」は「花子は太郎より背が高い」「*花子は太郎より嬉しい」のようにX（花子）とY（太郎）の状態の程度の上下を比べるものである。各表現と共起する形容詞の特徴をまとめると表1-4のようになる。

表1-4 比較構文と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類
人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	×	×	△	△	○	○	○
モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	×	△	○	○	○	○	○
コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	×	○	○	○	○	○	○

表1-4を見ると、三つの比較構文はいずれも⑤「危ない」類、⑥「少ない」類、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞とは共起する。一方、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、④「熱い」類は、三つの比較構文と共起しないか共起しにくく、例えば①「憎い」類は「*私は花子より憎い」（「人₁ガ人₂ヨリ～い」）や「?その言葉は他のどの言葉よりも憎い」（「コト₁ガコト₂ヨリ～い」）のように比較構文が成り立ちにくい。これに基づくと、⑤～⑦類の属性はその対象が人、モノ、コトであるかに関係なく自由にその程度が比較できるが、感情の場合は①～④類のように人と人の感情の比較が難しい上に、①②類の感情のように同一人物の主体における感情であっても程度の比較が行われにくい。

三つの比較構文と形容詞の七分類の共起関係を見ると、大きく四つの段階に分けることができる。これを表1-4の縦の太線で示す。

④程度副詞「非常に、大変、とても、かなり、随分、なかなか、相当、だいぶ、やや、少し、ちょっと」との共起

これらは「非常に {少ない／嬉しい}」「かなり {少ない／嬉しい}」「ずいぶん {少ない／*嬉しい}」のように、11語の程度副詞が形容詞と共起するかを見るものである。各表現と共起する形容詞の特徴をまとめると表1-5のようになる。

表1-5 程度副詞11語と形容詞の七分類の共起関係

	感情を表す			感覚を 表す	評価を 表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
非常に～い	○	○	○	○	○	○	○
とても～い	○	○	○	○	○	○	○
かなり～い	○	○	○	○	○	○	○
ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○
少し～い	○	○	○	○	○	○	○
やや～い	○	○	○	○	○	○	○
相当～い	○	○	○	○	○	○	○
大変～い	○	○	○	○	○	○	×
なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×
ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○
だいぶ～い	×	×	○	○	○	○	○

表1-5を見ると、程度副詞11語は④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように感覚・評価・属性を表す形容詞と共起する。一方、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、⑦「赤い」類に関しては、共起するものもあれば共起しないものもある。例えば、①「憎い」類と②「嬉しい」類は「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」と共起せず他の副詞八語と共起するが、③「寂しい」類は「ずいぶん」のみと共起しにくい。本研究では、程度副詞は比較を想定するという疏（2018）に基づき、「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は、他の副詞と違って「話し手が予想した程度」という基準で程度差を判断することを主張し、そのため①～③類の感情が他と違って共起しにくいことを論じる。

程度副詞11語と形容詞①～⑦類の七つの共起関係は、大きく四つの段階に分けることができる。これを表1-5の縦の太線で示す。

本研究では上述の四つの分類の指標を用いて、次の1.3節の形容詞275語に対して分類を行う。

1.3 対象の形容詞275語

本研究では前の1.2節で概観した四つの分類の指標を使い、形容詞275語について分類を行う。形容詞275語は、村上（2017）と山岡（2000）の語彙に筆者の関心で語彙を追加したものであるが¹、その選定の方法について以下で説明する。

村上（2017）は国際交流基金『日本語能力試験出題基準』（2002年）の旧日本語能力試験1級の語彙表に含まれる形容詞638語を対象としているが、その形容詞のうち「うまい(おいしい／上手な)」「おかしい(こっけいな／変な)」「かわいい(愛しい／外見がよい)」「得意な(上手な／鼻が高い)」の4語は二義を認め計642語として扱っている。この642語の形容詞はナ形容詞(421語)とイ形容詞(221語)からなっているが、本研究ではそのうちイ形容詞(221語)を取り出し、そのうち15語は除外した²。

また、村上（2017）が二義を認め個別の語として扱っているもののうち「かわいい(愛しい／外見がよい)」「おかしい(こっけいな／変な)」は文脈上二義のどちらにも解釈できる場合もあり1語として扱うが、「うまい」は「美味しい」と「上手い」のように漢字表記が異なるため二語として扱う。一方、村上（2017）は「あたたかい(暖かい／温かい)」を一語として扱っているが、本研究では「暖かい」「温かい」のように二語として扱

¹ 「気まずい、キモい、興味深い、ウザい、疑わしい」等、主体の感情とも対象の属性とも捉えられる語を追加した。

² 除外した15語とは、「青白い、荒っぽい、薄暗い、おめでたい、思いがけない、しょうがない、すばしこい、茶色い、とんでもない、何気ない、真っ白い、まんまるい、ものすごい、安っぽい、やむをえない」である。

う。このようにして本研究では村上（2017）のイ形容詞221語のうち205語を選んだ。

これに、山岡（2000）で「情意形容詞」と「感覺的屬性形容詞」の例として挙げているイ形容詞33語と、筆者の個人的な関心による「ウザい、エモい、キモい」などのイ形容詞37語を加えた。その内訳は以下の表1-6の通りである。

表1-6 本研究の対象の形容詞275語

	形容詞
①村上 2017 (205語)	鬱陶しい、羨ましい、嬉しい、惜しい、悲しい、可愛い、きまり悪い、悔しい、恋しい、心強い、心細い、すまない、切ない、懐かしい、悩ましい、憎い、恥ずかしい、欲しい、待ち遠しい、空しい、申し訳ない、物足りない、暖かい、温かい、暑い、熱い、ありがたい、慌ただしい、忙しい、痛い、おかしい、恐ろしい、おっかない、重い、重たい、痒い、軽い、きつい、くすぐったい、苦しい、煙い、煙たい、怖い、寂しい、寒い、清々しい、涼しい、楽しい、怠い、つまらない、冷たい、つらい、情けない、憎らしい、眠い、眠たい、眩しい、面倒くさい、煩わしい、美味しい、うるさい、美味しい、面白い、汚らわしい、渋い、酸っぱい、頼もしい、苦い、バカバカしい、バカらしい、まずい、珍しい、もったいない、喧しい、青い、赤い、明るい、あくどい、浅い、浅ましい、新しい、厚い、厚かましい、あっけない、危ない、甘い、危うい、怪しい、あらい（荒・粗）、勇ましい、著しい、卑しい、いやらしい、薄い、美しい、上手い、偉い、多い、大きい、幼い、遅い、大人しい、夥しい、賢い、かたい（堅・固・硬）、からい、可愛らしい、黄色い、汚い、厳しい、清い、臭い、くだらない、くどい、暗い、黒い、詳しい、陰しい、濃い、快い、好ましい、細かい、騒がしい、塩辛い、四角い、親しい、しつこい、しぶとく、白い、凶々しい、少ない、すごい、素早い、素晴らしい、ずるい、鋭い、狭い、騒々しい、そそっかしい、素っ気ない、高い、遅い、正しい、たまらない、容易い、だらしない、小さい、近い、力強い、強い、でかい、尊い、遠い、乏しい、長い、情け深い、名高い、生臭い、生ぬるい、馴れ馴れしい、鈍い、ぬるい、望ましい、のろい、儂い、激しい、甚だしい、華々しい、はやい（早・速）、低い、久しい、ひどい、等しい、平たい、広い、深い、ふさわしい、太い、古い、細い、紛らわしい、貧しい、丸い、見苦しい、短い、見すばらしい、みっともない、醜い、蒸し暑い、難しい、目覚ましい、めでたい、脆い、易しい、優しい、安い、ややこしい、やわらかい（柔・軟）、緩い、良い、欲深い、弱い、若い、若々しい、悪い

②山岡 2000 (33語)	いじらしい、忌まわしい、心憎い、心地良い、歯がゆい、もどかしい、侘しい、せわしい、愛おしい、愛しい、忌々しい、恨めしい、恐れ多い、妬ましい、後ろめたい、面はゆい、心苦しい、照れくさい、寝苦しい、腹立たしい、ひもじい、不甲斐ない、物憂い、物悲しい、疚しい、やるせない、気だるい、こそばゆい、しんどい、むず痒い、ばつが悪い、ぬくい、まばゆい
③筆者が追加 (37語)	さみしい、口惜しい、気味悪い、訝しい、気持ち悪い、ウザい、息苦しい、気持ち良い、じれったい、疎ましい、キモい、痛ましい、気恥ずかしい、物珍しい、愛らしい、憎たらしい、痛々しい、かったるい、まだるっこい、苛立たしい、誇らしい、心許ない、重苦しい、かっこ悪い、エモい、ぎこちない、せこい、むさ苦しい、空恐ろしい、狂おしい、気忙しい、気まずい、気難しい、暑苦しい、世知辛い、疑わしい、興味深い

以上の形容詞275語を七つの類型に分類した結果については、第7章で詳しく論じる。

1.4 本研究の構成

以上、第1章では、本研究の目的を説明した上で、本研究の四つの形容詞の分類の指標について説明した。また、分類の対象とする形容詞275語やその選定方法を示した。本研究の構成は次の通りである。

第2章では、形容詞の分類に関する従来の主な研究成果を概観し、本研究における分類の立場を示す。

第3章では、「～てならない／たまらない／しかたがない」を取り上げ、インターネットのウェブ検索（goo）を用いて三つの表現と共起する形容詞の特徴を明確にする。これに基づき、「～てならない／たまらない／しかたがない」は感情、感覚の自発性が関連するものであり、これを指標にして形容詞を五つの段階に分けられることを主張する。

第4章では、他動詞構文「XガYヲ～クスル」と使役構文「XガYヲ～クサセル」を取り上げ、国立国語研究所の現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下、BCCWJ）を用いてこれらの構文と共起する形容詞の特徴を明ら

かにする。これに基づき、他動構文「XガYヲ〜クスル」と使役構文「XガYヲ〜クサセル」は属性・感情の直接・間接的なコントロールが関連するものであり、これを指標にして形容詞を六つの段階に分けられることを主張する。

第5章では、比較構文「XガYヨリ〜い」を取り上げ、BCCWJを用いて比較構文と共起する形容詞の特徴を明らかにする。これに基づき、比較構文「XガYヨリ〜い」は属性・感情の比較の特徴が関連するものであり、これを指標にして形容詞を四つの段階に分けられることを主張する。

第6章では、程度副詞「非常に、大変、とても、かなり、随分、なかなか、相当、だいぶ、やや、少し、ちょっと」を取り上げ、BCCWJを用いて程度副詞11語と共起する形容詞の特徴を明らかにする。これに基づき、属性・感情の程度の比較の基準が関連するものであり、これを指標にして形容詞を四つの段階に分けられることを主張する。

最後に、第7章では、以上の四つの指標を用いて形容詞275語を「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類、「赤い」類の七つの類型に分類し、各種類の形容詞を自発性・コントロール性や比較の特徴という面から特徴づける。また、今後の課題について述べる。

第2章 形容詞の分類に関する先行研究

本章では、日本語における属性形容詞と感情形容詞の分類に関する先行研究を概観し、その問題点を指摘するとともに、本研究の立場を示す。以下、2.1節～2.9節で九つの先行研究を検討し、2.10節で先行研究における形容詞分類の指標や分類結果の違いをまとめる。その上で、本研究における形容詞分類の指標を提示し、日本語の形容詞は感情度の高いものから属性度の高いものまで「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類、「赤い」類の七つの類に分類できることを主張する。

2.1 時枝（1950）の研究

時枝（1950）は、古典読解のために、古典の言語的理解に必須で基礎的な問題を抽出したものである。時枝（1950）は古典を読むに必要な、例えば「連体形の用法」「連用形の用法」「主語と対象語との識別」など、語学上の単元を項目を立ててその解説法を説明している。

時枝（1950）は、その中で「主観客観の総合的表現」という単元を立てていて、この単元を取り上げる理由について「主観客観の総合的表現」は読解や文法的操作に重要な意義を持ってくるためであると述べている。時枝（1950）は、語、特に用言の意味を考える時に注意すべき事実として（2-1）と（2-2）を挙げている。（2-1）の「流れる」「赤い」は「客観的な事実」を表現したものであるが、（2-2）の「悲しい」「ほしい」は感情、情緒に関する「主観的な事実」を表現したものであるとしている。

- (2-1) a. 流れる水
 b. 花が赤い。
- (2-2) a. 悲しい物語
 b. 水が欲しい。

(時枝1950 : 50)

時枝(1950)は、この二つの意味上の類別は、文法上無用のことのようにあるが、主観的な事実を表現する語には必ずそのような感情、情緒の主体が予想されることを指摘している。例えば、「水がほしい」に対して、「私がほしい」という表現が可能であると述べている。一方、客観的な事実を表現する「流れる」「赤い」などの語についてはこのようなことは起こり得ないとしている。そこで、時枝(1950)は、感情、情緒の表現に属する語において、「主体」を主語とする時、他の別の主語と考えられている「水」のようなものを対象語として区別すべきであることを主張している。

時枝(1950)はさらに、(2-3)のように客観的な事実と主観的な事実とを同時に表現している表現があることも示している。例えば、「見える」「こはい」は、「山」「犬」についての客観的事実の表現である一方で、そのような知覚、感情の主体を想定することにより、「山」「犬」を対象語として見るのが可能であると論じている。

- (2-3) a. 山が見える。
 b. 犬がこはい。

(時枝1950 : 52)

以上を踏まえて、時枝（1950）は語を「客観的表現の語」と「主観的表現の語」、そしてその中間の「主観客観の総合的表現の語」に分けて表2-1のように分類している。

表2-1 時枝（1950）の語の意義上の類別（時枝1950：53の表）

客観的表現の語	主観客観の総合的表現の語	主観的表現の語
高い	こはい	ほしい
赤い	にくらしい	のぞましい
はげしい	さびしい	戀しい
早い	暑い	はづかしい
堅い	すごい	うらめしい
細い	面白い	なつかしい

時枝（1950）は、以上のような語の意義上の類別が、読解上にどのような影響を及ぼすかについて論じている。第一に、客観的事実の表現の場合、文法的処理についてほとんど問題がないとしている。第二に、主観的事実の表現の場合、まず想定される主語が何であり、そして対象語が何であるかを考えなければならないとしている。第三に、主観客観の総合的表現の場合、主語、対象語が想定されることは、第二の場合と同じであるが、主観的な事実をより多く表現しているか、客観的な事実をより多く表現しているかによって、主語の想定を必要としない場合（即ち対象語を主語と考えてよい場合）と、主体の想定を必要とする場合とがあることを論じている。例えば、「この犬はこはい。」において、ある場合には、その犬の動作、容貌などの属性を表現すると考えられて、「犬」は述語「こはい」の主語と認められるとしている。ところがある場合には、その犬に対する恐怖心を表現する場合があります、「犬」はそのような感情の志向対象となるので「こはい」という感情の主体が誰であるかを想定する必要があるとしている。

時枝（1950）は、このような文法的構造の相違は、この語が主観的な事実を表現しているか、客観的な事実を表現しているかの意味の相違に基づくのであると論じている。

以上、時枝（1950）は、語の主観的・客観的な意味と文法的構造の違いが密接に関わることを論じている。本研究も形容詞の意味（客観・主観）と文法的な振る舞いの違いが関係しているという考えに基づき、形容詞の文法的構造の違いを指標として示し形容詞の分類を行う。

また、時枝（1950）は、語を「客観的表現の語」と「主観的表現の語」、そしてその中間に「主観客観の総合的表現の語」があると捉えているが、本研究も形容詞を客観と主観の連続として捉え、その連続性をより明確にするための形容詞の分類を試みる。

時枝（1950）の分類は、次の2.2節の西尾（1972）で「属性形容詞」と「感情形容詞」の分類に受け継がれている。

2.2 西尾（1972）の研究

西尾（1972）は、属性形容詞と感情形容詞という形容詞の分類を明示し、その指標について論じたものである。まず、西尾（1972）は、形容詞には客観的な性質・状態の表現をなす「属性形容詞」（ex. おおきい、しろい、かたい、はやい、わかい、しんせつな）と主観的な感覚・感情の表現をなす「感情形容詞」（ex. まぶしい、いたい、うれしい、なつかしい、いやな）との区別があるとし、この区別は日本語の形容詞において極めて基本的な分類基準であると述べている。西尾（1972）はこの分類について、時枝（1950）との関連性も言及し、時枝（1950）の「客観的表現の語」が属性形容詞に相当し、「主観的表現の語」が感情形容詞に相当すると述べている。

西尾（1972）は、属性と感情による区別は、単に意味上のものであるに止まらず語としてのふるまいの上にも色々な特徴の違いとして表われるとし、形容詞が置かれる環境 I ~ X³を表2-2のように示している。

表2-2 環境 I ~ X とそれによる形容詞の分類（西尾1972：22-23の表）

形容詞 環境		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
		くがる	（わたしは）くい（だ）。 話し手の感情・感覚	（あなた／あの人）はくい（だ）。 第二（三）人称者の感情（覚）	（あなた／あの人）はくそうだ。 感情（覚）の表れた様子	《対象〓モノ》がくい（だ）	《対象〓人》がくい（だ）	《対象〓コト》がくい（だ）	くい（な）こと（内容）	《体の部分》がくい（だ）	くくて（で）たまらない
1	うれしい	○	○		○			○	○		○
2	かなしい	○	○		○			○	○		○
3	いやな	○	○		○	○	○	○	○		○
4	にくい	○	○		○		○	○	○		○
5	いとしい	○	○		○		○	○	○		○
6	なつかしい	○	○		○	○	○	○	○		○
7	おしい	○	○		○	○	○	○	○		○
8	すきな		○	○	○	○	○	○	○		○
9	ほしい	○	○		○	○	○				○
10	つらい	○	○		○			○	○		○
11	くるしい	○	○		○		○	○	○	○	○
12	いたい	○	○		○	○	○			○	○
13	かゆい	○	○		○	○				○	○
14	だるい	○	○		○					○	○
15	けむたい	○	○		○	○					○
16	まぶしい	○	○		○	○					○
17	ねむい		○		○						○
18	ねむたい	○	○		○						○
19	重宝な	○									
20	きたない	○									

西尾（1972）はこれらの環境において形容詞が生起しうるかどうかについて、自身の内省において生起しうるものには○を付け、生起しえないものは空欄にしている。西尾（1972）は表2-2の（1）～（18）を感情形容

³ 西尾（1972）の「環境」は、本研究の「指標」に相当する。

詞、(19) (20) を属性形容詞であるとし、感情形容詞のうち(1)～(11)は感情を表すものであり、(12)～(18)は感覚を表すものであると述べている。

表2-2の環境Ⅰ～ⅣとⅩは感情形容詞と属性形容詞の分類、環境Ⅴ～Ⅷは感情形容詞の下位分類、環境Ⅸは感覚形容詞の下位分類に関わるものである。以下、西尾(1972)の各環境の内容をまとめておく。

環境Ⅰ ～がる

接尾語「～がる」は、「人間が、形容詞の表している内的な気持や状態にあることを外的な態度・言動などに示すことを意味するもの」(p.24)であるため、感情形容詞には「まぶしがる、いたがる、うれしがる」のように「～がる」が付き、属性形容詞には「*おおきがる、*しろがる、*かたがる」のように付かないとしている。西尾(1972)は「～がる」は属性形容詞と感情形容詞を区別する「外的な手がかり」として簡便である程度有効であるとしている。

西尾(1972)は「～がる」について、意味上の区別と「～がる」が付くか付かないかという区別はかなりよく対応していると評価しているが、その対応から外れる語もあることを指摘している。それは、「つよがる」「あたらしがる」「えらがる」のように感情を表す語でないのに「～がる」が付いたり、「すきな」「きれいな」のように感情を表す語なのに「～がる」が付かなかったりする場合である。

環境Ⅱ (わたしは)～い(だ)。話し手の感情・感覚

環境Ⅲ {あなた／あの人}は～い。第二(三)人称者の感情(覚)

環境Ⅳ {あなた／あの人}は～そうだ。感情(覚)の表れた様子

環境Ⅱ～Ⅳは感情形容詞の主語の制約に関するものである。西尾(1972)は、感情形容詞がそのままの形で平叙文の言い切りの述語に

なる場合には、話し手自身の感情・感覚しか表さないという制約があると指摘している。すなわち、感情形容詞が平叙文で辞書形を取る場合、主体は基本的に一人称に限られるということである。そのため、環境Ⅱの「わたしは～い。」のように一人称が主語になる文では平叙文で感情形容詞の辞書形が成り立つが、環境Ⅲの「{あなた／あの人}は～い。」のように二人称や三人称が主語になる文では平叙文で感情形容詞の辞書形は成り立たず、環境Ⅳの「{あなた／あの人}は～そうだ。」のように「形容詞＋そうだ」という形式を取ることにしている。

西尾（1972）は、このうち環境Ⅲについて、「形の上の手がかり」から、感情形容詞であるかどうかを認定する方法をもし一つだけ選ぶとすれば、この基準が一番適切であると論じている。例えば、この基準によれば「しあわせな」「いそがしい」は「君はしあわせだね」「あの人はいつもいそがしい」のように話し手以外の人についても言えるので、感情形容詞から除かれることになる」と述べている。一方、環境Ⅳの「＜語幹＞そうだ」の形は感情形容詞以外にも「しあわせそうだ」「かしこそうだ」など広く成り立つため、感情形容詞を区別するための積極的な条件にはなり得ないとしている。

環境Ⅴ 《対象＝モノ》が～い(だ)

環境Ⅵ 《対象＝人》が～い(だ)

環境Ⅶ 《対象＝コト》が～い(だ)

環境Ⅴ～Ⅶは対象語にももの・人・ことを取り得るかによって感情形容詞を「感情」と「感覚」にさらに下位分類するものである。西尾（1972）は、感情形容詞が感情の主体を主語として取り得るほかに、感情の対象を表す語を取り得ることを感情形容詞の基本的な特徴の一つであるとし、感情の主体は「～は」の形で表すが、感情の対象は

「～が」の形で表すのが基本的であると述べている。そのなかで、西尾（1972）は、対象語になり得るものの特徴（もの・人・こと）を手がかりに、感情形容詞を「感情」と「感覚」に下位区分している。

まず「感覚」を表す形容詞は、「ごわごわの布がいたい」「星があんまりまぶしい」⁴のように対象語がほとんども⁵を表す具体名詞に限られ、人やことを表す名詞や名詞句は取り得ないとしている。一方「感情」を表す形容詞は、「東京で吸う赤い味噌汁はなつかしい」「俺も煙草がほしいおもたとこやけど」のようにものを表す具体名詞だけでなく「私、どうしてもあなたが欲しいのね」「駒子が憎いつて」のように人名詞や「毎朝床離れが辛かった」「杉子の桃のつぼみが今にも咲かけてゐるやうな感じが、実になつかしかった」のようにことを表す名詞（句）が対象語に取り得る点で、「感覚」を表す形容詞と異なることを指摘している。

環境Ⅷ ～い(な)こと<内容>

環境Ⅷの「(連体形) + こと」は、環境Ⅴ～Ⅶと同様「感情」を表す形容詞と「感覚」を表す形容詞の対象語の相違に関するものである。西尾（1972）は、感情を表す形容詞は「(連体形) + こと(の)」が「内容」を持つが、感覚を表す形容詞は「(連体形) + こと(の)」がそのような意味を持たないことを指摘している。例えば、感情を表す形容詞の場合、「(前略) 半生の悔しかった事、悲しかった事、乃至嬉しかった事が、玩具のカレードスコープを見るやうに、粉々と目まぐるしく心の上面を過ぎて行く」の「くやしかったこと」「かなしかったこと」「うれしかったこと」は主体の生活上に起こった内容、

⁴ 四角と下線は筆者（権）による。

⁵ 上付きの点の表記は西尾（1972）に従ったものである。

展開をもった出来事を指し、「こと」は内容を持っているとしている。一方、感覚を表す形容詞の場合、「いたいことも忘れて呼んだ。」「ねむいのをがまんして仕事をする。」「かゆいのをこらえる。」の「いたいこと」「ねむいの」「かゆいの」は感覚が生起した事実そのものを表し、「こと」が内容を持つという意味はないことを論じている。また、「こと」が内容を表すかどうかを見る方法として、西尾（1972）は「うれしいこと」「かなしいこと」は「うれしさ」「かなしさ」に置き換えられないが「いたいこと」「ねむいこと」は「いたさ」「ねむさ」に置き換えられることを示している。

環境 IX 《体の部分》が～い(だ)

環境 IX は、感覚を表す形容詞を「体の部分」が対象語になるものとならないもの、すなわち体のある部分に感じられる感覚（局所的に位置づけられうる感覚）を表すものとそうでないものに分けるものである。

「体の部分」を対象語に取り得るものには「痛い」「痒い」「だるい」などがあるとし、「私は頭が痛い」「いくら頬が痒くても」「手がだるくなつた」などの例を挙げている。一方、体の部分を対象語に取らない語には「まぶしい」「うるさい」などの A グループと「暑い」「寒い」などの B グループがあるとしている。A グループは、「まぶしい」「うるさい」など感覚を受ける体の部分が特定のところに決まっているため「眼がまぶしい」「耳がうるさい」のようにその部分を限定して表す必要があまりないものであるとしている。一方、B グループは、「暑い」「寒い」など体の特定の部分に感じられる性質ではないため、身体部位を対象に取る必要があまりないものであるとしている。

環境Ⅹ ～くて(で)たまらない

「～くて(で)たまらない」は、感情の程度が（たえがたく感じるほどに）高まった状態を表す形式であり、感情を表す形容詞に広く成り立つとしている。「～くてたまらない」は、「嬉しくつてたまらない」「愉快でたまらない」のように快の感情を表す形容詞についても、「悲しくて悲しくてたまりません」「こわくてたまりませんでした」のように不快の感情を表す形容詞についても成り立つとしている。

以上、西尾（1972）は10種の指標を示しているが、その主な内容は感情形容詞の主語の制限や対象語の特徴に関するものである。西尾（1972）はこれら10種の指標を総合的に用いることについては言及していないが、これらの指標を合わせてみることで形容詞をより詳細に分類できる。例えば「苦しい」と「眠い」は、第1人称を主語とする（環境Ⅱ・Ⅳ○、環境Ⅲ×）点で共通しているが、「苦しい」は特定の身体部位を対象語に取ることができる（環境Ⅸ○）のに対し、「眠い」は特定の身体部位を対象語に取ることができない（環境Ⅸ×）という相違点を持ち、「苦しい」と「眠い」は感情形容詞であるが、より区別できることが考えられる。

本研究も西尾（1972）に倣い、形容詞に関わる指標を複数取り上げる。様々な側面に関わる指標を合わせて使うことで、形容詞を詳細に分類する。

2.3 草薙（1977）の研究

草薙（1977）は、西尾（1972）と同様に日本語の形容詞を分類するものであるが、西尾（1972）との相違点を述べることで研究の立場を明らかにしている。

草薙（1977）は西尾（1972）との相違点について次の二点を挙げている。まず、西尾（1972）は用例から出発してそれを分類するという、帰納

的方法を用いるのに対して、草薙（1977）は演繹的方法を用いると述べている。次に、西尾（1972）は形容詞がどういうものを形容するかという観点、すなわち語彙的レベルでの考察であるのに対して、草薙（1977）は形容表現を用いる場合、話し手がいかに情報を得るかを考えるという認知レベルでの考察であると述べている。

草薙（1977）は、言語の意味を言語使用の状況（どういう情報がどのように提供されるか）という観点から研究することによって言語の本質がよりの確に究明できるという考えに基づき、現代日本語の形容表現の意味的分析を行っている。草薙（1977）は、実際の情報の提供という意味では、平叙文における話し手（「私は行きます」の「私」）と疑問文における聞き手（「あなたは行きますか」の「あなた」）は文中において同じ働きをするとし、これらを「情報提供者」と名付けている。また、情報提供者が形容表現の中で果たす役割によって形容表現を大きく「観察形容表現」「感覚形容表現」「感情形容表現」「嗜好形容表現」の四つに分け、「観察形容表現」をさらに「比較形容表現」「判断形容表現」「記述形容表現」の三つに細分類している。これらを図示すると次の図2-1のようになる。

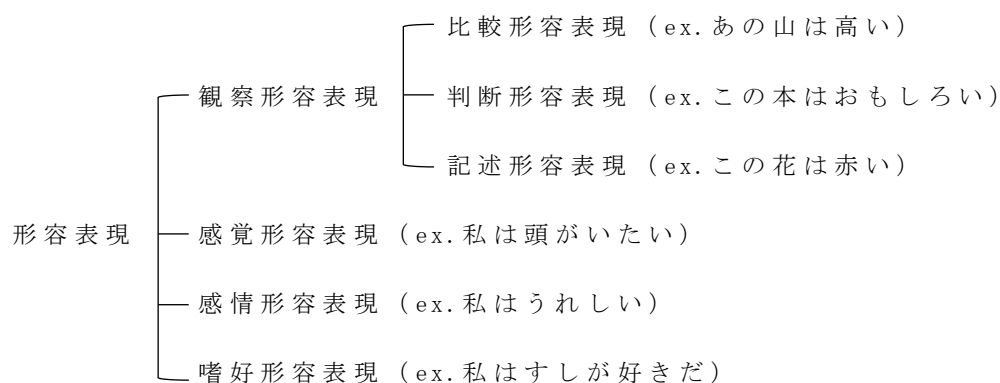


図2-1 草薙（1977）の形容表現の分類⁶

⁶ 草薙（1977）の記述を筆者（権）が整理したものである。

まず「観察形容表現」は情報提供者が何かを観察した上で、その観察結果を報告する形で情報を提供するものであると述べている。草薙（1977）は「観察形容表現」は「比較形容表現」「判断形容表現」「記述形容表現」に下位分類できるとしている。

第一に「比較形容表現」は、常に何かと比べて表現するものであるとしている。例えば、「あの山は高い」の場合、ある地方の山が頭の中にある情報提供者が、その中の「高い」山を「あの山は高い」といえるが、富士山を思い浮かべれば「あの山は高い」は成り立たなくなるということである。この表現は情報提供者が何らかの「条件」を考慮に入れて、その基準で形容表現を選んでいるものであり、この「条件」は情報提供者の外に本来存在し、誰かが条件を検討すれば情報の真疑が立証されるとしている。この場合、情報提供者は客観的な基準を比較する単なる比較者であるとされている。

第二に「判断形容表現」は、「比較形容表現」と違って立証不可能なものであるとしている。例えば、「この本はおもしろい」の場合、「おもしろい」の判断の基準は全く情報提供者個々のものであるため、その基準をはっきり客観的に表すことは不可能に近いと述べている。この場合、情報提供者は観察者であると同時に、主観的判断を下すとされている。

第三に「記述形容表現」は、観察形容表現の中で比較を主な働きとしないものであるとしている。例えば、「この花は赤い」の場合、そうかそうでないかということが問題になるものであり、程度をうんぬんするものではないと述べている。この場合、情報提供者は何かを観察し、その色や形を記述することによって情報提供をする機能を果たすだけであるとされている。

次に「感覚形容表現」は、情報提供者の感覚を表すものであるとしている。例えば、「私は頭がいたい」の場合、情報提供者の生理的現象を表し

情報提供者のみが知っていることであるため、外から客観的に見ることはできないと述べている。

続いて「感情形容表現」は、最も主観的な形容表現であり、人間の感情を表す表現であるとしている。例えば、「私はうれしい」の場合、情報提供者は自分の気持ちを表すものであると述べている。

最後に「嗜好形容表現」は、気持ちを表すという点で「感情形容表現」と同じであるが、やや異質のものがあるとしている。例えば、「私はすしが好きだ」の場合、これは「感情形容表現」と違って半恒久的な状態を表現すると述べている。

このように、草薙（1977）は「情報提供者」が観察者であるか、判断者であるか、経験者であるかという観点から、形容表現を分類している。草薙（1977）が西尾（1972）との違いで述べたように、草薙（1977）は演繹的な方法を用いている点で西尾（1972）と区別されるが、本研究では西尾（1972）と同様、形容詞個々の語の文法的な働きを観察した上で形容詞を分類するという方法を取る。特に、本研究ではコーパスを使い各構文で用いられる形容詞の特徴を調査し、その結果に基づき形容詞を分類する。

2.4 寺村（1982）の研究

寺村（1982）は、「コト」の述語と補語の結びつき方（格関係）を類型化する中で、述語の一つである形容詞の類型について論じている。寺村（1982）は、「コト」とは「客観的な叙述の内容の表現」であり、その主要な要素は名詞と叙述語（動詞や形容詞が主なるもの）であるとしている。具体的なコトを描くかなめとしての叙述語を「述語」、それと色々な格関係において結びつく名詞を「補語」としている。

寺村（1982）は「コト」には外界の動的事象を客観的に描く「動的事象の客観的な描写」（ex. 殺す、会う、戦う）と対象の一般的属性を既定す

る「性状規定」(ex. 賛成だ、大きい、丸い)があり、その中間に「感情表現」(ex. 驚く、憎い、怖い)が存在すると論じている。本章は形容詞の分類に関する内容を扱っているため、形容詞の分類に直接的に関わる「性状規定」と「感情表現」の内容を中心にみる。

まず「性状規定」とは「動的事象の客観的描写に大きく対立するものとして、存在が認識された物・人・事態について、話し手が何らかの特徴づけ、種類分け、評価などを下す表現」(p.162)であると述べて、述語に動詞や名詞もあるが、典型的なものは形容詞であるとしている。寺村(1982)は「性状規定」を大きく三つのグループに下位分類している。

第一に、「何かに対する性状、態度」を表すものである。例えば、「賛成ダ、似テイル、同ジダ」などがあり、「彼ラハ コノ案ニ 賛成ダ/反対ダ」のように「Yニ」が必須補語であるとしている。

第二に、「相対的性状規定」を表すものである。例えば、「大キイ、小サイ、強イ、弱イ」などがあり、「地球ハ月ヨリ大きい」「千代ノ富士ハ、力士トシテハ小サイ」「コノ服ガ私ニ(ハ)大キイ(コト)」のよう「Yヨリ/Yトシテ/Yニ」が準必須補語であるとしている。

第三に、「絶対的性状規定」を表すものである。例えば、「丸イ、赤イ、簡単ダ、病気ダ」などがあり、「地球ハ丸イ」のように必須補語としては主体の「～ガ」だけで足りて、特に第二の補語を必要としないものであるとしている。

次に、「感情表現」とは「(略)生き物の心の動きを写そうとする表現」(p.139)であると述べて、「オドロク、失望スル」のような動詞と「悲シイ、コワイ」のような形容詞が述語になるとしている。このうち、寺村(1982)は「感情を表す形容詞」を大きく二つに下位分類している。

第一に、「感情の直接的表出—感情形容詞による表現」である。例えば、「コワイ、ホシイ、ウレシイ」などがあり、「私ハクモガコワイ」のように対象を表す名詞が「～ガ」を取ることが特徴的であると述べている。ま

た、感情主を表す補語は「～ガ」（まれに「～ニ」）を取るが、文中に感情主が出ない方が多い（ex. 水ガ欲シイ）と述べている。また、述語が現在形で言い切りになる場合、感情主は話し手自身（疑問文では話し相手）に限られるという「人称制限」についても指摘している。

第二に、「感情的品定め」の表現である。例えば、「憎ラシイ、ヨロコバシイ、ノゾマシイ」などがあり、「サソリハオソロシイ」「政治道徳ノ低下ガナゲカワシイ」のように感情主が文の背後に隠れて、感情の対象が文の主題となり「一般に、誰にとっても」そうだという意味に解釈されたと述べている。寺村（1982）はこれについて、「（略）感情の直接表出というよりはむしろ感情をもととした主観的な性状規定、判断のような性格のもの（略）」（p. 140）であると述べている。

以上の「性状規定」と「感情表現」の下位分類をまとめると次の図2-2のようになる。

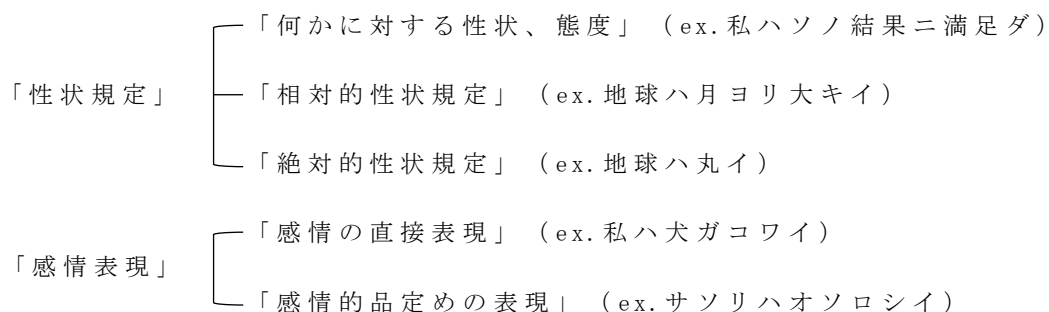


図2-2 寺村（1982）の「性状規定」と「感情表現」⁷

以上、寺村（1982）は「コト」の内容によって形容詞の分類を行っていて、形容詞と補語の結びつき方を類型化している。寺村（1982）は文全体の機能に注目して形容詞を分類している点で草薙（1977）と通じる部分

⁷ 寺村（1982）の記述を筆者（権）が整理したものである。

があるが、本研究では形容詞個々の働きを調査した上で形容詞の分類を行う。

また、寺村（1982）は、「感情表現」のうち「感情的品定め表現」は「主観的な性状規定」の性格を持つとし、「感情的品定め表現」が「性状規定」に繋がっていることを論じているが、「性状規定」の中で「感情表現」により繋がっているものについては触れていない。本研究では形容詞の属性と感情の連続性に注目して、属性を表す形容詞の中でもより感情度の高いものや感情を表す形容詞の中でもより属性度の高いものの分類を行う。

2.5 細川（1989）の研究

細川（1989）は、現代日本語の形容詞は、一般に属性・感情の二分類が認められるとし、こうした二分類説に対して時枝（1950）の「客観的表現の語・主観客観の総合的表現の語・客観的表現の語」という中間的意味の語の存在を認めたものや、寺村（1982）の「感情表現・感情性状規定表現・性状規定表現」という三分類があることを述べている。細川（1989）は、以上のような研究を踏まえつつ、現代日本語の形容詞についてその分類の全体像を捉えることを目的とし、形容詞分類のために三つの指標を立てて、形容詞を大きく四つに分けている。

まず、細川（1989）の形容詞分類の三つの指標を見る。細川（1989）は、西尾（1972）の「環境Ⅰ～Ⅹ」を参考にして、次のような指標①～③を立てている。

指標① 「わたしは～い。」の形で、「わたし」の心の様子を表すことが可能か。

指標①は、形容詞諸語の表す状態が「わたし」の心の様子、すなわち話し手の内面的な状態を表し得るかをチェックするものであり、指標①に該当するもの（ex. 嬉しい、痛い、暑い）は話し手の内面的な状態を表すということになり、該当しないもの（ex. 青い、新しい、怪しい）は外側から見える対象としてモノ・コト（人を含む）の外面的な状態を表すということになるとしている。

これに関して本研究では、指標①に該当するか否かの判断が恣意的になる可能性があることを指摘する。例えば、細川（1989）は「暖かい」「頼もしい」は指標①に該当するものであり、「柔らかい」「望ましい」は指標①に該当しないものであるとしているが、「わたしは暖かい」「わたしは頼もしい」は「わたし」の「心の様子」を表すが「わたしは柔らかい」「わたしは望ましい」は「わたし」の「心の様子」を表さないという線引きが難しいと思われる。形容詞が指標①に該当するか否かという判断は判断者の意味解釈によって揺れる可能性があり、本研究では指標①を形容詞分類の指標として用いない。

指標② 「わたしは～てたまらない／～でならない」が可能か。

指標②は、感覚感情の主体を第一称である場合に限定して、その心の状態が直接的に表出する文型で使用が可能であるかをチェックするものであり、指標②に該当するものは「忙しい、可愛い、嬉しい」などであり、該当しないものは「赤い、丸い、かたい」などであるとしている。

細川（1989）は指標②について、なぜこの文型を指標とするかについて特に説明していない。本研究では「～てたまらない」「～てならない」という文型を指標の一つとして立てて、これらの文型による形容詞の分類の特徴を感情・感覚の自発性に注目しながら論じる。また、細川（1989）は、「～てたまらない」と「～てならない」の相違点に

については特に触れず両者を同等の文型のように扱っているが、本研究では二つの文型と共起する形容詞の特徴を調査し違いを明らかにした上で、これらを指標として用いる。本研究ではさらに、二つの文型の類義表現である「～てしかたがない」も加える。

指標③ 対象内容としてモノ・コト・カラダ（話し手自身の身体部位）のどれをとるか。

指標③は、形容詞の叙述に関係する対象の内容を具体的に考えるものであるとしている。対象の内容を取らないものには「暑い、眠い、ひもじい」があり、対象の内容に「モノ」を取るのは「温かい、熱い、甘い」があり、対象の内容に「コト」を取るのは「卑しい、偉い、ずるい」があり、対象の内容に「カラダ」を取るのは「痛い、痒い、苦しい」があるとしている。

細川（1989）は、形容詞が叙述用法で用いられる場合、対象にモノ・コト・カラダを取ることができるかを見ている。本研究でも形容詞の叙述に関係する対象の内容を指標に用いるが、本研究では「{モノ／コト／カラダ}ヲ～クスル」「{モノ／コト／カラダ}ヲ～クサセル」や「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」「コト₁ガコト₂ヨリ～い」が成り立つかのように、他動詞構文・使役構文・比較構文など、形容詞叙述の基本文型以外における対象の内容を扱う。

細川（1989）は指標①～③の可否によって形容詞515語を表2-3のように大きくA～C型の三つに分類している。指標①と指標②を満たすものはA型であり、指標①は満たさず指標②のみを満たすものはB型であり、指標①も指標②も満たさないものはC型であるとしている。また、A～

C型は指標③によってさらに五つ（⁸／カラダ／コト／コト・モノ／モノ）に下位分類されていて、詳細には11タイプの分類が示されている。

表2-3の記号のうち、○は可能、×は不可能を示している。

表2-3 細川（1989）の指標①～③による形容詞分類
（細川1989：102の表1に筆者（権）が形容詞の例を加筆）

型	指標			単純	派生	複合	計
	①	②	③				
A	1	○	○	— 5 (ex. 暑い、涼しい)	2 (ex. 煙たい、眠たい)	12 (ex. 暑苦しい、息苦しい)	19
	2			カラダ 7 (ex. 痛い、痒い)	2 (ex. くすぐったい、こそばゆい)	1 (ex. むず痒い)	10
	3			コト 12 (ex. 嬉しい、悲しい)	25 (ex. 有り難い、恨めしい)	13 (ex. 後ろめたい、心地良い)	50
	4			コト・モノ 7 (ex. うるさい、惜しい)	7 (ex. 羨ましい、頼もしい)	5 (ex. 味気ない、薄気味悪い)	19
	5			モノ 1 (ex. 欲しい)	0	0	1
B	1	×	○	— 0	0	0	0
	2			カラダ 0	0	0	0
	3			コト 2 (ex. おかしい、かたじけない)	15 (ex. 忙しい、痛ましい)	16 (ex. 重苦しい、気まずい)	33
	4			コト・モノ 3 (ex. 怪しい、喧しい)	10 (ex. 騒がしい、清々しい)	5 (ex. 気味悪い、むさくるしい)	18
	5			モノ 17 (ex. 温かい、熱い)	10 (ex. 愛らしい、重たい)	18 (ex. 甘酸っぱい、物珍しい)	45
C	1	×	×	— 0	0	0	0
	2			カラダ 0	0	0	0
	3			コト 20 (ex. うまい、偉い)	66 (ex. 厚かましい、大人しい)	51 (ex. 著しい、気難しい)	137
	4			コト・モノ 24 (ex. 新しい、危ない)	13 (ex. 逞しい、馴れ馴れしい)	22 (ex. おめでたい、名高い)	59
	5			モノ 51 (ex. 青い、明るい)	29 (ex. 四角い、見すばらしい)	30 (ex. あいくるしい、か細い)	110
計				149	179	173	501 ⁹

⁸ 指標③の「—」は対象を必要としない場合を示すとしている。

⁹ 501語とは、515語のうち形容詞句15語・接尾語2語を除く反面、「かわいい（小さい／愛すべき）」「おかしい（滑稽だ／変だ）」「よい・いい（良・善／好い）」については二義を認めた結果である。

細川（1989）は指標①～③による分類を行った結果を次のように示している。

対象内容¹⁰「一／カラダ」の場合

対象内容が「一／カラダ」のものは、A-1、A-2に限られるとしている。A-1（一）・A-2（カラダ）は、話し手の心の状態を極めて直接的に表すものであり、A-1（一）の例に「こう暑くっちゃ、（略）」「おばあちゃんも眠いよ」を、A-2（カラダ）の例に「目が痛いわ、と彼女はいった」「あの次の日は腰が痛くてね、」を挙げている。

対象内容「コト／コト・モノ」の場合

対象内容が「コト／コト・モノ」のものは、A～C型の全てに見られるとしている。

まずA型のA-3（コト）・A-4（コト・モノ）の場合、話し手の心情を表すものであり、感情主の感情が直接的に表現される形容詞群であるとしている。「A-3（コト）」の例に「同時に心をふたつに使いわけるとは、つらい」「伸子は気疲れが出た故か、毎朝床離れが辛かった」を挙げている、「A-4（コト・モノ）」の例に「里子はおもしろいね」「健ちゃんがあんまり可愛いいから、ママがパクッて食べちゃったのよ」を挙げている。

次にB型のB-3（コト）・B-4（コト・モノ）の場合、人の状態について用いられることの多い表現であるが、全てその外面的な様子を表す語であるとしている。「B-3（コト）」の例に「悦子さん、親爺があんなことを言い出すのはおかしいぜ」「房子のことが頭に浮かばなかったの

¹⁰ 細川（1989）は、形容詞の叙述に関係する対象の内容を「対象内容」と呼んでいる。

はおかしい」を挙げていて、「B-4 (コト・モノ)」の例に「その仕事にかかれるかどうかはあやしい」「その兵隊のなかで挙動のあやしかったものはいないか」を挙げている。

最後にC型のC-3 (コト)・C-4 (コト・モノ)の場合、人の様子・性格、動作に使われるものが多いとしている。「C-3 (コト)」の語に「卑しい、偉い、遅い」を挙げていて、「C-4 (コト・モノ)」の語に「新しい、危ない、多い」を挙げている。

対象内容「モノ」の場合

対象内容が「モノ」のものは、A～C型の全てに見られるとしている。

まずA型のA-5 (モノ)の場合、「ほしい」1語に限られているとしている。細川(1989)は、本来話し手の心の状態を表現するには、直接的な対象内容を持たない(一)ようになるか、事物(モノ)に対しては基本的に使いにくいとしている。その意味で、対象内容に「モノ」を取るA型の「ほしい」は例外的な存在となると述べている。「A-5 (モノ)」の例には「そのうち、父はテレビがほしいと言い出した」「ノリ子は靴屋の前で、靴がほしいともらした」などを挙げている。

次にB型のB-5 (モノ)の場合、感覚的な語彙が見られるとしている。これは、A型の感覚系の語彙とは別のものであると指摘している。

A 体感／温度感覚1 (内側の状態) ……臓器感覚

(ex. 暑い、寒い、眠い、痛い、眩しい)

B 味覚／温度感覚2 (外側の状態) ……皮膚感覚

(ex. 熱い、甘い、からい、臭い、苦い)

(細川1989: 23に筆者(権)が例を加えたものである)

このA・Bの区別について細川（1989）は「（略）臓器感覚と皮膚感覚という神経系統の差異に起因するものであろう。ただ、ことばの上から、話し手の内側の心の状態として表現するか対象としてのモノの外側の状態として表現するかという問題となる。しかも、Bがモノにしか用いられない点は注目してよいだろう」（p.23）と述べている。

最後にC型のC-5（モノ）の場合、この型の中の外側の状態を対象として表す典型的なタイプであるとしている。この中には「色彩」・「形状」・「性質」・「程度」のようないくつかの種類があるとしている。「色彩」の形容詞（ex. 青い、赤い）は、いわゆる「絶対的性状」を表すのに対して、「形状」・「性質」の形容詞（ex. 厚い、薄い、広い）と「程度」の形容詞（ex. 高い、安い、低い）は「相対的性状」を表すとしている。

細川（1989）は、以上のような形容詞の領域と境界との関係をまとめ、次の表2-4のように「形容詞分類案」を示している。細川（1989）は、表2-4の横軸は「外側の状態」と「内側の状態」を、縦軸は対象内容の「一／カラダ／コト／コト・モノ／モノ」の五分類を取るとし、横軸の「外側の状態」と「内側の状態」の区別は従来の属性・感情の区別と大体一致したものであると述べている。

表2-4 細川（1989）の形容詞分類案（細川1989：93の表2）
（線は、同一のグループを形成することを示す）

状態 対象	外側の状態		内側の状態
—	該当語なし		A-1 感覚（体感・温覚）/感情
カラダ			A-2 感覚（体感・温覚）
コト	C-3 人の様子・性格 -ポイ -ドイ -シイ	B-3 感情 心の動作+シイ —感覚系形容詞	A-3 感情 -シイ —感情系
コト・ モノ	C-4	B-4	A-4
モノ	C-5 色彩・形態・ 程度・・・ 名+モノ系	B-5 感覚 （温覚・味覚）	A-5 「ほしい」のみ。 A1/A2/A3に 共通する

細川（1989）はB型について「話し手の感覚・感情に基づく表現でもあり、従来の考え方からすれば、境界を跨ぐもの」（p.92）であると述べ、A5の「ほしい」はモノを取る点で例外的な語であるとしている。

表2-4で対象内容によってコト・モノ（人の状態）の外面的な様子を表すB-3・B-4と対象としてのモノの外側の状態を表すB-5の二つにさらに分類している。以上、細川（1989）は外側・内側の状態及び対象内容五類（—/カラダ/コト/コト・モノ/モノ）における分布によって、形容詞をA型、B-3・B-4型、B-5型、C型の四つに分類している。

以上、細川（1989）は、三つの指標を提示し、形容詞個々の語が各指標に該当するか否かによって形容詞の分類を行っている。本研究も細川（1989）の形容詞分類の方法に従い、分類の指標を立ててその可否によっ

て形容詞個々の語の分類を行う。細川（1989）の指標の中では指標②を用いる。

また、細川（1989）は時枝（1950）、寺村（1982）に基づき、形容詞を属性・感情と両者に跨るものに分類しているが、本研究では属性と感情に跨るものをより詳細に分類し、最終的に形容詞を七つの類型に分類する。

2.6 荒（1989）の研究

荒（1989）は従来の感情・属性による分類とは観点を異にする、時間的なありか限定が関わるかという観点から形容詞を分類したものである。荒（1989）は、形容詞が述語の位置に表れてくるとき、特定の具体的な時間に縛られる《状態》を表すか、それとも物にコンスタントに備わっている《特性》を表すかによって、形容詞を「状態形容詞」と「質形容詞」の二つに分類している。

荒（1989）は意味的なカテゴリーとしての《状態》と《特性》について、《状態》は「あたえられた時間の断片のなかで生じる、アクチュアルな現象をとらえていて、つねに特定の具体的な時間にしばられている」（p.147）ものであり、《特性》は「物にコンスタントにそなわっている、ポテンシャルな特徴をとらえている」（p.147）ものであると論じている。これに基づき状態を表現している形容詞は「状態形容詞」、特性を表している形容詞は「質形容詞」と呼んでいる。

まず「状態形容詞」に関して、荒（1989）は状態とは「特定の時間のわくのなかに生じている、アクシデンタルな、一時的な現象であって、つねに《時間のありか限定》をうけとっている」（pp.147-148）ものであるとし、人の状態と物の状態に分かれると述べている。人の状態は「嬉しい、悲しい」のように心理的な状態を表すものと「眠い、怠い」のように生理的な状態を表すものの二つのグループがあり、物の状態は「明るい、暑い」

などがあるとしている。荒（1989）は状態形容詞の格の構造やテンスの形という面からもその特徴を述べている。格構造の面で、「嬉しい、悲しい」など心理的な状態を表すものは「主体の感情的な状態をひきおこす出来事」をガ格に、「痛い、苦しい」など生理的な状態を表すものは「異常をおこしている、身体の部分」をガ格に差し出し、「明るい、暑い」など物の状態を表すものは「状態のもち主である物」をガ格で表現するとしている。テンスの面では、状態形容詞はテンスの形を備えていて、このテンスの形は時間の状況語と一緒にあって状態が存在している具体的な時間を表現すると述べている。

次に「質形容詞」に関して、荒（1989）は《特性》は色、形、大きさ、重さ、味など、物にコンスタントに備わっているものであるとし「大きい、小さい、辛い、甘い」を例として挙げている。「特性のもち主である物」は《は》の形で表現され、連体修飾語の位置にも表れるとし、質形容詞が差し出す特性は時間外的であるとしている。荒（1989）はこのような文法的な特徴の違いに基づき質形容詞と状態形容詞を区別することが大切であることを論じている。

さらに、状態形容詞と質形容詞において《特性》の表現から《状態》の表現へと、《状態》の表現から《特性》の表現へと、移行が生じてくる現象が見られることを指摘している。例えば、「日頃怒りっぽい父が妙にやさしかった。」の場合は特性の「やさしい」から状態の表現へと移行が生じ、「流行歌のメロデーはことごとく悲しい。」の場合は状態の「悲しい」から特性の表現へと移行が生じるのであり、これらは語彙的な意味の変化が生じるため行われる現象であると論じている。

ところが、「冷たい、明るい、暗い、暑い」等のような形容詞は、語彙的な意味の修正とは関係なく、形容詞が時間のありか限定を受けるか否かによって、《特性》を表したり《状態》を表したりするのであると論じている。例えば、「冷たい」の場合、「三面川の水は冷たい」は特性を表

し、「今日の三面川の水は冷たかった」は状態を表すが、「冷たい」という語の語彙的な意味は変わりがないと述べている。荒（1989）は、これらの形容詞について、「この種の形容詞を形容詞全体のなかでどのように位置づけるかは、いまの私には、結論をだすことができない。状態形容詞と質形容詞とのあいだをとりむすぶ、中間的なものとして、みなしておきたい」（pp.160-161）と述べている。

以上、荒（1989）は時間的なありか限定が関わるかによって形容詞を「状態形容詞」と「質形容詞」に分類しているが、この基準では分類しがたい語もある。荒（1989）が分類しがたい語として取り上げた「冷たい」以外にも、荒（1989）が「状態形容詞」と分類した「うるさい」は「市場はうるさい」のような文では「質形容詞」となり、「質形容詞」と分類した「辛い」は「今日のカレーは辛かった」のような文では「状態形容詞」となる。

本研究では、従来の属性・感情という形容詞の分類という立場に立ち、荒（1989）で質形容詞と状態形容詞の中間的なものとして取り上げた「暑い、寒い、冷たい、暖かい」などの位置づけを明らかにする。

2.7 樋口（1996）の研究

樋口（1996）は、荒（1989）の「状態形容詞」と「質形容詞」の分類をそのまま認めて、この分類の必要性について論じたものである。樋口（1996）も荒（1989）と同様、状態形容詞は「人や物のもとに生じてくる一時的な状態をとらえている」（p.39）ものとして扱い、質形容詞は「人や物に恒常的にそなわっている特性をとらえている」（p.39）ものとして扱っている。

一方、樋口（1996）は状態形容詞と質形容詞の二重の性格を持つ形容詞があることを指摘している。例えば「かたい」の場合、パンがかたくな

る場合「かたい」は状態形容詞として使用されていて、鉄の固有な特性をいう場合「かたい」は質形容詞として使用されているとしている。このように、自然現象としての物の特徴を指し示す形容詞は、その特徴に時間的なありか限定を与えれば状態形容詞として働き、その特徴を時間のそとに置くとすれば質形容詞として働くと述べている。

しかし、このことから状態形容詞と質形容詞の形容詞の分割が不必要であることにはならないことを強調し、この規定が成立する背後には「痛い、嬉しい」のように常に状態形容詞であるという形容詞のグループが存在して、「優しい、バカな」のように常に質形容詞であるという形容詞のグループが存在すると論じている。「あたまがいたい」とはいえなくても「あたまはいたい」とはいえないように、多くの状態形容詞は一般化を許さないとし、形容詞を「状態」を差し出すものと「特性」を差し出すものとの二つのグループに分ける必然性は十分にあると論じている。

以上、樋口（1996）は荒（1989）の「状態形容詞」と「質形容詞」という形容詞分類の必要性を論じているが、この分類では「かたい、寒い、暑い」以外にも状態形容詞と質形容詞のどちらにもなり得る語が多いため分類の有効性が薄いと思われる。例えば、樋口（1996）が常に「状態形容詞」であるものとして挙げている「まぶしい」「つらい」も、「夏の日差しはまぶしい」「避難民の立場はつらい」のような文では「質形容詞」になり得る。

2.8 山岡（2000）の研究

山岡（2000）は、形容詞文の「文機能」を記述していく上で、形容詞述語と「文機能」との相関関係に基づいて形容詞を分類している。山岡（2000）は文機能とは「文型式そのものの機能である」とし、〈遂行〉〈意思表示〉〈感情表出〉〈命令〉〈事象描写〉〈状態描写〉〈属性叙

述) 〈関係叙述〉の八種類に分類している。このうち、形容詞文と関係する文機能として〈感情表出〉〈属性叙述〉〈関係叙述〉〈状態描写〉の四つを扱っている。それぞれの例をまとめると次の図2-3のようになる。

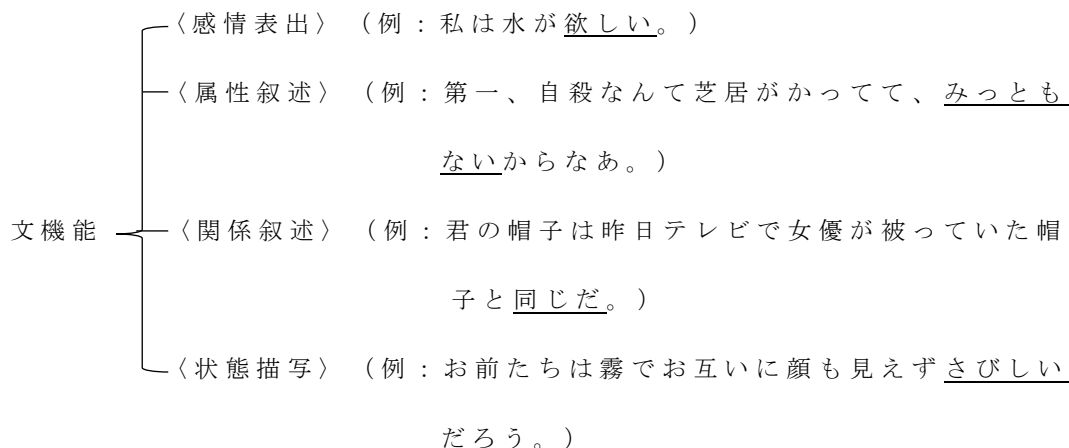


図2-3 山岡(2000)の形容詞に関する文機能

まず〈感情表出〉は、「私は水が欲しい。」のように「話者の現在の感情状態(情意・感覚・思考など)を直接に言語化する機能」(p.86)であるとしている。

次に〈属性叙述〉は、「第一、自殺なんて芝居がかってて、みっともないからなあ。」のように「名詞的概念を表す主題に、属性概念を表す命題を結びつけることによって行う叙述のこと」(p.101)であるとしている。

続いて〈関係叙述〉は、「君の帽子は昨日テレビで女優が被っていた帽子と同じだ。」のように「二つの名詞的概念を結びつける文機能」(p.101)であるとしている。

最後に〈状態描写〉は、「お前たちは霧でお互いに顔も見えずさびしいだろう。」のように「客観世界の状態をそのまま話者が言語に写像する文機能」(p.97)であるとしている。

山岡（2000）は文機能論的な形容詞分類について「基本的には、感情形容詞と属性形容詞の二分類に依拠しているが、草薙（1977）、寺村（1982）が行っている文機能論的な発想を理論的に徹底した結果、そこに荒（1989）における状態形容詞と質形容詞の二分類の考え方を取り入れることとなった。その際、分類の手法として細川（1989）を参考にしている」（p.126）と述べ、次の四つの指標を示している¹¹。

指標 A 第1人称名詞句を主題として、〈感情表出〉文を作ることが可能か。

指標 A は、形容詞を感情形容詞とそうでないものに分けるものであり、可となるものはすべて「感情形容詞」としている。山岡（2000）は、〈感情表出〉文の述語として用いることのできる形容詞が「感情形容詞」であるとし、指標 A が可となるものに「こわい、うれしい、憎い、痛い」などを挙げている。一方で、「痛々しい」は「?私は痛々しい」のように、自分の感情ではなく他人が自分を見てこう見えるだろうということをも他人事のように描写している文となるため、不可であるとしている。

(2-4) A○ 感情形容詞（こわい、うれしい、憎い、痛い、……）

A× ?

（山岡2000：127の（1））

これに関して本研究では、指標 A は判断が恣意的になる恐れがあると考えられる。例えば、「忙しい」「清々しい」の場合、山岡（2000）は指標

¹¹ 指標 A は細川（1989）の指標①（「『わたしは～い』の形で、『わたし』の心の様子を表すことが可能か。」）を山岡（2000）の文機能論の立場に沿って改めたものであり、指標 A2 は細川（1989）の指標③（「対象内容としてモノ・コト・カラダ（話し手自身の身体部位）のどれをとるか。」）の一部分と相当するものであるとしている。指標 B と B2 は山岡（2000）独自のものであるとしている。

Aが可であると判断しているが、細川（1989）は指標①（「『わたしは～い』の形で、『わたし』の心の様子を表すことが可能か。」）で不可であると判断している。両者とも同じ指標であるが、形容詞の意味をどのように捉えるかによって判断が分かれたと思われる。「心の様子」を表すかという判断は主観性が高いため、判断が恣意的になる恐れがある。本研究では指標Aを形容詞分類の指標として用いない。

指標A2 話し手の肉体部分を経験者格として構文中に言語化し得るか。

指標A2は、感情形容詞を下位分類するものであり、可となるもの（例：痛い、重い、かゆい）を「感覚形容詞」と、不可となるもの（例：こわい、うれしい、憎い）を「情意形容詞」としている。山岡（2000）は属性形容詞文、感情形容詞文を問わず、ガ格の意味格を対象格(Ob)としているが、感覚形容詞文のガ格は「私(Ex)は脚(Ex)が痛い」の「脚(Ex)が」のように「経験者格」としている。「痛い」の別の例の「私は手が痛い」の場合も、意味格を表示すると「私(Ex)は手(Ex)が痛い」のようになり、意味構造としては一つの名詞句（私の手）を経験者格としている。

(2-5) A○A2○ 感情形容詞—感覚形容詞

(痛い、重い、かゆい、……)

A○A2× // 情意形容詞

(こわい、うれしい、憎い、……)

(山岡2000:127の(2))

これに関して本研究では、形容詞述語文の基本文型における補語と述語との格関係を主な考察対象としないため、指標A2は用いない。

指標 B 名詞句を主題として、超時的〈叙述〉文を作ることが可能か。

指標 B は、〈属性叙述〉になり得るかを見るものである。(2-6) で指標 A が可、A2 が不可である「情意形容詞」は指標 B の可否によって「属性的情意形容詞」と「状態的情意形容詞」に分かれていて、(2-7) で指標 A が不可である形容詞は指標 B の可否によって「叙述形容詞」と「描写形容詞」に分かれている。

(2-6) A ○ A2 × B ○ 感情形容詞—情意形容詞—属性的情意形容詞
(かわいい、こわい、……)

A ○ A2 × B × " — " — 状態的情意形容詞
(いとしい、恋しい、……)

(2-7) A × B ○ 叙述形容詞 (明るい、等しい、……)

A × B × 描写形容詞 (痛々しい、有頂天だ、……)

(山岡2000: 129の(5)の一部であり、例(2-6)の形容詞の例は筆者
(権)が加筆)

まず(2-6)で「情意形容詞」に指標 B を適用させる例を見る。例えば、「恐ろしい」の場合、「あの男は恐ろしい」のように「あの男」を主題化した〈叙述〉文を作ることが可能であるが、「恨めしい」の場合は「あの男は恨めしい」のように主題「あの男」に対比の意味が生じ、背後に第一人称経験者格が依然として含意され〈叙述〉文を作ることが不可能であるとしている。情意形容詞のうち指標 B が可となる語は「恐ろしい」以外に「かわいい、いじらしい、忌まわしい、うっとうしい」などがあり、これらを「属性的情意形容詞」としている。一方、情意形容詞のうち指標 B が不可となる語は「恨めしい」以外に「いとしい、うらやましい、恋しい、心細い」などがあり、これらを「状態的情意形容詞」としている。

次に(2-7)でAが不可である形容詞に指標Bを適用させる例を見る。例えば、「青い」の場合、「空は青い」のように「空」を主題化した〈叙述〉文を作ることが可能であるが、「痛々しい」の場合、「あの犬の姿は痛々しいね」は主題「あの犬」の〈叙述〉にならず〈状態描写〉のままであるとしている。

これに関して本研究では、指標Bは判断が恣意的になる恐れがあると考えられる。山岡(2000)は「恨めしい」の場合、「あの男は恨めしい」のように名詞句を主題化した〈叙述〉文を作ることが不可能であるとしているが、「敵は恨めしい」は「敵」を主題化した〈叙述〉文として捉えられると考える。また、「恨めしい」以外に「愛しい」「心細い」なども「わが子は愛しい」「一人旅は心細い」のように文脈によれば主題化された名詞句の〈叙述〉文として捉えられると考える。このように、指標Bは文脈の設定によって判断が分かれ得るため、判断が恣意的になりやすい。本研究では指標Bを形容詞分類の指標として用いない。

指標B2 2項以上の必須格名詞句があるか。

指標B2は、叙述形容詞を下位分類するものであり、可となるもの(例:等しい、そっくりだ、同一だ)を「関係形容詞」に、不可となるもの(例:明るい、潔い、幼い)を「情意形容詞」にしている。これに関して山岡(2000)は、「関係形容詞の定義的特徴は必ず二項以上の名詞句を含む〈関係叙述〉文を作ることである。したがって、B2が○ならば関係形容詞である。属性形容詞にも二項を取るものがあるが、いかなる場合でも絶対に二項が必要なものは属性形容詞の中にはない」(p.128)と述べている。

(2-8) A × B ○ B2○ 叙述形容詞—関係形容詞

(等しい、そっくりだ、……)

A × B ○ B2× // 一属性形容詞

(明るい、潔い、幼い、……)

(山岡2000 : 128の(4))

指標B2に関して、「同じだ」と「青い」を例で見る。まず「同じだ」の場合、「がんもどきとひろうすは同じだ」のように「がんもどき」と「ひろうす」のように二つの名詞句が必須要素であり指標B2が可となるが、「青い」の場合、「空は青い」のように二つの名詞句が必須要素でないため指標B2が不可となるとしている。

これに関して本研究では、指標B2は〈叙述〉という文機能を項の特徴から〈属性叙述〉と〈関係叙述〉に分類する指標として意義があると考えられる。しかし、〈属性叙述〉〈関係叙述〉という文機能の違いは本研究の主眼点でないため、指標B2は本研究の指標として用いない。

これらの指標によって、山岡(2000)は形容詞を大きく「感情形容詞」「叙述形容詞」「描写形容詞」の三つに分類し、さらに「感情形容詞」を「感覚形容詞」「情意形容詞」の二つと「叙述形容詞」を「関係形容詞」「属性形容詞」の二つに分類し、このうち「情意形容詞」は「属性的情意形容詞」「状態的情意形容詞」の二つに下位分類し、合計六つに細分している。山岡(2000)の六つの形容詞の分類をまとめると図2-4のようになる。

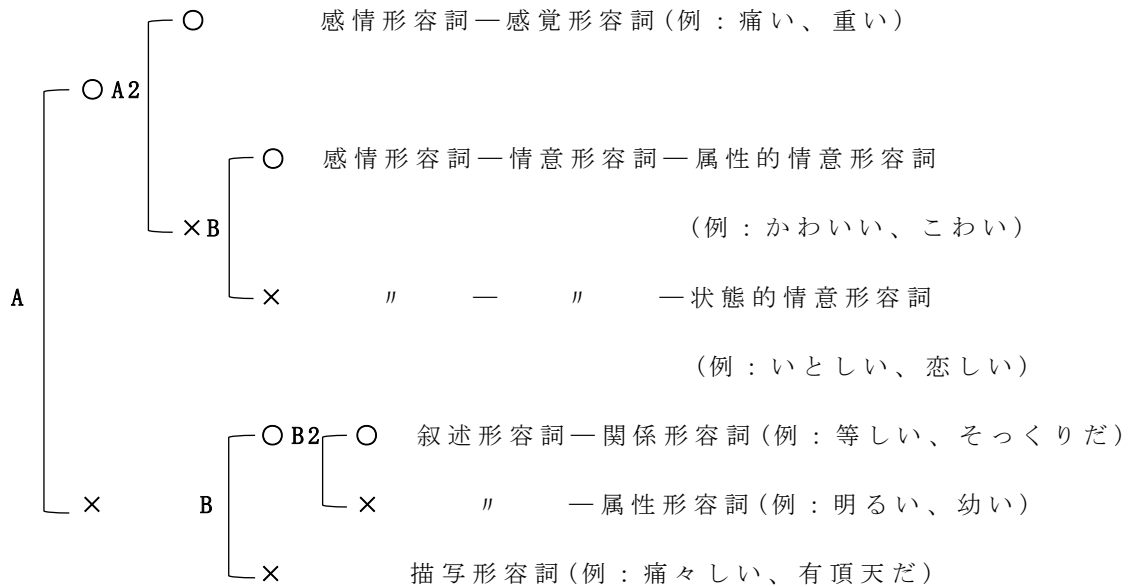


図2-4 山岡（2000）の形容詞分類（山岡2000：129の（5））¹²

以上、山岡（2000）は文機能に着目した四つの指標を用い、形容詞を大きく「感情形容詞」「叙述形容詞」「描写形容詞」の三つに分類している。山岡（2000）は指標B（「名詞句を主題として、超時的〈叙述〉文を作ることが可能か。」）を提示し、「情意形容詞」をより属性的な「属性的情意形容詞」とより感情的な「状態的情意形容詞」に下位分類している点が特徴的である。本研究も山岡（2000）と同様、形容詞を属性と感情の連続体として捉えてその連続性を分類することを試みる。

しかし、先にも述べたように指標Aと指標Bは恣意的な分類に陥りやすく、本研究ではより客観的な指標を示し形容詞の分類を行う。

¹² 線と形容詞の語例の一部は筆者（権）が付け加えたものである。

2.9 村上（2017）の研究

村上（2017）は、細川（1989）と山岡（2000）の指標の問題点を指摘しながら、新たな形容詞分類の指標の必要性について主張している。細川（1989）と山岡（2000）は、感情形容詞と属性形容詞を分類する指標として「私は～い。」という非過去・言い切りの形で話者の「心の様子」を表すことが可能であるか¹³を用いているが、村上（2017）はこれについて「この指標は、「うれしい」等、はっきりと判断できる語がある一方で、判断が難しい場合も多い」（p. 59）ことを指摘している。例えば、「うるさい」「すみにくい」は、細川（1989）では「私は～い。」で言えると言われているが、「私は、うるさい」「私は、（この街には）すみにくい」は「他の人はうるさいと感じないが、私はうるさいと感じる」「他の人はすみにくいと感じないが、私はすみにくいと感じる」という対比的な文脈では可能であるが、「心の様子」ではないようであると述べている。そこで、村上（2017）は様態のソウダを用いた「第三者は、～そうだ。」を分類の指標に示し、この指標を用いることによって「私は、～い。」で判断が難しい語も分類することができると述べている。

村上（2017）はソウダによる分類の前提として、分類に用いるソウダに二つの解釈があることを述べている。村上（2017）はソウダの解釈の異なる例として（2-9）と（2-10）を挙げている。

（2-9） 花子は、うれしそうだ。

（2-10） 花子は、かしこそうだ。

（村上2017：63の（12）（13））

¹³ 細川（1989）は「『わたしは～い。』の形で、「わたし」の心の様子を表すことが可能か。」（指標①）を、山岡（2000）は「第1人称名詞句を主題として、〈感情表出〉文を作ることが可能か。」（指標A）を指標として提示している。

(2-9) は、話者が花子の様子から「花子は、うれしいという「感情」を持っているように見える」と述べているのに対し、(2-10) は、花子の様子や外見・その他の情報から「花子がかしこいという「属性」を持っているように見える」と述べているのであるとしている。(2-9) と (2-10) で話者が推し量っている内容を [] に入れると、(2-11) と (2-12) のようになるとし、「うれしい」は (2-11b) のように思考動詞「感じる」を [] の中に入れることができるが、「かしこい」は思考動詞を [] の中に入れられず (2-12b) のような解釈になると述べている。

(2-11) a. 花子は、うれしそうだ。

b. [花子は、うれしいと感じている] ように見える

(2-12) a. 花子は、かしこそうだ。

b. [花子は、かしこい] ように見える

c. ~~[花子は、かしこいと感じている] ように見える~~

(村上2017: 63-64の (14) (15))

村上 (2017) はソウダの二つの解釈のうち、「感情や感覚が経験者の外見に現れた様子を述べる」と解釈されるものを [内部ソウダ] と呼び、「対象がある属性を持っているような様子であることを述べる」と解釈されるものを [外部ソウダ] と呼んでいる。村上 (2017) は、「形容詞+ソウダ」が [内部ソウダ] と [外部ソウダ] のうちのどちらに解釈されるかについて、終止用法、副詞用法、連体用法のそれぞれにおいて見て、これを形容詞分類の指標としている。それぞれの指標は次の通りである。

指標1：終止用法

「花子は、～そうだ（だった）」が〔内部ソウダ〕として適格文になる。

指標2：副詞用法

「花子は、～そうに～する（した）」が〔内部ソウダ〕として適格文になる。

指標3：連体用法

「～そうな名詞」が〔内部ソウダ〕にしかならず、〔外部ソウダ〕にならない。

（村上2017：66）

指標1は「当該の形容詞が、他者の感情や感覚を話者が直接述べられないものとして表せるかを見るもので、感情形容詞の人称制限の有無を見るもの」（p.66）であり、指標1を満たす語を感情形容詞、満たさない語を属性形容詞であると認定している。

指標2は「当該の形容詞が、副詞句として、他者の感情や感覚を話者が直接述べられないものとして表せるかを見るもの」（p.66）であり、指標1を満たす語はすべて指標2を満たすとしている。ただし、指標1を満たさない語のうち指標2を満たす語があり、それは属性形容詞でもやや感情形容詞寄りのものとして扱っている。

指標3は「感情を表し得る形容詞を、より経験者の感情を表すことを志向する語と、そうでない語を分ける」（p.66）ものであり、指標1・2を満たす語を指標3が満たすかどうかにより、典型的な感情形容詞とやや属性形容詞寄りのものに分類している。

このようにして形容詞は表2-5のようにA～Dの四つの群に分類されるとし、A群とB群は感情形容詞でA群は「より経験者の感情を表すことを志向する語」、B群は「経験者の感情だけでなく対象の状態を表すことをも志

向する語」であり、D群は「典型的な属性形容詞」、C群は「属性形容詞ではあるものの副詞句として用いられた場合に感情を表す語」であると定義している。

その結果、村上（2017）は四つの分類に該当する形容詞を表2-5のように指標1～3の可否とともに示している。

表2-5 形容詞分類の概略（村上2017：67の表1）

	語例	指標1 終止用法で [内部ソウダ] になる	指標2 副詞用法で [内部ソウダ] になる	指標3 連体用法で [内部ソウダ] にしかない
A	悲しい	○	○	○
B	寒い	○	○	×
C	うるさい	×	○	
D	明るい	×	×	

ここからは、各形容詞グループの例を挙げ、村上（2017）が各指標をどのように判断して分類を行っているかを見ていく。

A群（例：「悲しい」）

A群は指標1～3の三つとも成り立つものであるとしている。

(2-13) 花子は、悲しそうだ¹⁴。

[花子は、悲しいと感じている] ように見える。

〈指標1…○〉

(2-14) 花子は、悲しそうにうつむいた。

花子は [花子が悲しいと感じているように見えるやりかたで]
うつむいた。

〈指標2…○〉

(2-15) a. 悲しそうな 顔／声／様子／目

¹⁴ (2-13) ～ (2-22) の下線は筆者（権）によるものである。

[悲しいと感じているよう見える] 顔／声／様子／目

b. *悲しそうな 知らせ／ニュース／映画

[悲しいと感じさせる属性を持っているように見える] 知

らせ／ニュース／映画 〈指標3…○〉

(村上2017: 8-9の(31)～(33))

まず(2-13)では終止用法の「悲しそうだ」は[内部ソウダ]と解釈されて指標1を満たし、「悲しい」は感情形容詞と認定されている。次に(2-14)では副詞用法の「悲しそうに」も[内部ソウダ]と解釈されて指標2を満たすとしている。続いて(2-15)では(2-15a)の連体用法「悲しそう顔／声／様子／目」は[内部ソウダ]と解釈されるが(2-15b)の「悲しそう知らせ／ニュース／映画」は不適格で外部ソウダにならないとしている。このように、「悲しい」は連体用法では[内部ソウダ]にしかならず指標3を満たし、A群の形容詞と認定されている。

B群(例:「寒い」)

B群は指標1、2は成り立つが指標3は成り立たないものであるとしている。

(2-16) 花子は、寒そうだ。

[花子は寒いと感じている] ように見える。〈指標1…○〉

(2-17) 花子は、寒そうに手をこすった。

花子は[花子が寒いと感じているように見えるやり方で]手をこすった。〈指標2…○〉

(2-18) a. 寒そうな 様子／そぶり

[寒いと感じているように見える] 様子／そぶり

b. 寒そうな 部屋／服装

では副詞用法の「うるさそうに」は〔内部ソウダ〕と解釈されて指標2を満たすとされている。このように「うるさい」は属性形容詞と認定されるが副詞用法では内部ソウダと解釈されるため、属性形容詞でもやや感情形容詞寄りのC群と認定されている。

D群（例：「明るい」）

D群は指標1も2も成り立たないものであるとしている。

(2-21) 花子は、明るそうだ。

~~〔花子は明るいと感じている〕~~ ように見える。

〔花子は明るい人間である〕 ように見える。〈指標1…×〉

(2-22) ?花子は、明るそうに挨拶した。

cf. 花子は、明るく挨拶した。 〈指標2…×〉

(村上2017：10-11の(39) (40))

まず(2-21)では終止用法の「明るそうだ」は〔外部ソウダ〕の解釈となり指標1を満たさず、属性形容詞と認定されている。次に(2-22)では副詞用法の「明るそうに」は文がそもそも不自然であり、指標2も満たさないと判断されている。このことから「明るい」は典型的な属性形容詞のD群と認定されている。

上記の内容を村上(2017)は表2-6のようにまとめている。

表2-6 村上（2017）の形容詞の分類のまとめ（村上2017：80の表3を修正）

	指標1 終止用法 [内部ソウ ダ]になる	指標2 副詞用法 [内部ソウ ダ]になる	指標3 連体用法 [内部ソウ ダ]にしか ならない	語例	形容詞分類	
A	○	○	○	悲しい 残念な	感情形容詞	典型的な感情形容詞 より経験者の状態を述べることを志向する
B	○	○	×	寒い 快適な		対象の状態を述べることをも志向する
C	×	○	/	うるさい 気の毒な	属性形容詞	副詞句としてある限定された時間における動きの行われ方を表すことにより感情を表す
D	×	×		明るい 静かな		典型的な属性形容詞

以上、村上（2017）は三つの指標を用いて形容詞を典型的な感情形容詞から典型的な属性形容詞まで段階的にA～Dの四つに分類している。A群は典型的な感情形容詞で、D群は典型的な属性形容詞であり、B群は連体用法で「寒そうな部屋」「寒そうな服装」などモノの属性を表せる点でやや属性的な感情形容詞に、C群は連用用法で「うるさそうに耳をふさいだ」のように主体の感情を表せる点でやや感情的な属性形容詞に分類されている。本研究も形容詞を属性と感情の連続体として捉えて、分類の指標を用いて形容詞をより感情的なものより属性的なものに分類する点で村上（2017）と同様である。

しかし、村上（2017）が用いた指標に関しては、その判断が恣意的になる恐れがあるという問題点が指摘できる。例えば、村上（2017）が「わたしは～い。」で判断が難しい例として挙げた「うるさい」の場合、「花子は～そうだ。」においてもそうであることが指摘できる。村上（2017）は「花子は、うるさそうだ」について、「「花子は、うるさいと感じている」ように見える」という解釈は不自然で、「「花子は、大声で話す迷惑

な人間であるように見える」という解釈が可能であるとしている。「花子は、うるさそうだ」を「「花子は、うるさいと感じている」ように見える」のように解釈するには、「花子はうるさそうにしていた」のように副詞句にしなければならないと述べている。

しかし、花子が耳を両手でふさいで顔をしかめている文脈で「花子は、うるさそうだ」と言ったとすると、これは「「花子は、うるさいと感じている」ように見える」という意味に解釈できる。

2.10 まとめと本研究の分類

以上、2.1節から2.9節まで形容詞の分類について論じた先行研究を概観した。これらを整理すると次のようになる。

①分類の観点

先行研究の分類の観点は大きく三つに分けられる。一つ目は、形容詞の文型など文法現象に基づき形容詞を大きく主観的な語（感情形容詞）と客観的な語（属性形容詞）の二つに分類したものであり、時枝（1950）、西尾（1972）、細川（1989）、村上（2017）が挙げられる。二つ目は、形容詞文全体の機能的な意味（感情表出、属性規定、状態描写…）から形容詞を感情表現（感情形容詞）と性状規定（叙述形容詞）に分類したものであり、草薙（1977）、寺村（1982）、山岡（2000）が挙げられる。三つ目は、形容詞が一時的な状態を表すか通常的な特性を表すかという時間的限定から形容詞を状態形容詞と質形容詞に分類したものであり、荒（1989）、樋口（1996）が挙げられる。これらをまとめると表2-7のようになる。

表2-7 形容詞分類の立場による先行研究の分類

分類の立場	先行研究
文法的な特徴からの分類 (主観・客観／感情・属性)	時枝(1950)、西尾(1972)、細川(1989)、 村上(2017)
文の機能的な意味からの分類 (感情表現・性状規定)	草薙(1977)、寺村(1982)、山岡(2000)
時間的な限定からの分類 (状態形容詞・質形容詞)	荒(1989)、樋口(1996)

本研究ではこのうち時枝(1950)、西尾(1972)、細川(1989)、村上(2017)と同様に、形容詞を取り巻く構文の特徴を指標として用いる。また、細川(1989)と村上(2017)と同様に、複数の指標を用いてその可否を合わせて総合的に判断することで、形容詞を多様な側面から分類し特徴づける。

以上の分類の観点から行われた形容詞の分類は、次の表2-8のようにまとめられる。表2-8で時枝(1950)、西尾(1972)、草薙(1977)、寺村(1982)、細川(1989)、山岡(2000)、村上(2017)は形容詞を大きく主観的なもの(感情)と客観的なもの(属性)に分けていて、荒(1989)、樋口(1996)は形容詞を大きく〈状態〉を表すものと〈質〉を表すものに分けている。さらに、本研究の形容詞の七つの類型も加えた。線は完全な一致を意味するものでなく、大体の一致を表す。

表2-8 先行研究における形容詞分類のまとめ

	形容詞の分類		
	〈感情／主観〉		〈属性／客観〉
時枝 (1950)	「主観的表現の語」 (例：恨めしい、恋しい、懐かしい、望ましい、欲しい)	「主観客観の総合的表現の語」 (例：暑い、怖い、寂しい、すごい、憎らしい)	「客観的表現の語」 (例：赤い、堅い、高い、激しい)
西尾 (1972)	「感情形容詞」 (例：恨めしい、恋しい、懐かしい、欲しい)	(感情と属性の両方をもつ語) (例：暑い、おかしい、可愛い、怖い、寂しい、憎らしい)	「属性形容詞」 (例：赤い、堅い、すごい、高い、望ましい)
草薙 (1977)	「感情形容表現」 (例：嬉しい、欲しい)		「観察形容表現」 (例：大きい、赤い、面白い)
	「感覚形容表現」 (例：痛い、眠い)		
	「嗜好形容表現」 (例：好きだ、嫌いだ)		
寺村 (1982)	「感情の直接表現」 (例：嬉しい、寂しい、怖い、好きだ、嫌いだ)	「感情的品定め表現」 (例：怖い、恐ろしい)	「性状規定」 (例：大きい、赤い、反対だ)
細川 (1989)	A型 (例：暖かい、暑い、恨めしい、うるさい、恋しい、懐かしい、憎らしい、眩しい)	B-3、B-4型 (例：おかしい、忙しい、疑わしい、汚らしい、心強い、清々しい、珍しい)	C型 (例：赤い、堅い、すごい、高い、望ましい、激しい)
		B-5型 (例：温かい、熱い、甘い、酸っぱい)	
山岡 (2000)	「状態的情意形容詞」 (例：いとしい、恋しい、羨ましい)	「属性的情意形容詞」 (例：恐ろしい、可愛い、怖い)	「属性形容詞」 (例：大きい、赤い、美しい)
	「感覚形容詞」 (例：痛い、痒い)		「関係形容詞」 (例：反対だ、同じだ)
村上 (2017)	A群 (例：恋しい、心強い、懐かしい、欲しい)	B群 (例：暑い、熱い、忙しい、怖い、清々しい、憎らしい、眩しい)	D群 (例：赤い、堅い、すごい、高い、望ましい、はげしい)
		C群 (例：うるさい、汚らしい、酸っぱい、珍しい)	
	〈状態〉		〈質〉
荒 (1989)	「状態形容詞」 (例：嬉しい、悲しい、痛い、怠い)	(例：冷たい、明るい、暑い)	「質形容詞」 (例：大きい、小さい、辛い、甘い、やさしい)
樋口 (1996)	「状態形容詞」	(例：かたい、寒い、暑い)	「質形容詞」

	(例：嬉しい、つらい、痛い、痒い、そっけない、よそよそしい)						(例：優しい、意地悪だ、利口だ、バカだ)
本研究	① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類

本研究は、時枝（1950）、西尾（1972）、寺村（1982）、細川（1989）、山岡（2000）、村上（2017）に続き形容詞の属性・感情の二種の分類を認めた上で、感情度の高いものから属性度の高いものまで、「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類、「赤い」類という七つの分類を示す。

②分類の指標

形容詞分類のための指標を明示的に示した研究には、西尾（1972）、細川（1989）、山岡（2000）、村上（2017）が挙げられる。西尾（1972）、細川（1989）、村上（2017）は感情形容詞の主語の制約や対象語の内容に関わるものを、山岡（2000）は「感情表出」「属性規定」のような文機能や格構造に関わるものを中心に示している。これらをまとめると表2-9のようになる。

表2-9 先行研究の形容詞分類の指標

		西尾 (1972)	細川 (1989)	山岡 (2000)	村上 (2017)
感情形容詞の主語の制約	主語が一人称	環境Ⅱ (わたしは)～い(だ)。話し手の感情・感覚	指標① 「わたしは～い。」の形で、「わたし」の心の様子を表すことが可能か。	指標A 第1人称名詞句を主題として、＜感情表出＞文を作ることが可能か。	
	主語が一人称以外	環境Ⅲ {あなた／あの人}は～い。第二(三)人称者の感情(覚) 環境Ⅳ {あなた／あの人}は～そうだ。感情(覚)の表れた様子 環境Ⅰ ～がる			指標1 終止用法で [内部ソウダ]になる 指標2 副詞用法で [内部ソウダ]になる 指標3 連体用法で [内部ソウダ]にしかない
対象語の特徴	対象語の内容	環境Ⅴ 《対象＝モノ》が～い(だ) 環境Ⅵ 《対象＝人》が～い(だ) 環境Ⅶ 《対象＝コト》が～い(だ) 環境Ⅷ ～い(な)こと ＜内容＞	指標③ 対象内容としてモノ・コト・カラダ(話し手自身の身体部位)のどれをとるか。	指標A2 話し手の肉體部分を経験者格として構文中に言語化し得るか。	
	格の数			指標B2 2項以上の必須格名詞句があるか。	
感情感覚に関わる形式が付くか		環境Ⅹ ～くて(で)たまらない	指標② 「わたしは～てたまらない／～でならない」が可能か。		
文機能	感情表出			指標A	
	属性叙述			指標B 名詞句を主題として、超時的＜叙述＞文を作ることが可能か。	

先行研究では、感情形容詞の主語の制約に関するもの（西尾1972、細川1989、山岡2000、村上2017）、対象語の内容に関するもの（西尾1972、細川1989、山岡2000）、「～てならない／たまらない」のような表現が付くかというもの（西尾1972、細川1989）が形容詞を分類する指標として用いられている。先行研究での指標は、主に人称制限や対象語の特徴に関するものに集中していて、人称制限に関する指標の場合、判断が恣意的になる恐れがある問題点があった。また、「～てならない／たまらない」の場合、この指標と形容詞の特徴の関連性については特に説明されていない。

以上を踏まえて、本研究では表2-10のような分類の指標を用いる。本研究で用いる指標は「～てならない／たまらない／しかたがない」構文、他動詞・使役構文「XガYヲ～クスル／サセル」、比較構文「XガYヨリ～い」、程度副詞と共起する構文の大きく四つであり、これらは形容詞を入れて成り立つか否かを見る点で客観的である。自発性・コントロール性や比較の特徴という面から属性と感情を見ている点で先行研究とは区別される。これらの四つの指標の内容や共起する形容詞については第3章～第6章で論じる。

表2-10 本研究の分類指標と形容詞の分類案

成り立つか否か		① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱 い」類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類			
章	指標										
3章	自発性	～てならない		○	○	○	×	×	×	×	
		～てたまらない		○	○	○	○	△	×	×	
		～てしかたがない		○	○	○	○	○	△	×	
4章	コントロール性	スクスル	有情物		×	×	○	○	○	○	○
			有情物の部分	心	×	△	○	○	○	○	○
				カラダ	×	×	△	○	○	○	○
			非情物	コト	×	×	○	○	○	○	○
				モノ	×	×	×	○	○	○	○
			スクサセル	有情物		×	○	○	○	○	○
		有情物の部分		心	×	○	○	○	○	○	×
				カラダ	×	×	×	○	○	○	○
		非情物		コト	×	×	○	○	○	○	○
				モノ	×	×	×	○	△	△	×
		5章		人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い		×	×	△	△	○	○
			モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い		×	△	○	○	○	○	○
コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い			×	○	○	○	○	○	○		
6章	非常に～い		○	○	○	○	○	○	○		
	とても～い		○	○	○	○	○	○	○		
	かなり～い		○	○	○	○	○	○	○		
	ちょっと～い		○	○	○	○	○	○	○		
	少し～い		○	○	○	○	○	○	○		
	やや～い		○	○	○	○	○	○	○		
	相当～い		○	○	○	○	○	○	○		
	大変～い		○	○	○	○	○	○	×		
	なかなか～い		×	×	○	○	○	○	×		
	だいぶ～い		×	×	○	○	○	○	○		
ずいぶん～い		×	×	△	○	○	○	×			

第3章 「～てならない／たまらない／しかたがない」

3.1 はじめに

本章では、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」に前接する語の違いを見ることによって、形容詞を分類することを主張する。従来、これらは感情・感覚を表す動詞・形容詞が付いて、その程度が甚だしいことを表すものであるとされている。

先行研究で、西尾（1972）と細川（1989）は「～てならない」と「～てたまらない」を形容詞を分類する指標とし、成り立つものを感情形容詞、成り立たないものを属性形容詞と大きく二分している¹⁵。しかし、これらの表現の違いによって形容詞はさらに細かく分けられる。また、細川（1989）は「～てならない」と「～てたまらない」を同じもののよう扱っているが、それぞれと共起する形容詞には違いがありその違いを詳細に見る必要がある。

本研究では、形容詞には感情度の高いものと属性度の高いもののように段階があると考え、が、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」はその段階を分けるに使われる。各表現が共起する形容詞の違いと本研究における形容詞の七分類との関連性を示すと表3-1のようになる。

¹⁵ 西尾（1972）は、環境X「～くて（で）たまらない」という指標を、細川（1989）は、指標②「『わたしは～てたまらない／～てならない』が可能か。」という指標を示している。

表3-1 「～てならない／たまらない／しかたがない」と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を 表す	評価を 表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
～てならない	○	○	○	×	×	×	×
～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×
～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×

表3-1を見ると、全体的に三つの表現は、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類のように感情度の高い形容詞と共起し、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞とは共起できない点で共通している。しかし、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類においては違いが見られる。

このように、三つの表現では形容詞と共起する範囲に違いがある。本研究ではこれに基づき、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」を形容詞の分類の一つとし、形容詞を五つの段階に分ける。さらに、他の章と合わせて最終的に形容詞を七つに分類する。

3.1節では本章の構成と主張の要点について述べて、3.2節では「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」の先行研究について概観する。続いて3.3節では検索エンジンgooを用いた調査の概要について説明し、3.4節ではその検索結果に基づき「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」と共起する形容詞の特徴を述べる。最後に3.5節ではここまでの内容をまとめる。

3.2 先行研究

本節では「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」について論じられている杉村（2007）について概観し、先行研究を踏まえて本章の課題を提示する。

杉村（2007）は、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」を対象に、検索エンジンgooを使用したインターネット検索及び日本語母語話者へのアンケートを基に、共起する形容詞と動詞の特徴を調査し、三つの表現の違いを論じている。

杉村（2007）は調査対象として動詞と形容詞の72語を挙げているが、それらは次のとおりである。

《動詞（45語）》

心理動詞A（気がする、気になる、気がつく、感じる、感じられる、案じられる、期待される、想像される）、心理動詞B（焦る、慌てる、忘れる、諦める、感動する）、思考動詞（思う、思える、思われる、思いつく、考える、考えられる、考えつく、分かる、分からない）、生理動詞（喉が渇く、腹が減る）、知覚・感覚動詞（見る、見える、聞く、聞こえる、におう、かおる、味がする、痛む）、感情動詞（腹が立つ、怒る、怒れる、笑う、笑える、泣く、泣ける）、動作・変化動詞（食べる、寝る、起こる、沸く）、受身動詞（間違われる、聞かれる）

《形容詞（27語）》

感情形容詞（寂しい、うれしい、恐ろしい、怖い、楽しい、残念だ、嫌だ、嫌いだ、好きだ）、感覚形容詞（うるさい、苦しい、痛い、冷たい、暑い、寒い、暖かい、涼しい）、味覚形容詞（おいしい、まず

い、甘い、^{から}辛い)、属性形容詞(広い、狭い、物価が高い、赤い、静かだ、元気だ)

以上の72語に対して、杉村(2007)はgooのウェブ検索を使用して、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」とのヒット数を調査している。実施期間は2006年6月3日から4日までであり、検索の対象とした形は次の通りである。

- ・「～てならない」「～てなんない」「～てならなかった」「～てならなく」「～てならなけれ」「～てならず」「～てならぬ」「～てならん」「～てならねえ」「～てなんねえ」「～てなりません」
- ・「～てたまらない」「～てたまんない」「～てたまらなかった」「～てたまらなく」「～てたまらなけれ」「～てたまらず」「～てたまらぬ」「～てたまらん」「～てたまらねえ」「～てたまんねえ」「～てたまりません」
- ・「～てしかたがない」「～てしかたがなかった」「～てしかたがなく」「～てしかたがなけれ」「～てしかたがねえ」「～てしかたがありません」(それぞれ「しかたがない」「しかたない」「仕方がない」「仕方ない」「しょうがない」の形を検索)

また、杉村(2007)は日本語母語話者と上級日本語学習者(中国語母語話者)に○・×の二択の文法性判断テストを行っている。母語話者へのアンケート調査の実施期間は2004年11月18日から2005年7月13日にかけてであり、回答者は「～てならない」は58人、「～てたまらない」と「～てしかたがない」は50人である。テストは次の通りである。

質問 次の表現が正しいと思う場合は○を、正しくないと思う場合は×を入れて下さい。

- () 諦めてならない () 味がしてならない () 焦ってならない
 () 慌ててならない () 案じられてならない () 痛んでならない
 () 静かでならない () 残念でならない () 好きでならない

(杉村 2007 : 6)

杉村 (2007) は上のアンケートで母語話者の許容度の高いものを10例ずつ抽出し、それをコーパス調査のヒット数と比較して、表3-2のように示している。

表3-2 アンケートにおいて母語話者の許容度の高い表現上位10例

(左は母語話者の許容度、右はコーパスのヒット数)

	～てならない			～てたまらない			～てしかたがない		
1	気がして	91.4%	86,339	寂しくて	98.0%	2,550	気になって	100.0%	232,052
2	思えて	89.7%	86,465	暑くて	98.0%	7,250	腹が立って	98.0%	6,168
3	寂しくて	84.5%	319	寒くて	96.0%	3,988	喉が渴いて	94.0%	829
4	残念で	84.5%	85,447	痛くて	96.0%	12,779	うれしくて	92.0%	5,339
5	喉が渴いて	81.0%	10	うるさくて	96.0%	1,098	寂しくて	90.0%	4,262
6	嫌で	81.0%	158	喉が渴いて	96.0%	143	思えて	88.0%	27,919
7	うるさくて	81.0%	27	嫌で	96.0%	8,007	うるさくて	88.0%	3,108
8	気になって	77.6%	862	苦しくて	94.0%	1,999	腹が減って	86.0%	699
9	腹が立って	77.6%	228	うれしくて	92.0%	7,234	残念で	86.0%	19,400
10	笑えて	77.6%	44	気になって	92.0%	2,092	寒くて	86.0%	4,282

(杉村 2007 : 7の表10)

杉村 (2007) は「～てならない」について、「気がする」「思える」「残念だ」など「自然にある思いがこみ上げてくることを表す表現」や

「寂しい」「うるさい」「喉が渇く」など「感情や生理的現象を表す表現」と共起する場合に許容度が高いが、このうち「寂しくてならない」「うるさくてならない」「喉が渇いてならない」はコーパスからの出現数が「～てたまらない」や「～てしかたがない」に比べてかなり少ないことを指摘している。このことから「～てならない」は「気がする」「思える」「残念だ」などとの共起を典型とし、「そうした思いが自然にこみ上げてきて頭から離れないほど甚だしいことを表す」(p.7)と論じている。

次に、「～てたまらない」は、「寂しい」「暑い」「痛い」など「精神的・身体的な刺激によって生じる感情・感覚表現」と共起しやすく、この点はコーパスの結果と一致するとしている。一方、「気になる」「喉が渇く」「腹が減る」など「自然に湧き起こる感情や感覚を表す表現」と共起する場合、許容度は高いが実例が「～てしかたがない」に比べて少なく、「～てならない」と自然に共起する「思える」「思われる」が「～てたまらない」とは共起しにくいことを指摘している。このことから「～てたまらない」は「寂しい」「暑い」「痛い」などとの共起を典型とし、「そうした感情や感覚の程度が耐えられないほど甚だしいことを表す」(p.7)と論じている。

最後の「～てしかたがない」については、「気になる」「腹が立つ」「喉が渇く」など「自然に湧き起こる感情や感覚を表す表現」と共起しやすく、「思える」「残念だ」「寂しい」など「～てならない」や「～てたまらない」で許容度の高い表現は「～てしかたがない」とも共起しやすいとしている。したがって、「～てしかたがない」は「気になる」「腹が立つ」「喉が渇く」などとの共起を典型としつつ「～てならない」や「～てたまらない」の範囲まで広く覆い、「そうした感情や感覚の程度が制御できないほど甚だしいことを表す」(p.8)と論じている。

また、これらの表現と共起する形容詞に関して、「寂しい」「残念だ」のような感情形容詞や「暑い」「痛い」のような感覚形容詞と共起しやす

いが、「広い」「赤い」のような属性形容詞や「暖かい」「涼しい」のようなプラスイメージの形容詞とは共起しにくい傾向があることを述べている。

以上、杉村（2007）の三つの表現の特徴をまとめると次のようになる。

「～てならない」：「気がする」「思える」などと共起して自然にある思いがこみ上げてきて頭から離れないほど甚だしいことを表す

「～てたまらない」：「寂しい」「暑い」などと共起して精神的・身体的な刺激によって生じる感情や感覚の程度が耐えられないほど甚だしいことを表す

「～てしかたがない」：「気になる」「腹が立つ」などと共起して自然に湧き起こる感情や感覚の程度が制御できないほど甚だしいことを表す

（杉村2007：10）

このように、杉村（2007）は、検索エンジンgooやアンケートなどの客観的な調査に基づき、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」の使い分けを明らかにしている。本研究も杉村（2007）に倣い、検索エンジンgooを用いて三つの表現と形容詞の共起関係の調査を行う。

杉村（2007）は形容詞の場合27語を調査対象にしているが、その中に「もったいない、いやらしい、美しい」のような評価を表す形容詞や「眠い、怠い、かったるい」のような生理的現象を表す形容詞は含めていない。本研究ではそれらも対象にする。また、杉村（2007）は、「広い、赤い」のような属性形容詞は共起しにくい傾向があることを指摘しているが、「～てたまらない」と「～てしかたがない」の場合「味が濃くてたまらない」や「部屋が狭くてしかたがない」など属性を表す形容詞と共起する例

が見られる。本研究では属性を表す形容詞も語を増やして対象にする。このようにして、本研究では形容詞275語を対象とし、三つの表現と共起する形容詞の特徴を詳細に論じる。

また、杉村（2007）が示唆している三つの表現における形容詞の違いに注目して、本研究では三つの表現と形容詞の共起関係の違いを、形容詞を分類する指標として用いる。

3.3 調査概要

本研究では「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」と形容詞275語との共起について、検索エンジン goo (<https://www.goo.ne.jp/>) を使用したインターネット検索でそれぞれのヒット数を調査した。それは、同じ条件のもとで、特定の形容詞と共起する三つの表現の使用の差を比べるためである。検索期間は2021年11月28日から2021年12月3日までである。

検索に際しては、杉村（2007）に倣い、「～てならない」「～てたまらない」の場合は「～ない」「～んない」「～なかった」「～なく」「～なけれ」「～ならず」「～ならぬ」「～ならん」「～ならねえ」「～なんねえ」「～ありません」の11の形を検索し、「～てしかたがない」の場合は「～ない」「～なかった」「～なく」「～なけれ」「～ねえ」「～ありません」の六つの形を検索した。また「～てしかたがない」に関しては「しかたがない」「しかたない」「仕方がない」「仕方ない」「しょうがない」の形を検索した。例えば、「悲しい」の検索語は以下のようになる。

(例) 「悲しい」の場合

- ・ 悲しくて {ならない／なんない／ならなかった／ならなく／ならな
けれ／ならず／ならぬ／ならん／ならねえ／なんねえ／
なりません}
- ・ 悲しくて {たまらない／たまんない／たまらなかった／たまらなく
／たまらなけれ／たまらず／たまらぬ／たまらん／たま
らねえ／たまんねえ／たまりません}
- ・ 悲しくて {しかたがない／しかたがなかった／しかたがなく／しか
たがなけれ／しかたがねえ／しかたがありません}

{しかたない／しかたなかった／しかたなく／しかたなけ
れ／しかたねえ／しかたありません}

{仕方がない／仕方がなかった／仕方がなく／仕方がなけ
れ／仕方がねえ／仕方ありません}

{仕方ない／仕方なかった／仕方なく／仕方なけれ／仕方
ねえ／仕方ありません}
- ・ {しょうがない／しょうがなかった／しょうがなく／しょ
うがなけれ／しょうがねえ／しょうがありません}

検索方法は、半角のダブルクォーテーションマーク（「 ” 」）で検索語を囲んで検索した。それは、検索語をダブルクォーテーションマーク（「 ” 」）で囲まずに検索すると検索対象外のものも検索されてしまうためである。

このように検索すると、画面にヒット数は表示されないため、本研究では画面に表示されているものを全て目で見て数えてヒット数を調査した。

3.4 共起する形容詞の特徴

3.3節で示したように調査した結果、「～てならない」の延べ語数は9,708語、異なり語数は195語、「～てたまらない」の延べ語数は37,806語、異なり語数は251語、「～てしかたがない」の延べ語数は72,692語、異なり語数は250語であった。表3-3は「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」と共起する形容詞のヒット数を上位50位まで示したものである。

表3-3で、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」と共起する上位50位までの形容詞を見ると、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類のように感情度の高い形容詞が上位を占めていることが分かる。各表現において上位に現れる形容詞の特徴を見ると、「～てならない」は①「憎い」類が上位に現れていて、「～てたまらない」は④「熱い」類、「～てしかたがない」は⑤「危ない」類と⑥「少ない」類が上位に現れている。このように、三つの表現は感情を表す形容詞と共起しやすいが、表現ごとに共起する形容詞の特徴に違いがあることがうかがえる。

表3-3 各表現におけるヒット数の高い形容詞の上位50語

	「～てならない」 延べ語数：9,708語 異なり語数：195語			「～てたまらない」 延べ語数：37,806語 異なり語数：251語			「～てしかたがない」 延べ語数：72,692語 異なり語数：250語		
	形容詞	数	類	形容詞	数	類	形容詞	数	類
1	悔しい	478	3寂	楽しい	959	3寂	楽しい	2,943	3寂
2	嬉しい	383	2嬉	嬉しい	934	2嬉	嬉しい	2,183	2嬉
3	待ち遠しい	369	1憎	暑い	869	4熱	怖い	2,092	3寂
4	悲しい	356	2嬉	欲しい	833	1憎	可愛い	1,904	5危
5	楽しい	351	3寂	怖い	809	3寂	悔しい	1,867	3寂
6	恋しい	320	1憎	悔しい	799	3寂	眠い	1,832	2嬉
7	愛おしい	315	1憎	痛い	780	3寂	欲しい	1,690	1憎
8	羨ましい	314	1憎	寒い	773	4熱	待ち遠しい	1,664	1憎
9	恐ろしい	310	3寂	面白い	763	5危	面白い	1,646	5危
10	寂しい	309	3寂	可愛い	729	5危	痛い	1,612	3寂
11	恥ずかしい	272	2嬉	恥ずかしい	703	2嬉	羨ましい	1,570	1憎
12	愛しい	257	1憎	眠い	703	2嬉	寒い	1,491	4熱
13	可愛い	255	5危	待ち遠しい	653	1憎	悲しい	1,400	2嬉
14	歯がゆい	238	1憎	恋しい	648	1憎	苦しい	1,356	3寂
15	惜しい	235	1憎	熱い	632	4熱	寂しい	1,278	3寂
16	怖い	232	3寂	苦しい	630	3寂	恥ずかしい	1,224	2嬉
17	腹立たしい	230	1憎	臭い	629	4熱	暑い	1,223	4熱
18	もどかしい	198	3寂	愛しい	623	1憎	悪い	1,175	6少
19	口惜しい	190	3寂	寂しい	618	3寂	憎い	1,143	1憎
20	苦しい	183	3寂	愛おしい	604	1憎	うるさい	1,122	5危
21	面白い	182	5危	おかしい	573	5危	つらい	1,103	3寂
22	欲しい	172	1憎	憎い	564	1憎	痒い	1,089	2嬉
23	憎い	166	1憎	羨ましい	550	1憎	気持ち悪い	1,083	3寂
24	痛い	135	3寂	悲しい	546	2嬉	恋しい	1,035	1憎
25	おかしい	133	5危	恐ろしい	543	3寂	愛おしい	1,021	1憎
26	懐かしい		1憎	懐かしい	542	1憎	重い	934	6少
27	心苦しい	131	3寂	痒い	538	2嬉	恐ろしい	931	3寂
28	痒い	130	2嬉	切ない	524	3寂	おかしい	927	5危
29	切ない	127	3寂	うるさい	478	5危	危ない	917	5危
30	つらい	121	3寂	つらい	457	3寂	愛しい	904	1憎
31	寒い	108	4熱	美味しい	452	4熱	眠たい	825	3寂
32	痛ましい	102	3寂	しんどい	422	3寂	情けない	808	5危
33	情けない		5危	気持ち悪い	375	3寂	鬱陶しい	731	3寂
34	痛々しい	95	5危	さみしい	373	3寂	眩しい	707	4熱
35	重い	76	6少	悪い		6少	腹立たしい	691	1憎
36	悪い	74	6少	もどかしい	370	3寂	もどかしい	685	3寂
37	誇らしい	68	5危	鬱陶しい	350	3寂	ウザい	658	5危
38	気持ち悪い	66	3寂	可愛らしい	346	5危	臭い	628	4熱
39	暑い	65	4熱	愛らしい	336	5危	面倒臭い	621	3寂
40	恨めしい		1憎	蒸し暑い	334	4熱	もったいない	609	5危
41	疎ましい	58	5危	重い	330	6少	懐かしい	557	1憎
42	眠い		2嬉	眩しい	319	4熱	切ない	538	3寂
43	さみしい	56	3寂	いじらしい	300	1憎	歯痒い	534	1憎
44	鬱陶しい	54	3寂	忙しい	281	5危	煩わしい	528	5危
45	うるさい	51	5危	いやらしい		5危	さみしい	522	3寂
46	忙しい	49	5危	きつい	275	6少	息苦しい	497	4熱
47	申し訳ない	48	2嬉	情けない	272	5危	申し訳ない	489	2嬉
48	ありがたい	47	3寂	良い	269	6少	しんどい	488	3寂
49	心細い		3寂	甘い	267	4熱	忙しい	473	5危
50	煩わしい	41	5危	ウザい	264	5危	惜しい	455	1憎

そこで、3.4.1節～3.4.3節では各表現と共起しやすい形容詞の特徴を見る。各表現において集中度の高い形容詞の特徴を見るが、ここで「集中度」とは三つの表現のうち一つの表現のヒット数が占める割合を意味する。3.4.1節では「～てならない」、3.4.2節では「～てたまらない」、3.4.3節では「～てしかたがない」の集中度の高い上位50位までの形容詞を見る。

上位50位までの形容詞を決める際、三つの表現の合計が100件未満の語は取り除くこととする。それは、ヒット数は少ないが集中度が高いため上位を占める語を排除するためである。例えば「親しい」は、三つの表現のうち出現は「親しくてしかたがない」の1件のみであるが、「～てしかたがない」の集中度は100%になる。また「偉い」の場合、三つの表現での出現が全部で12件であるが、「偉くてしかたがない」は11件であり「～てしかたがない」の集中度は91.7%になる。件数を制限せずに全てを対象にすると、数件程度のヒット数の表現であっても集中度では100%や91.7%となり、上位を占めることになるのである。

3.4.1 「～てならない」

本節では「～てならない」の集中度の高い上位50位までの形容詞を見る。「～てならない」の集中度は「『～てならない』のヒット数／三つの表現のヒット数の合計×100」であり、表では「%」と示す。

表3-4では三つの表現の合計が100件未満の語を取り除き、「～てならない」の集中度の高い上位50位までの形容詞をまとめた。灰色で示した部分は「～てならない」のヒット数と集中度である。「類」は本研究における形容詞の七つの類型を示す。他の表も同様である。

表3-4 「～てならない」の集中度の高い形容詞の上位50位
(三つの表現の合計が100件以上の場合)

	形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計		形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計
1	痛ましい	3寂	102 (50%)	33 (16%)	70 (34%)	205 100%	26	切ない	3寂	127 (11%)	524 (44%)	538 (45%)	1,189 100%
2	口惜しい	3寂	190 (41%)	129 (28%)	139 (30%)	458 100%	27	バカバカしい	5危	18 (10%)	49 (29%)	103 (61%)	170 100%
3	心苦しい	3寂	131 (36%)	79 (22%)	151 (42%)	361 100%	28	心細い	3寂	47 (9%)	194 (40%)	250 (51%)	491 100%
4	惜しい	1憎	235 (25%)	244 (26%)	455 (49%)	934 100%	29	いじらしい	1憎	40 (9%)	300 (68%)	104 (23%)	444 100%
5	歯がゆい	1憎	238 (25%)	175 (18%)	534 (56%)	947 100%	30	憎い	1憎	166 (9%)	564 (30%)	1,143 (61%)	1,873 100%
6	腹立たしい	1憎	230 (21%)	182 (17%)	691 (63%)	1,103 100%	31	可愛い	5危	255 (9%)	729 (25%)	1,904 (66%)	2,888 100%
7	恨めしい	1憎	65 (21%)	57 (18%)	190 (61%)	312 100%	32	情けない	5危	102 (9%)	272 (23%)	808 (68%)	1,182 100%
8	忌々しい	5危	22 (19%)	22 (18%)	74 (63%)	118 100%	33	頼もしい	5危	18 (8%)	21 (10%)	174 (82%)	213 100%
9	痛々しい	5危	95 (18%)	195 (19%)	226 (44%)	516 100%	34	苦しい	3寂	183 (8%)	630 (29%)	1,356 (63%)	2,169 100%
10	恐ろしい	3寂	310 (17%)	543 (38%)	931 (52%)	1,784 100%	35	楽しい	3寂	351 (8%)	959 (23%)	2,943 (69%)	4,253 100%
11	愛おしい	1憎	315 (16%)	604 (31%)	1,021 (53%)	1,940 100%	36	おかしい	5危	133 (8%)	573 (35%)	927 (57%)	1,633 100%
12	疎ましい	5危	58 (16%)	38 (11%)	263 (73%)	359 100%	37	ありがたい	3寂	47 (7%)	178 (28%)	408 (64%)	633 100%
13	恋しい	1憎	320 (16%)	648 (32%)	1,035 (52%)	2,003 100%	38	怖い	3寂	232 (7%)	809 (26%)	2,092 (67%)	3,133 100%
14	もどかしい	3寂	198 (16%)	370 (30%)	685 (55%)	1,253 100%	39	痒い	2嬉	130 (7%)	538 (31%)	1,089 (52%)	1,757 100%
15	悲しい	2嬉	356 (15%)	546 (24%)	1,400 (61%)	2,302 100%	40	つらい	3寂	121 (7%)	457 (27%)	1,103 (66%)	1,681 100%
16	悔しい	3寂	478 (15%)	799 (25%)	1,867 (59%)	3,144 100%	41	厳しい	6少	8 (7%)	25 (22%)	80 (71%)	113 100%
17	誇らしい	5危	68 (14%)	195 (41%)	207 (44%)	470 100%	42	面白い	5危	182 (7%)	763 (29%)	1,646 (64%)	2,591 100%
18	愛しい	1憎	257 (14%)	623 (35%)	904 (51%)	1,784 100%	43	弱い	6少	11 (7%)	28 (17%)	125 (76%)	164 100%
19	寂しい	3寂	309 (14%)	618 (28%)	1,278 (58%)	2,205 100%	44	欲しい	1憎	172 (6%)	833 (31%)	1,690 (63%)	2,695 100%
20	待ち遠しい	1憎	369 (14%)	653 (24%)	1,664 (62%)	2,686 100%	45	申し訳ない	2嬉	48 (6%)	223 (29%)	489 (64%)	760 100%
21	羨ましい	1憎	314 (13%)	550 (23%)	1,570 (65%)	2,434 100%	46	バカらしい	5危	7 (6%)	16 (14%)	89 (79%)	112 100%
22	気恥ずかしい	5危	18 (13%)	54 (38%)	71 (50%)	143 100%	47	怪しい	5危	24 (6%)	60 (16%)	302 (78%)	386 100%
23	恥ずかしい	2嬉	272 (12%)	703 (32%)	1,224 (56%)	2,199 100%	48	煩わしい	5危	41 (6%)	96 (14%)	528 (79%)	665 100%
24	嬉しい	2嬉	383 (11%)	934 (27%)	2,183 (62%)	3,500 100%	49	忙しい	5危	49 (6%)	281 (35%)	473 (59%)	803 100%
25	懐かしい	1憎	133 (11%)	542 (44%)	557 (45%)	1,232 100%	50	妬ましい	1憎	34 (6%)	144 (25%)	387 (68%)	565 100%

表3-4で、「～てならない」が他の表現より集中度の高い語は「痛ましい」と「口惜しい」の2語のみであり、この2語以外は「～てたまらない」や「～てしかたがない」の集中度の方が高い。このように、形容詞との共起において「～てならない」は他の二つの表現に比べ集中度が低い。これは、杉村（2007）が「～てならない」は「気がする」「思える」「残念だ」などとの共起を典型とすることを指摘しているように、「～てならない」は自発的な動詞との共起を主とするためではないかと思われる。

その中でも「～てならない」の集中度が20%を超える上位7位までの形容詞の類型を見ると、③「寂しい」類と①「憎い」類のように感情度の高い形容詞が現れている。一方、「～てならない」の集中度の高い形容詞の上位50位の中で、④「熱い」類と⑦「赤い」類は現れていない。また、⑤「危ない」類は上位50位の中に見られるが「～てたまらない」や「～てしかたがない」の集中度が高く、⑥「少ない」類は2語見られるが「～てならない」の集中度が7%ぐらいである。このように、「～てならない」は他の表現に比べて、感覚を表す形容詞や属性度の高い形容詞の集中度が低いといえる。

次の表3-5は、④「熱い」類の「熱い」、⑤「危ない」類の「危ない」、⑥「少ない」類の「少ない」における三つの表現の集中度であるが、三語とも「～てならない」の集中度は1～2%程度である。

表3-5 「～てならない」の集中度の低い形容詞

形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計
熱い	4熱	14 (1%)	632 (60%)	411 (39%)	1,057 (100%)
危ない	5危	16 (2%)	56 (6%)	917 (93%)	989 (100%)
少ない	6少	4 (2%)	17 (8%)	192 (90%)	213 (100%)

以上、「～てならない」は、三つの表現のうち形容詞との集中度が低い表現であるが、その中でも③「寂しい」類と①「憎い」類のように感情を表す形容詞の集中度が高く、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように感覚や属性を表す形容詞の集中度は低い。一方、⑦「赤い」類は現れていない。

3.4.2 「～てたまらない」

本節では、「～てたまらない」の集中度の高い上位50位までの形容詞の特徴を見る。表3-6は「～てたまらない」の集中度が高い順に並べたものである。

表3-6で、「～てたまらない」が他の表現より集中度が高いのは上位28位の「臭い」までである。上位28位までの形容詞の類型は、主に④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類が現れているのが特徴的である。一方、「～てたまらない」の集中度の高い形容詞の上位50位の中で、⑦「赤い」類は現れていない。①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類は上位50位の中に見られるが、③類の「心地良い」「寝苦しい」の2語以外の①～③類の語は「～てたまらない」より「～てしかたがない」の集中度の方がより高い。

表3-6 「～てたまらない」の集中度の高い形容詞の上位50位
(三つの表現の合計が100件以上の場合)

	形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計		形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計
1	渋い	4熱	0 (0%)	253 (94%)	15 (6%)	268 100%	26	愛らし い	5危	23 (3%)	336 (51%)	302 (46%)	661 100%
2	柔らか い	4熱	5 (2%)	219 (92%)	15 (6%)	239 100%	27	尊い	6少	11 (3%)	165 (51%)	150 (46%)	326 100%
3	濃い	6少	0 (0%)	151 (87%)	22 (13%)	173 100%	28	臭い	4熱	34 (3%)	629 (49%)	628 (49%)	1,291 100%
4	いやら しい	5危	1 (0%)	281 (84%)	51 (15%)	333 100%	29	近い	6少	1 (1%)	49 (49%)	51 (50%)	101 100%
5	でかい	6少	0 (0%)	87 (81%)	20 (19%)	107 100%	30	気持ち 良い	3寂	4 (1%)	262 (46%)	304 (53%)	570 100%
6	深い	6少	5 (4%)	98 (79%)	21 (17%)	124 100%	31	小さい	6少	2 (1%)	67 (46%)	78 (53%)	147 100%
7	素晴ら しい	5危	5 (3%)	137 (76%)	38 (21%)	180 100%	32	しんど い	3寂	30 (3%)	422 (45%)	488 (52%)	940 100%
8	蒸し暑 い	4熱	6 (1%)	334 (75%)	104 (23%)	444 100%	33	高い	6少	6 (1%)	195 (44%)	239 (54%)	440 100%
9	優しい	5危	2 (2%)	87 (74%)	29 (25%)	118 100%	34	切ない	3寂	127 (11%)	524 (44%)	538 (45%)	1,189 100%
10	すごい	5危	1 (1%)	137 (72%)	53 (28%)	191 100%	35	可愛ら しい	5危	27 (3%)	346 (44%)	413 (53%)	786 100%
11	心地良 い	3寂	7 (4%)	111 (71%)	38 (24%)	156 100%	36	懐かし い	1憎	133 (11%)	542 (44%)	557 (45%)	1,232 100%
12	甘い	4熱	2 (1%)	267 (70%)	113 (30%)	382 100%	37	きつい	6少	5 (1%)	275 (43%)	353 (56%)	633 100%
13	美しい	5危	11 (3%)	241 (69%)	95 (27%)	347 100%	38	憎たら しい	5危	30 (6%)	217 (43%)	255 (51%)	502 100%
14	いじら しい	1憎	40 (9%)	300 (68%)	104 (23%)	444 100%	39	暑苦し い	4熱	3 (1%)	119 (42%)	163 (57%)	285 100%
15	苦い	4熱	1 (1%)	122 (66%)	62 (34%)	185 100%	40	誇らし い	5危	68 (14%)	195 (41%)	207 (44%)	470 100%
16	寝苦し い	3寂	3 (2%)	111 (63%)	61 (35%)	175 100%	41	こそば ゆい	1憎	4 (4%)	44 (41%)	59 (55%)	107 100%
17	たまら ない	5危	0 (0%)	77 (62%)	48 (38%)	125 100%	42	多い	6少	18 (4%)	202 (41%)	273 (55%)	493 100%
18	激しい	6少	4 (3%)	81 (61%)	47 (36%)	132 100%	43	くすぐ ったい	2嬉	23 (4%)	237 (41%)	323 (55%)	583 100%
19	良い	6少	15 (3%)	269 (61%)	158 (36%)	442 100%	44	暑い	4熱	65 (3%)	869 (40%)	1,223 (57%)	2,157 100%
20	熱い	4熱	14 (1%)	632 (60%)	411 (39%)	1,057 100%	45	煙い	4熱	1 (1%)	60 (40%)	88 (59%)	149 100%
21	大きい	6少	13 (5%)	151 (59%)	94 (36%)	258 100%	46	ひどい	5危	3 (1%)	88 (40%)	129 (59%)	220 100%
22	エモい	5危	0 (0%)	82 (57%)	62 (43%)	144 100%	47	心細い	3寂	47 (10%)	194 (40%)	250 (51%)	491 100%
23	強い	6少	17 (4%)	253 (53%)	203 (43%)	473 100%	48	やるせ ない	1憎	5 (3%)	63 (39%)	92 (58%)	160 100%
24	美味い	4熱	23 (5%)	224 (52%)	186 (43%)	433 100%	49	さみし い	3寂	56 (6%)	373 (39%)	522 (55%)	951 100%
25	美味し い	4熱	14 (2%)	452 (52%)	409 (47%)	875 100%	50	冷たい	4熱	6 (1%)	209 (38%)	337 (61%)	552 100%

「～てたまらない」の集中度の最も高い④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類の語の特徴を見る¹⁶。

まず、④「熱い」類は「渋い」「柔らかい」「蒸し暑い」「甘い」「苦い」「熱い」「美味しい」「おいしい」であり、これらは感覚器官を通して感じる味覚、触覚、温覚などの感覚を表す。

次に、⑤「危ない」類は「いやらしい」「素晴らしい」「優しい」「すごい」「美しい」「たまらない」「エモい」であり、これらは特に感覚器官（ex. 視覚）に基づいて下す評価を表す点で特徴的である。例えば、「美しい」は視覚器官に基づいて下す評価を表し、「彼女を見た瞬間美しいと思った」のようにその評価が瞬時に行われる点で感覚的な反応と通じる部分があると思われる。

また、⑥「少ない」類は「濃い」「でかい」「深い」「激しい」「良い」「大きい」「強い」であり、これらはその属性の程度が大きいことを表す。(3-1)～(3-3)は「濃い」「深い」「大きい」が「～てたまらない」と共起する例であるが、これらは「チーズの味が濃い」「奥が深い」「ギャップが大きい」ことに対して、ある感情を伴いその感情の程度が甚だしいことも表している。例えば(3-1)は「チーズの味の濃さ」の程度が甚だしいことを表すのみでなく、「チーズの味が濃い」ことに伴う感情(ex. 嬉しさ)の程度が甚だしいことも表している。他も同様である。

¹⁶ 「てたまらない」については、形容詞が三人称の状態を表すか、一人称の感情・感覚を表すかによって、テ節と「たまらない」の結合度に違いがあることが考えられる。例えば「渋い」の場合、「人がかっこよくて渋くてたまらない」のように「渋い」が「三人称」の状態を表すと、テ節で一端切れて「たまらない」という感情が表出されているように見えるが、「この柿は渋くてたまらない」のように「渋い」が「一人称」の感情・感覚を表すと、テ節と「たまらない」が一体となっているように見える。このように、「～てたまらない」は両方の解釈の可能性があるがどちらの方であるかはっきり分けることは難しいため、ひとまず補助動詞用法としておいた。

(3-1) 期待以上にチーズの味が濃くてたまらない!

<https://www.buzzfeed.com/jp/huiyeongkim/seijoishii-cheesepasta> (2022年7月
5日検索) 【⑥類】

(3-2) まったく、本当にこのシリーズは奥が深くてたまらない。

<https://www.bookbang.jp/review/article/702153>
(2022年7月5日検索) 【⑥類】

(3-3) 普段しっかりしている人ほど、甘えている姿とのギャップが
大きくてたまらない! と感じられるようです。

<https://googirl.jp/renai/191029005/> (2022年7月5日検索) 【⑥類】

以上、「～てたまらない」において他の表現よりも集中度の高い形容詞の類型は大きく④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類の三つであった。④「熱い」類の中では「柔らかい」「蒸し暑い」のように感覚器官を通して感じる感覚を表す形容詞の集中度が高く、⑤「危ない」類では「いやらしい」「素晴らしい」のように感覚器官(ex. 視覚)に基づいて比較的瞬時に下す評価を表す形容詞の集中度が高かった。また、⑥「少ない」類では「濃い」「深い」のように程度の大きい属性を表す形容詞の集中度が高かった。一方、⑦「赤い」類は現れていない。

3.4.3 「～てしかたがない」

本節では、「～てしかたがない」の集中度の高い上位50位までの形容詞の特徴を見る。表3-7は「～てしかたがない」の集中度が高い順に並べたものである。

表3-7 「～てしかたがない」の集中度の高い形容詞の上位50位
(三つの表現の合計が100件以上の場合)

	形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計		形容詞	類	ならない	たまらない	しかたがない	合計
1	おっかない	3寂	0 (0%)	0 (0%)	184 (100%)	184 100%	26	暗い	6少	6 (3%)	54 (23%)	173 (74%)	233 100%
2	危ない	5危	16 (2%)	56 (6%)	917 (93%)	989 100%	27	まずい	4熱	5 (2%)	54 (24%)	164 (74%)	223 100%
3	紛らわしい	5危	0 (0%)	14 (8%)	166 (92%)	180 100%	28	疎ましい	5危	58 (16%)	38 (11%)	263 (73%)	359 100%
4	かったるい	2嬉	2 (1%)	17 (7%)	216 (92%)	235 100%	29	しつこい	5危	1 (1%)	46 (27%)	124 (73%)	171 100%
5	みつともない	5危	3 (2%)	8 (6%)	116 (91%)	127 100%	30	悪い	6少	74 (5%)	373 (23%)	1,175 (72%)	1,622 100%
6	少ない	6少	4 (2%)	17 (8%)	192 (90%)	213 100%	31	照れ臭い	1憎	3 (2%)	45 (26%)	122 (72%)	170 100%
7	息苦しい	4熱	16 (3%)	46 (8%)	497 (89%)	559 100%	32	珍しい	6少	14 (5%)	67 (24%)	199 (71%)	280 100%
8	物足りない	5危	3 (1%)	25 (10%)	216 (89%)	244 100%	33	気持ち悪い	3寂	66 (4%)	375 (25%)	1,083 (71%)	1,524 100%
9	遠い	6少	4 (3%)	15 (11%)	112 (85%)	131 100%	34	面倒臭い	3寂	15 (2%)	239 (27%)	621 (71%)	875 100%
10	気まずい	5危	14 (3%)	64 (13%)	426 (85%)	504 100%	35	敵しい	6少	8 (7%)	25 (22%)	80 (71%)	133 100%
11	もったいない	5危	40 (6%)	72 (10%)	609 (84%)	721 100%	36	ウザい	5危	8 (1%)	264 (28%)	658 (71%)	930 100%
12	醜い	5危	1 (0%)	39 (17%)	183 (82%)	223 100%	37	眠い	2嬉	58 (2%)	703 (27%)	1,832 (71%)	2,593 100%
13	煙たい	4熱	1 (1%)	31 (18%)	145 (82%)	177 100%	38	薄い	6少	2 (2%)	38 (29%)	93 (70%)	133 100%
14	頼もしい	5危	18 (8%)	21 (10%)	174 (82%)	213 100%	39	じれったい	3寂	8 (2%)	118 (28%)	291 (70%)	417 100%
15	ややこしい	5危	10 (2%)	68 (17%)	330 (81%)	408 100%	40	重い	6少	76 (6%)	330 (25%)	934 (70%)	1,340 100%
16	気味悪い	5危	6 (4%)	22 (16%)	109 (80%)	137 100%	41	軽い	6少	5 (3%)	42 (27%)	107 (69%)	154 100%
17	バカらしい	5危	7 (6%)	16 (14%)	89 (79%)	112 100%	42	憎らしい	5危	15 (2%)	179 (28%)	441 (69%)	635 100%
18	煩わしい	5危	41 (6%)	96 (14%)	528 (79%)	665 100%	43	楽しい	3寂	351 (8%)	959 (23%)	2,943 (69%)	4,253 100%
19	怠い	2嬉	4 (1%)	73 (20%)	291 (79%)	368 100%	44	見苦しい	5危	11 (6%)	47 (25%)	129 (69%)	187 100%
20	眠たい	3寂	4 (0%)	215 (21%)	825 (79%)	1,044 100%	45	難しい	5危	15 (6%)	68 (25%)	184 (69%)	267 100%
21	怪しい	5危	24 (6%)	60 (16%)	302 (78%)	386 100%	46	妬ましい	1憎	34 (6%)	144 (25%)	387 (68%)	565 100%
22	つまらない	5危	22 (4%)	95 (19%)	385 (77%)	502 100%	47	情けない	5危	102 (9%)	272 (23%)	808 (68%)	1,182 100%
23	重たい	4熱	5 (1%)	92 (22%)	315 (76%)	412 100%	48	うるさい	5危	51 (3%)	478 (29%)	1,122 (68%)	1,651 100%
24	弱い	6少	11 (7%)	28 (17%)	125 (76%)	164 100%	49	長い	6少	10 (2%)	125 (30%)	283 (68%)	418 100%
25	狭い	6少	3 (1%)	93 (23%)	307 (76%)	403 100%	50	汚い	6少	10 (3%)	86 (29%)	201 (68%)	297 100%

表3-7で、「～てしかたがない」は上位50位までの全ての語が他の表現より集中度が高い。上位50位までの形容詞の類型は、⑥「少ない」類、⑤「危ない」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類であるが、その中で⑥「少ない」類と⑤「危ない」類は上位を占めていて広く分布している。一方、「～てならない」「～てたまらない」と同様に⑦「赤い」類は現れていない。

「～てしかたがない」と共起する上位50位の中で上位を占めていて、分布が広い⑤「危ない」類と⑥「少ない」類の語の特徴を見る。

まず、⑤「危ない」類は「危ない」「紛らわしい」「みっともない」「物足りない」「気まずい」「もったいない」「醜い」「頼もしい」「ややこしい」「気味悪い」「バカらしい」「煩わしい」「怪しい」「つまらない」「疎ましい」「しつこい」「ウザい」「憎らしい」「見苦しい」「難しい」「情けない」「うるさい」のように評価を表す形容詞である。これらの評価は3.4.2節の「～てたまらない」に現れた「いやらしい」「美しい」などと比べると、その判断が瞬時には行われにくく、ある程度の思考活動を経て行われるという特徴を持つ。例えば、「紛らわしい」は「?その問題は見た瞬間紛らわしかった」のように瞬間的に下す評価とは考えにくく、知識や過去の経験などに基づいて下す評価であると思われる。

次に、⑥「少ない」類は「少ない」「遠い」「弱い」「狭い」「暗い」「悪い」「珍しい」「厳しい」「薄い」「重い」「軽い」「長い」「汚い」のように属性を表す形容詞である。⑥類のうち、属性の程度が小さいものが上位を占めている点で特徴的である。例えば、「弱い」「遠い」「狭い」は、「強さ」「近さ」「広さ」という程度においてその程度が小さい方を表している。

(3-4)～(3-6)は「弱い」「遠い」「狭い」が「～てしかたがない」と共起する例であるが、「涙線が弱い」「大浴場まで遠い」「空間が狭い」ことに対して、ある感情を伴いその感情の程度が甚だしいことも表してい

る。¹⁷例えば(3-4)は「涙線の弱さ」の程度が甚だしいことを表すのみでなく、「涙線が弱い」ことに伴う感情(ex. 悲しい)の程度が甚だしいことも表している。他の例も同様である。

(3-4) お家に帰ったら、事務所から素敵なお便りが届いていました！じっくり読んでたら…涙 最近涙線弱くてしょうがない
https://twitter.com/sairi_ito/status/499845396848340992 (2022年7月13日検索) 【⑥類】

(3-5) 「ノースウイングは大浴場まで遠くて仕方がない。反対側は大浴場の一つもできないものか」とぼやきつつ口コミを投稿したのが数年前。なんといつの間にかノースウイングの果てに新しい温浴施設ができていますじゃありませんかw。
<https://www.jtrip.co.jp/hotel/01220/review/?kID=SKITOURC&dep=0S&ref=touronly> (2022年3月12日検索) 【⑥類】

(3-6) みなさんご存知のルーブル美術館、もともと宮殿であったのを半分を美術館、半分を大蔵省が使用していましたが、狭くてしょうがないということで大蔵省を外に出し、全部を美術館に使うことになりました。
<http://network2010.org/article/1598> (2022年7月5日検索) 【⑥類】

¹⁷ 田中(2004)は「てならない」「てたまらない」「てしかたがない」の容認度に関して、次のような例文を示しているが、これらの例文でも「小さい」「狭い」は「てしかたがない」(「てしょうがない」)と一番共起しやすい。本章の調査結果と一致している。

(i) この靴は小さくて{?しかたがない>??たまらない>*ならない}。

(ii) この部屋は狭くて{しょうがない>?たまらない>??ならない}。
 (田中 2004: 190 の (25) (26))

以上、「～てしかたがない」において他の表現よりも集中度の高い形容詞の類型は①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように多様である。一方、⑦「赤い」類は現れていない。「～てしかたがない」の集中度が高い語の中では、⑤類と⑥類が上位を占めていて広く分布していた。⑤「危ない」類では「危ない」「紛らわしい」のように知識や過去の経験に基づいて下す評価を表す形容詞の集中度が高く、⑥「少ない」類では「小さい」「狭い」のように程度の小さい属性を表す形容詞の集中度が高かった。

以上、3.4.1節～3.4.3節では、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」と共起する形容詞の特徴を見た。その結果をまとめると表3-8のようになる。

表3-8 「～てならない／たまらない／しかたがない」と形容詞の七分類
(表3-1の再掲)

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
～てならない	○	○	○	×	×	×	×
～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×
～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×

三つの表現は①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類のように感情度の高い形容詞の類型と共起できて、⑥「少ない」類、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞の類型とは共起しにくい。このことから、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」は自発的に生じる「憎い」「嬉しい」「寂しい」「熱い」のような感情・感覚の程度は表せるが、自発的に生じるとは考えにくい「赤い」のような属性の程度は表しにくいことが分かる。ただし、「危ない」「みっともない」のような

評価や「濃い」「狭い」のような属性は、「危なくてしかたがない」「チーズの味が濃くてたまらない」のようにある感情を伴いその感情の自発性との関連で「～てしかたがない」や「～てたまらない」が共起できる場合があるのだと思われる。

3.5 本章のまとめ

第3章では、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」について、3.3節でgooでヒット数の調査を行い3.4節で各表現と共起する形容詞の特徴を見た。その結果、三つの表現において共起する形容詞の特徴は表3-9の通りであった。

表3-9 「～てならない／たまらない／しかたがない」と形容詞の七分類
(表3-1の再掲)

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
～てならない	○	○	○	×	×	×	×
～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×
～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×

表3-9で、三つの表現は感情度の高い①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類と共起し、属性度の高い⑦「赤い」類と共起しない点で共通している。しかし、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類においては共起範囲に違いが見られる。

第4章 他動詞構文「XガYヲ～クスル」と 使役構文「XガYヲ～クサセル」¹⁸

4.1 はじめに

従来、「花子がスカートを短くする」が言えて「*花子がスカートを短くさせる」が言えないことや「?花子が太郎を悲しくする」が言いにくくて「花子が太郎を悲しくさせる」が言えることが指摘された。金（2003）は、前者についてヲ格名詞句（「スカート」）が意志性のない無生物であるため主語（「花子」）の「スカート」へのコントロールが働きかけの段階と変化の段階の両方に及ぶ「スル」が選択されるとし、後者についてヲ格名詞句（「太郎」）が意志性のある有生物であるため主語（「花子」）の「太郎」へのコントロールが働きかけの段階にだけ及ぶ「サセル」が選択されるとしている。

さらに、金（2003）はヲ格名詞句が有生物で「サセル」が選択される場合、「嬉しい、楽しい、悲しい」のような感情形容詞が用いられることを指摘している。それは、感情形容詞は人間の感情・感覚を表す性質を持つため、属性形容詞と違って主語がヲ格名詞句の感情の変化まで直接的にコントロールできない使役構文「XガYヲ～クサセル」で使われることを論じている。

しかし、「??花子が私を恨めしくさせる」のようにヲ格名詞句が「私」のように有生物であり「サセル」が選択されても、感情形容詞を用いにくい場合もある。

¹⁸ 本章は権（2018）を基に加筆・修正を行ったものである。

そこで本章では、「XガYヲ～クスル」構文（以下、「～スル」構文）と「XガYヲ～クサセル」構文（以下、「～サセル」構文）にどのような形容詞が共起するか、さらにヲ格名詞句にどのような語が来るかを見ることによって、コントロールによる属性・感情の変化の特徴を論じ、形容詞が六段階に分けられることを主張する。さらに他の章も合わせることで七段階に分けられる。

本章では、「XガYヲ～クスル」構文と「XガYヲ～クサセル」構文のうち状態変化の対象になるヲ格名詞句に注目し、ヲ格名詞句に現れる語を「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の五つに分け、これらと共に共起する形容詞の特徴を見る。ヲ格名詞句をなぜ五つに分けるかについては後の4.3節で説明する。各構文と形容詞の七分類の共起関係を見ると、表4-1のようになる。

表4-1 「～スル」「～サセル」構文と形容詞の七分類の共起関係

		感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す		
		① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類	
ス ル	有 情 物	×	×	○	○	○	○	○	
	有 情 物 の 部 分	心	×	△	○	○	○	○	○
		カラダ	×	×	△	○	○	○	○
	非 情 物	コト	×	×	○	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	○	○	○
サ セ ル	有 情 物	×	○	○	○	○	○	×	
	有 情 物 の 部 分	心	×	○	○	○	○	○	×
		カラダ	×	×	×	○	○	○	○
	非 情 物	コト	×	×	○	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	△	△	×

表4-1を見ると、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類のように感情度の高い形容詞とは共起しないが、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように属性度の高い形容詞とは共起する傾向がある。一方、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、⑦「赤い」類の三つは、「～スル」構文、「～サセル」構文と共起する場合もあれば共起しない場合もあり、例えば「嬉しい」類は「花子の心を嬉しくする」（「心ヲ～クスル」）は成り立つが「*ピクニックを嬉しくする」（「コトヲ～クスル」）は成り立たない。このように「～スル」構文、「～サセル」構文と形容詞の七分目の共起関係を見ると、大きく六つの段階に分けることができる。これを表4-1の縦の太線で示す。

このような結果に基づき、本章では属性の場合はある対象を直接にコントロールしてその状態を変化させることが比較的自由であるが、感情の場合はその感情が何であるかによって変化させるのに制限があることを論じる。例えば、感情度の高い①「憎い」類の感情はどのようにしてもコントロールしにくい、②「嬉しい」類と③「寂しい」類は直接・間接的にコントロールできる場合がある。詳しい内容は4.4節で論じる。

4.1節では本章の構成と主張の要点について述べ、4.2節では「XガYヲ～クスル」構文と「XガYヲ～クサセル」構文に関する先行研究について概観する。続いて4.3節では五つのヲ格名詞句（「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」）について説明して、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下、BCCWJ）を用いた調査概要について説明する。4.4節では「～スル」構文、「～サセル」構文のヲ格名詞句の分布について、4.5節では「～スル」構文、「～サセル」構文と共起する形容詞の特徴について述べる。最後に4.6節では本章の内容をまとめる。

4.2 先行研究

本節では「XガYヲ〜クスル」構文と「XガYヲ〜クサセル」構文の構造的・意味的特徴について論じられている金（2003）について概観し、先行研究を踏まえて本章の課題を提示する。重要な先行研究であるため少し長くなるが、以下に紹介する。

金（2003）は、（4-1）（4-2）のような状態述語文（述語が形容詞、形容動詞、「名詞+だ」で構成される文）の特徴を、他動化・使役化という観点から論じたものである。

- （4-1） a. この出来事が彼を不安にする。
 b. この出来事が彼を不安にさせる。
- （4-2） a. 彼は息子を医者にする。
 b. 彼は息子を医者にさせる。

（金2003：37の（19）（20））

金（2003）は状態述語文の他動化と使役化とは、「状態述語文によって表される状態を別の関与者が引き起こすことをどのように表すかということ」（p.28）であるとしている。例えば、（4-3a）は「彼」が不安な状態にあるということを表す状態述語文であるが、このような状態を「この出来事」が引き起こし、「する」によって他動化が、「させる」によって使役化が行われるとしている。金（2003）は（4-3b）を他動詞文、（4-3c）を使役文と呼び、（4-3a）から（4-3b）への過程を状態述語文の他動化、（4-3a）から（4-3c）への過程を状態述語文の使役化と既定している。

- （4-3） a. 彼は不安だ。
 b. この出来事が彼を不安にする。

- c. この出来事が彼を不安にさせる。

(金2003: 35の(13))

金(2003)は状態述語文の使役化は、典型的な使役化の過程からは外れていることを論じている。一般に、使役化の過程には(4-4)のような自動詞の場合であれ、(4-5)のような他動詞の場合であれ、使役化すると述語の形態が「させる」になり項の増加を伴うとしている。

- (4-4) a. 生徒が走る。
 b. 先生が生徒を/に走らせる。
 (4-5) a. 生徒が本を読む。
 b. 先生が生徒に本を読ませる。

(金2003: 36の(14) (15))

しかし、(4-6)と(4-7)のような状態述語文は、述語の形態が「不安にする」から「不安にさせる」に、「医者にする」から「医者にさせる」に変わっているにも関わらず、aの文とbの文の間で項の増加が生じていないことを指摘している。

- (4-6) a. この出来事が彼を不安にする。
 b. この出来事が彼を不安にさせる。
 (4-7) a. 彼は息子を医者にする。
 b. 彼は息子を医者にさせる。

((4-1) (4-2)の再掲)

金(2003)は状態述語文が他動化・使役化する過程を次のように説明していて、その関係を(4-8)のように図で表している。

具体的に見ると、状態述語文「YガZい」における状態述語「Zい」は状態変化を表す自動詞「Zくなる」への自動詞化を起こす。そして、その自動詞文から他動化が行われたり、使役化が行われたりすると想定される。このように、自動詞文「YガZくなる」を想定することによって、自動詞文「YガZくなる」と他動詞文「XガYヲZくする」の間には自他関係が、自動詞文「YガZくなる」と使役文「XガYヲZくさせる」の間には使役関係が構築される。(p. 39)

(4-8) a. YがZい。(状態述語文)

↓

b. YがZくなる。(自) → b' XがYをZくさせる。(使役)

↓

c. XがYをZくする。(他) → c' WがXにYをZくさせる。

(使役)

(金2003: 39の(23))

これを具体例で示すと(4-9)のようになるとしている。

(4-9) a. 彼が不安だ。

↓

b. 彼が不安になる。→ b' この出来事が彼を不安にさせる。

↓

c. この出来事が彼を不安にする。

→ c' *Wがこの出来事に彼を不安にさせる。

(金2003: 40の(24))

(4-9b) の自動詞文を使役化すると、(4-9b') の「XがYをZくさせる」になり、(4-9c) の他動詞文を使役化すると、(4-9c') の「WがXにYをZくさせる」になるとしている。ここで、自動詞文の使役形は形態的に「〜くならせる」になるはずであるが、「〜くならせる」は実際にその使用例がほとんど見られないとし、金(2003)は(4-9b') のような「〜くさせる」を「〜くならせる」の意を表す補充形として扱っている。

以上のように金(2003)は「XがYをZくする」を状態述語文の他動化形式、「XがYをZくさせる」を状態述語文の使役化形式と呼び、以下では「X」「Y」の意味役割や有生・無生、「Z」に来る名詞・形容詞がどのような状態を表すかなどから「〜くする」と「〜くさせる」の特徴について論じている。

金(2003)は「X」の意味役割が「動作主」であるか「原因」であるかが「〜くする」と「〜くさせる」の成立に関わるとし、(4-10)と(4-11)をその例として挙げている。Xの意味役割が動作主である(4-10)では「〜くする」が成立するが「〜くさせる」は成立せず、Xの意味役割が原因である(4-11)では「〜くする」と「〜くさせる」の両方とも成立するとしている。

(4-10) a. 太郎は部屋をきれいに**する**。

b. *太郎は部屋をきれいに**させる**。

(4-11) a. この出来事が人々の心を**暗くする**。

b. この出来事が人々の心を**暗くさせる**。

(金2003: 48の(39) (40))

そこで金(2003)は、他動詞文「〜くする」と使役文「〜くさせる」の選択について、「動作主型」と「原因型」に分けて分析を行っている。まず「動作主型」とは、「X」が「YがZくなる」という事態に対して動作

主として関係する場合であるとし、典型的な動作主型になるのは(4-12)～(4-14)のような「X：有生物－ Y：無生物」のパターンであるとしている。これらは括弧のように「〜くさせる」にすると不適格になっている。

- (4-12) 不動産屋はとにかく売りたい一心で、彼女の言い値にあわてたりしながらも売り値を相当安くした(*安くさせた)。

『交差点で石蹴り』

- (4-13) それを払いのけるように頭をふり、徹吉は船室に戻った。着替えをし、灯を暗くして(*暗くさせて)寝床にもぐりこんだ。

『楡家の人びと』

- (4-14) たとえば病院をさらに大きくしよう(*大きくさせよう)とか、基一郎のように積極的に次代の医者養成しようとかいう意図は少しも起こさなかった。『楡家の人びと』

(金2003：60-61の(67)と(67')、(69)と(69')、(74)と(74')を合体)

このように動作主型において「〜くする」が選択される理由について、「それは有生物である「X」には意志性があるが、無生物である「Y」には意志性がないため、「Y」は自力の力で「Z」という状態に変化することができず、「X」の働きかけによってのみ状態変化を実現することができるからである。このような状況では、「X」のコントロールは働きかけの段階と変化の段階の両段階に及ぶため、他動詞文が選択されると考えられる」(pp.61-62)と述べている。

次に、原因型とは「X」が「YがZくなる」という事態に対して原因として関わる場合であるとし、「X：無生物－ Y：無生物」や「X：無生

物— Y：有生物」のパターンがあるとしている。金（2003）は原因型の「Y」が無生物の場合と有生物の場合に分けて分析を行っている。

「Y」が無生物の場合は、（4-15）～（4-17）のように「X：無生物— Y：無生物」のパターンで「X」が原因、「Y」が対象の意味役割を持ち、全て他動詞文が選択されているとしている。これらを括弧のように「〜くさせる」にすると成立しないとしている。

（4-15） ローソクの火が部屋の中を明るくした（??/*明るくさせた）。

『孤高の人』

（4-16） もうそろそろ晴れてもいいころだと思うのだが、新雪はさらに雪の層を厚くして（??/*厚くさせて）いた。『孤高の人』

（4-17） 香辛料は料理をおいしくする（??/*おいしくさせる）。

（金2003：62-63の（80）と（80'）、（83）と（83'）、（84）と（84'）を合体）

上記の例において「〜くする」が選択される理由について、「（略）「Y」が意志性のない無生物であるため、「Y」は自らの能力で状態変化を実現することができないからである。つまり、原因である「X」のコントロールは働きかけの段階と変化の段階の両方に及ぶことになる」（p.63）と述べている。

次に原因型において「Y」が有生物の場合は、（4-18）～（4-20）のように「X：無生物— Y：有生物」のパターンであり、「〜くさせる」が選択されるとしている。これらを括弧のように「〜くする」にすると文の容認度が落ちてしまうとしている。

（4-18） 大戸の取材に来たと言うことを、森田が思いのほか喜んでくれるらしいことが、私を心苦しくさせた（?心苦しくした）。

『一瞬の夏』

(4-19) 人を笑わせ、楽しくさせる（?楽しくする）ことがあなたに
与えられた使命です。『交差点で石蹴り』

(4-20) 新潟に限らないが、観光客を失望させる商道德の欠如が旅を
つまらなくさせ（?つまらなくし）、郷土の評判を落としてい
ることに気づいてほしい。『朝日新聞 1997.5.9』

（金2003：64-65の（90）と（90'）、（91）と（91'）、（95）と
（95'）を合体）

上記の例において「～くさせる」が選択される理由について、「（略）
「X」には意志性のない無生物が「Y」には意志性のある有生物が来ているため、「Y」が「Z」という状態に変化するにあたって「X」の働きかけは原因や誘発にとどまるからであると考えられる。つまり、「X」は「原因」の意味役割を、「Y」は「経験者」の意味役割を持つが、このような状況において「X」のコントロールは働きかけの段階には及ぶが、変化の段階には及ばないのである」（p.66）と述べている。

以上、原因型は「Y」に意志性のない無生物が来れば「～くする」が、「Y」に意志性のある有生物が来れば「～くさせる」が選択されることを見たが、金（2003）はこれが原因型の全てにおいて適用されるわけではないことを指摘している。金（2003）は、原因型において「Y」が無生物でも「～くさせる」が選択されたり、「Y」が有生物でも「～くする」が選択されたりする、「～くする」と「～くさせる」の中和現象があるとしている。

まず「Y」が無生物にも関わらず「～くさせる」も選択される場合として、（4-21）～（4-23）が挙げられている。

(4-21) 彼らの人生はまさに旅である。故郷のないことが旅を容易にさせる（容易にする）。そして悲しくさせる（悲しくする）。『若き数学者のアメリカ』

(4-22) その労働のリズムが急に彼の気持を軽くさせた（軽くした）。『砂の女』

(4-23) 日米交渉のひきつづく圧迫感も、この老いかけた男の頭をひとときわ重苦しくさせ（重苦しくし）、院長会議の判で押したような話題もその不機嫌をつのらせた。『榆家の人びと』

(金2003：67-68の(105) (110) (113))

「〜くする」と「〜くさせる」の両方が成り立つ要因を明らかにするために、金(2003)は次のように「〜くする」のみが選択される例における「Y」と「〜くする」「〜くさせる」の両方が選択される例における「Y」を取り上げている。金(2003)は(4-24)と(4-25)を比較し、(4-24)では具体的な実物を指す名詞句が主流をなすのに対して、(4-25)では出来事や概念などを表す抽象名詞句が主流をなすとしている。特に(4-25)の名詞は人間を背後に読み込ませる性質を持つことを強調している。

(4-24) 「する」のみが選択される例における「Y」：（動作主型）
売り値、レポートや数字の表、灯、魚、伐った竹、設備、砂の傾斜、病院、阿片、日本酒

「する」のみが選択される例における「Y」：（原因型）
野良着、部屋の中、戦場の交通、味、雪の層、料理、チョコレート

(4-25) 「する」、「させる」両方が選択される例における「Y」：
旅、抱擁、妄想、防衛、沈黙、心、気持ち、気、気色、頭

(金2003：69の(119) (120))

「Y」が無生物にも関わらず「させる」も選択されるのは、(4-25)のように背後に人間を読み込ませる性質を持つことで、「X」のコントロールの範囲を働きかけの段階にとどまらせることになるためであると論じている。

また「Y」が有生物にも関わらず「～くする」も選択される場合として、(4-26)～(4-28)が挙げられている。

(4-26) 恋が女を美しくする（美しくさせる）というのは嘘だなど
と思いつつ、なぜ、と七瀬は訪ねた。『エディプスの恋人』

(4-27) このコンプレックスは、当然の反作用として、私を不必要な
までに攻撃的にさせた（攻撃的にした）。

『若き数学者のアメリカ』

(4-28) だが、このふかい絶望にもかかわらず、事態はほとんどいつ
も予想したよりははるかにいいものだ、という経験が、ぼく
を、はげましたというより凶太くさせて（凶太くして）いた
ことも事実である。『聖少女』

(金2003：70の(125)、金2003：71の(130)(131))

「する」と「させる」の両方が成り立つ要因を明らかにするために、ここでも金(2003)は「Y」が有生物で「～くさせる」のみが選択されている例と上記の例を比較しているが、ここで「Y」は同じく有生物であり違いが見られないため、「Z」の性質の違いを見ている。まず「Z」が名詞句の場合、(4-29)には「気持ち、気分、心地」など人間の感情・心理状態を表す主観的な性質を帯びる名詞句が来ているが、(4-30)には「盲目、無気力、相撲取り」など客観的な状態や職業などを表す名詞句が来て

いるとしている。次に「Z」が形容詞、形容動詞の場合、(4-29)は感情形容詞が、(4-30)は属性形容詞が来ているとしている。

(4-29) 「させる」のみを許容する傾向を示す例における「Z」：

名詞：気持、気分、心地

形容詞：不快だ、嬉しい、空虚だ、心苦しい、楽しい、悲しい、
苦しい、寂しい、眠い、つまらない

(4-30) 「する」、「させる」両方を許容する傾向を示す例における「Z」：

名詞：盲目、無気力、相撲取り

形容詞：愉快だ、投機的だ、攻撃的だ、大胆だ、美しい、図太い

(金2003：71の(133) (134))

以上、名詞句の場合、(4-30)の「盲目、無気力、相撲取り」は客観的性質を持ち「X」のコントロールの範囲を広くするため「〜くする」も成立させているのに対して、(4-29)の「気持、気分、心地」は主観的性質を持ち「X」のコントロールを変化の段階にまで及ぼせることが困難であるため「〜くする」が成立しにくくなっていると論じている。次に形容詞の場合、(4-30)は「愉快だ、投機的だ、攻撃的だ」など属性形容詞が来ているが、属性形容詞は対象のある側面を切り取って一般化して表現する性質を持つため、捉え方によっては有生物の「Y」を無生物と同等に捉えることも可能であるとしている。例えば「私を攻撃的にした」の場合、攻撃的にする対象は意志性を持つ「私」ではなく、「私の態度や言い方」など単なる有生物ではなくなるため「X」のコントロールの範囲が広がると論じている。一方、(4-29)は「不快だ、嬉しい、空虚だ」など感情形容詞が来ているが、感情形容詞は人間の感情・感覚を表す性質を持つため

属性形容詞と違って「X」のコントロールは感情の変化まで及ぶことがないと論じている。

以上、金（2003）の「XがYをZくする」構文と「XがYをZくさせる」構文の構文的・意味的特徴をまとめると表4-2のようになる。表4-2は金（2003）に基づき筆者（権）が作成したものである。

表4-2 金（2003）の「XがYをZくする」構文と「XがYをZくさせる」構文の特徴

	「XがYをZくする」	「XがYをZくさせる」	「する」「させる」の中和現象	
			「させる」も可能	「する」も可能
構文的特徴	他動詞文	自動詞の使役文	-	-
「X」「Y」の無生/有生（「X」「Y」の意味役割）	「X：有生物、Y：無生物（X：動作主、Y：対象）」 「X：無生物、Y：無生物（X：原因、Y：対象）」	「X：無生物、Y：有生物（X：原因、Y：経験者）」	「Y：無生物」	「Y：有生物」
「Y」の特徴	具体的な実物を指す名詞句（例：売り値、灯、野良着、チョコレート）	-	背後に人間を読み込ませる名詞句（例：沈黙、心、頭）	-
「Z」の特徴	-	感情・心理状態を表す名詞句（例：気持、気分、心地）、感情形容詞（例：不快だ、嬉しい、心苦しい）	-	客観的な状態や職業などを表す名詞句（例：盲目、相撲取り）、属性形容詞（例：投機的だ、美しい）
状態変化における「X」のコントロールの範囲	「Y」が意志性のない無生物であるため、「X」のコントロールが働きかけの段階と変化の段階の両段階に及ぶ	「Y」が意志性のある有生物であるため、「X」のコントロールが働きかけの段階に留まる	「Y」は無生物にも関わらず、背後に人間を読み込ませるので、「X」のコントロールの範囲が働きかけの段階に留まる	「Y」は有生物であるが無生物と同等に捉えることも可能であり、「X」のコントロールの範囲が広がる

金（2003）は「XがYをZくする」構文を他動詞文に、「XがYをZくさせる」構文を自動詞の使役文に位置付け、他動と使役という観点から二つの構文の違いを論じている点で興味深い。各構文の「Y」「Z」の特徴に関してはより分析する余地がある。

まず「Y」の場合、金（2003）は「有生物」と「無生物」の二つに分けているが、金（2003）が「無生物」として扱っているものはより詳細に分けることができる。例えば、金（2003）は「チョコレート」「沈黙」「心」「頭」を無生物として扱っているが、「チョコレート」は「チョコレートを丸くする」のように直接的にコントロールできるが、「心」は「?花子の心を丸くする」のように直接的にコントロールしにくい。そこで、本研究では「Y」の名詞句をまずは大きく「有情物」「非情物」「有情物の部分」に分けて、「有情物の部分」はさらに「心」「カラダ」に、「非情物」はさらに「コト」「モノ」に細分する。「Y」は詳細に五つに分類されるが、これらの分類については4.3節で論じる。

また、「スル」構文と「サセル」構文における五つの「Y」の分布を調査し、その分布に基づき「スル」構文と「サセル」構文の「Y」へのコントロールの特徴を論じる。これは4.4節で論じる。

次に「Z」の場合、金（2003）は「Y」が有生物である場合、「Z」に感情形容詞が現れるとしているが、どのような感情形容詞が「Z」に現れやすく、どのような感情形容詞が「Z」に現れにくいかに関しては考察していない。例えば、「楽しい」も「憎い」も感情形容詞であるが、「その言葉が花子を楽しくさせる」は言えるが「*その言葉が花子を憎くさせる」は言いにくいように、感情形容詞でも違いが表れる。また、「Y」が有生物で「Z」が感情形容詞の場合、「スル」が使われることについては

特に言及していないが、「その言葉が花子を楽しくする」のように感情形容詞が使われる例文が見られる。¹⁹

以下、「～スル」構文「～サセル」構文の共起についてコーパスを使って調査し、その特徴を分析する。

4.3 コーパス調査の概要

本節では、「XガYヲ～クスル」構文と「XガYヲ～クサセル」構文について、BCCWJの「中納言」で調査を行った。「～スル」「～サセル」構文と共起する語として対象にしたのは第1章で提示した形容詞275語である。用例の抽出方法は次のようになる。

① 検索の設定

・「～スル」構文の場合

i) 単一語

検索対象：全て

長単位検索：例) 甘い

キー：「語彙素読み」が「アマイ」

後方共起1：キーから1語

「語彙素読み」が「スル」

ii) 複合語

検索対象：全て

長単位検索：例) 興味深い

前方共起1：キーから1語

¹⁹ 「～スル」と感情形容詞の共起に関して、楊（1986）、大曾（1987、2001）、池上（2003）は共起しにくいと述べている。一方、森（2004）、頼（2008）、権（2010）は共起できるとしているが、どのような感情形容詞が用いられやすいかについては論じていない。

「語彙素読み」が「キョウミ」

キー：「語彙素読み」が「フカイ」

後方共起1：キーから1語

「語彙素読み」が「スル」

・「〜サセル」構文の場合

i) 単一語

検索対象：全て

長単位検索：例) 甘い

キー：「語彙素読み」が「アマイ」

後方共起1：キーから1語

「語彙素読み」が「スル」

後方共起2：キーから2語

「語彙素読み」が「セル」

ii) 複合語

検索対象：全て

長単位検索：例) 興味深い

前方共起1：キーから1語

「語彙素読み」が「キョウミ」

キー：「語彙素読み」が「フカイ」

後方共起1：キーから1語

「語彙素読み」が「スル」

後方共起2：キーから2語

「語彙素読み」が「セル」

- ② ①のように検索し「〜スル」構文は延べ語数13,963例、「〜サセル」構文は延べ語数415例出現した。このうち同じ文が重複するもの、「親は普段からよくしてくれる」のようにヲ格名詞句が省略されて

いるものなどは除外した。その結果、「〜スル」構文は延べ語数7,516語、異なり語数111語が、「〜サセル」構文は延べ語数241語、異なり語数74語が抽出できた。

以上のように抽出した文を基に、以下、「〜スル」構文と「〜サセル」構文におけるヲ格名詞句や共起する形容詞の特徴を明らかにする。

4.4 ヲ格名詞句の特徴

本節では「XガYヲ〜クスル」構文と「XガYヲ〜クサセル」構文の「Y」に来るヲ格名詞句を大きく「有情物」「有情物の部分」「非情物」に分けて、このうち「有情物の部分」は「心」「カラダ」に再分類し、「非情物」は「コト」「モノ」に再分類した。これらを図示すると次の図4-1のようになり、細分すると五つの分類になる。

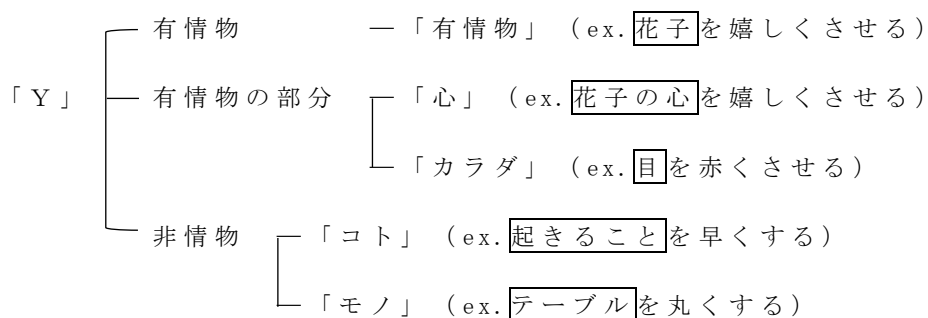


図4-1 「Y」に現れる名詞の再分類

上記の分類にはコントロールが関連している。まず「有情物」は人の状態でありコントロールしにくく、「非情物」の「コト」「モノ」は有情物の外部に存在するものでありコントロールしやすい。一方、「有情物の一部」である「心」「カラダ」は「有情物」と「非情物」の間のものである。

り「心」はより「有情物」に近いものでありコントロールしにくく、「カラダ」はより「モノ」に近いものでありコントロールしやすいと思われる。

形容詞の対象語について、西尾（1972）や細川（1989）は「人」「カラダ（体の部分）」「コト」「モノ」のように分類している。²⁰それによって、形容詞が取る対象語が異なることを示唆している。これを受け本稿では「〜スル」構文と「〜サセル」構文のヲ格名詞句を「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の五つに分類する。以下、「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の順に説明する。

i. 「有情物」

心があり、感情や感覚を持つものを「有情物」とする。（4-31）～（4-33）はヲ格名詞句に有情物が現れる例であり、主語（X）が「私」「老婦人」「人」といった有情物の感情・属性をコントロールしている。有情物は固有の感情を持つものであるため、その状態を直接的にコントロールしにくい。

（4-31） 私を受け入れてくれる気持ちが、私をうれしくさせます。

（『女性セブン』）

（4-32） 「その男とのあいだには子供が一人いましたね！」彼はこのことばを投げつけて、老婦人をおとなしくさせようと思った。

（高行健著、飯塚容訳『ある男の聖書』）

（4-33） 試練は人を大きくするのだ！！（Yahoo!ブログ）

²⁰ 西尾（1972）は形容詞の対象語を「人」「体の部分」「モノ」「コト」のように分けていて、細川（1989）は形容詞の対象語を「カラダ」「モノ」「コト」のように分けている。

ii. 「心」

「心、気持ち、思い」のような有情物の感情・意志などを表すものを「心」とする。(4-34)～(4-36)はヲ格名詞句に心が現れる例であり、主語(X)が「ぼくの心」「男のハート」「相手の気持ち」といった心の感情をコントロールしている。これらの例で「心」は「有情物の～」のような形で表れていて有情物の部分であり、「有情物」と同様にその状態を直接的にコントロールしにくい。

(4-34) そんな思いが、お墓という死者を祀る場所に立つ **ぼくの心** を寂しくさせる。(佐藤藤三郎『村に、居る。』)

(4-35) (略) A・ヘプバーンの役どころは、それまで恋は火遊びだよくらいにしか考えていなかった男の認識をガラッと変え、女なんてくだらんと考えていた **男のハート** を熱くさせてしまうという、まるで恋愛革命家みたいな女たちだった。(『COSMOPOLITAN 日本版』)

(4-36) ユーモアをまじえ、**相手の気持ち** を明るくしながら、親近感を持つようにします。(内藤和美『イラストでわかる驚くほど売上げが伸びる話し方』)

iii. 「カラダ」

有情物の身体や身体の一部を「カラダ」とする。(4-37)～(4-39)はヲ格名詞句にカラダが現れる例であり、主語(X)が「すべての人々の頭」「手首」「眼」といったカラダの感覚・様子をコントロールしている。「カラダ」は有情物の部分であり感覚を感じるという点で「非情物」とは

区別されるが、「有情物」「心」に比べればその状態をより直接的にコントロールできる。

(4-37) しかしその一方で、この千九百八年という年には、ボスニア併合も起こりました。当時、この問題はすべての人々の頭を熱くさせました。(アウグスト・クビツェク著、橋正樹訳『アドルフ・ヒトラーの青春』)

(4-38) ●ストレッチー1手首をストレッチ最初に、手首を柔らかくしましょう。(岩下聡『手軽にかんたんフィットネス』)

(4-39) それは耕助のくせをまだ知らぬ、佐清がびっくりして、眼をまるくしたくらい猛烈なものだった。(横溝正史『犬神家の一族』)

v. 「コト」

抽象的な事態を「コト」とする。(4-40)～(4-42)はヲ格名詞句にコトが現れる例であり、主語(X)が「小作争議」「日本の独立」「同僚との関係」といったコトの状態をコントロールしている。「コト」は有情物の外部に存在するものであり、その状態を直接的にコントロールしやすい。

(4-40) 宣言では、このような封建的な地主の姿勢が、小作争議をはげしくしているとも述べられています。(田邊裕他『新しい社会 歴史』)

(4-41) その際、彼らは、日本の独立を危うくする最大の要因は、大国ロシアの南下にあると考えました。(山田朗『護憲派のための軍事入門』)

(4-42) 私も職場にそういう性格のおばさんがいて同僚との関係を悪くさせられた事あります。(Yahoo!知恵袋)

iv. 「モノ」

現実の空間に存在する実物を「モノ」とする。(4-43)～(4-45)はヲ格名詞句にモノが現れる例であり、主語(X)が「巣」「制服のスカート」「ボルト」といったモノの形状をコントロールしている。「モノ」は有情物の外部に存在するものであり、その状態を直接的にコントロールしやすい。

(4-43) その年の秋休みに東京から帰つて来て掘つてみると、蜂が巣を大きくするために蜜柑箱の底を喰ひ破つて、巣の層が十三段もありました。(井伏鱒二『井伏鱒二自選全集』)

(4-44) 高校に入ったら、中学の時できなかったことをいっばいしたい。制服のスカートを短くしたり、当時まだ本格的に流行る前のルーズソックスをはいたり、新しいピンクの自転車に乗ったり。(園山真希絵『食べてキレイ。』)

(4-45) 真木は缶を金切り鋏で切って短冊状のアルミ片を二枚つくり、ナットの外れたボルトにそれを巻きつけた。ボルトを太くすれば、径の大きなナットも使える理屈だ。(『小説宝石』)

以上のようなヲ格名詞句の五つの分類に基づき、BCCWJで抽出した「〜スル」構文と「〜サセル」構文の用例におけるヲ格名詞句の分布を見た。その結果、「〜スル」構文と「〜サセル」構文のヲ格名詞句の分布は表4-3のようになる。表の中の出現率は延べ語数に対する割合である。ヲ格名詞句は上記の順番と同様に「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の順に並べた。

表4-3 「〜スル」構文と「〜サセル」構文のヲ格名詞句の分布
 (「〜スル」構文の延べ語数：7,516語、異なり語数：111語、
 「〜サセル」構文の延べ語数：241語、異なり語数：74語)

	有情物	心	カラダ	コト	モノ	合計
スル	159 (2.1%)	399 (5.3%)	1,307 (17.4%)	5,034 (67.0%)	617 (8.2%)	7,516 (100.0%)
サセル	77 (32.0%)	32 (13.3%)	24 (10.0%)	103 (42.7%)	5 (2.1%)	241 (100.0%)

「〜スル」構文と「〜サセル」構文は、両方とも「コト」の出現率が一番高く、「〜スル」構文は67.0%を、「〜サセル」構文は42.7%を占めている。一方、「コト」以外のヲ格名詞句に関しては「〜スル」構文と「〜サセル」構文の間でその順番が異なる。まず「〜スル」構文では「コト」の後に「カラダ」「モノ」「心」「有情物」が続くが、「〜サセル」構文では「コト」の後に「有情物」「心」「カラダ」「モノ」が続く。

これは、金(2003)の「原因型において「Y」に意志性のない無生物が来れば、「X」のコントロールが働きかけの段階と変化の段階の両方に及ぶため、他動化が選択され、「Y」に意志性のある有生物が来れば、「X」のコントロールが働きかけの段階にとどまるため、使役化が選択される」(p.67)と大体一致する結果であり、「〜スル」構文はヲ格名詞句を完全・直接的にコントロールするが「〜サセル」構文はヲ格名詞句を間接的にコントロールする特徴を持つと考えられる。

以上、本節ではヲ格名詞句を五つに分類して、「〜スル」構文と「〜サセル」構文のヲ格名詞句の分布を比較したが、次の4.5節では「〜スル」構文と「〜サセル」構文に現れる形容詞の特徴を考察する。

4.5 共起する形容詞の特徴

本節では「〜スル」構文、「〜サセル」構文と共起する形容詞の特徴を見る。表4-4と表4-5は、共起する形容詞を出現数の上位40位までの形容詞に示したものである。「数」は出現数を、「類」は本研究における形容詞の七つの類型を表す。以下同様。

表4-4 「〜スル」構文と共起する形容詞(延べ語数：7,516語、異なり語数：111語)

形容詞	数	類	形容詞	数	類	形容詞	数	類	形容詞	数	類	形容詞	数	類
1 良い	924	6少	重い	6	6少	激しい	6	6少	貧しい	6	6少	暑苦しい	4	4熱
2 大きい	645	6少	24 厳しい	73	6少	48 おかしい	5	5危	優しい	5	5危	危ない	5	5危
3 少ない	460	6少	濃い	6	6少	18 緩い	6	6少	苦しい	3	3寂	卑しい	5	5危
4 小さい	404	6少	27 暗い	71	6少	7 黒い	7	7赤	寒い	4	4熱	疑わしい	5	5危
5 丸い	397	7赤	28 安い	70	6少	50 冷たい	4	4熱	近い	6	6少	美味しい	4	4熱
6 悪い	371	6少	29 難しい	69	5危	16 ややこしい	5	5危	72 つまらない	5	5危	4 恐ろしい	3	3寂
7 強い	368	6少	30 狭い	62	6少	青い	7	7赤	鈍い	6	6少	重苦しい	5	5危
8 低い	327	6少	31 厚い	61	6少	53 暖かい	13	4熱	偉い	6	6少	賢い	5	5危
9 高い	292	6少	32 新しい	56	6少	6 険しい	6	6少	可愛い	5	5危	悲しい	2	2嬉
10 軽い	226	6少	33 熱い	49	4熱	56 浅い	6	6少	77 さびしい	3	3寂	94 黄色い	7	7赤
11 短い	217	6少	34 遅い	48	5危	12 温かい	4	4熱	4 渋い	4	4熱	94 気まずい	5	5危
12 かたい	195	6少	35 遅い	46	6少	58 空しい	11	3寂	乏しい	6	6少	臭い	4	4熱
13 長い	192	6少	35 弱い	46	6少	59 きつい	10	6少	痛い	3	3寂	快い	5	5危
14 多い	174	6少	37 細かい	44	6少	60 詳しい	9	6少	大人しい	5	5危	素晴らしい	5	5危
15 明るい	143	6少	38 楽しい	41	3寂	9 等しい	7	7赤	重たい	4	4熱	容易い	6	6少
16 柔らかい	123	4熱	39 美しい	40	5危	82 気持ち良い	3	3寂	汚い	2	6少	甚だしい	6	6少
17 赤い	117	7赤	40 面白い	37	5危	8 涼しい	4	4熱	82 力強い	5	5危	めでたい	5	5危
18 細い	89	6少	41 酸っぱい	35	4熱	5 ひどい	5	5危	3 っらい	3	3寂	若々しい	5	5危
19 広い	87	6少	42 正しい	29	7赤	65 平たい	7	7赤	3 物悲しい	3	3寂	煩わしい	5	5危
20 はやい	82	6少	43 白い	27	7赤	66 甘い	4	4熱	脆い	6	6少			
21 薄い	75	6少	44 あらい	23	6少	66 でかい	6	6少	易しい	6	6少			
22 危うい	74	5危	45 太い	22	6少	醜い	5	5危	若い	6	6少			
深い	6	6少	46 美味しい	20	4熱	69 遠い	5	6少	92 暑い	1	4熱			

表4-5 「〜サセル」構文と共起する形容詞(延べ語数：241語、異なり語数：74語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類	
1	大人しい	19	5危	18	難しい		5危	41	親しい		6少	25	痛い		3寂	4	遅しい		5危	
2	熱い	18	4熱		薄い		6少		少ない		6少		苛立たしい		2嬉		正しい		7赤	
	悪い				6少	嬉しい			2嬉	鋭い			6少	美しい			5危	つまらない		5危
4	気持ち良い	15	3寂		かたい		6少		高い		6少		美味しい		4熱		乏しい		6少	
	楽しい				3寂	悲しい			2嬉	たまらない			5危	多い			6少	悩ましい		5危
6	大きい	12	6少		厳しい		6少		小さい		6少		恐ろしい		3寂		鈍い		6少	
7	良い	9	6少		切ない		3寂		つらい		3寂		重苦しい		5危		広い		6少	
8	息苦しい	8	4熱		低い		6少		等しい		7赤		軽い		6少		紛らわしい		5危	
9	強い	7	6少		貧しい		6少		深い		6少		黄色い		7赤		短い		6少	
10	激しい	5	6少		厚い		6少		緩い		6少		きつい		6少		珍しい		6少	
	丸い				7赤	忙しい			5危	青い			7赤	気難しい			5危	脆い		6少
12	赤い	4	7赤		おかしい		5危		浅い		6少		苦しい		3寂		優しい		5危	
	明るい				6少	遅い			6少	温かい			1	4熱	詳しい			6少		
	危うい				5危	重い			6少	甘い			4熱	寒い			4熱	ややこしい		5危
	寂しい				3寂	暗い			6少	あらい			6少	騒々しい			5危			

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に現れる形容詞の類型を全体的に見ると、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が多く、⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類の語が見られる。ただし、「〜スル」構文では⑥「少ない」類が上位を占めているのに対して、「〜サセル」構文では③「寂しい」類が上位を占めていることが特徴的であり、②「嬉しい」類は「〜サセル」構文において見られる。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も①「憎い」類との共起は見られない。

このように、「〜スル」構文と「〜サセル」構文は両方とも属性を表す形容詞と共起するが、「〜サセル」構文は「〜スル」構文に比べて感情を表す形容詞がより多く現れていることが特徴的である。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も「憎い」「恨めしい」のような感情度の高い形容詞は現れていない。

以下4.5.1節～4.5.5節では、五つのヲ格名詞句ごとに「〜スル」構文、「〜サセル」構文と共起する形容詞の特徴を見ていく。ヲ格名詞句の順番

は4.4節と同様に「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の順である。

4.5.1 ヲ格名詞句が「有情物」の場合

ヲ格名詞句が「有情物」の場合、「〜スル」構文、「〜サセル」構文と共起する形容詞を全てまとめると表4-6と表4-7のようになる。

表4-6 「有情物ヲ〜クスル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：159語、異なり語数：42語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	強い	27	6少	12	偉い	6	6少	26	物悲しい	3	3寂	1	狭い	6	6少
2	良い	17	6少		多い	6	6少		若い	6	6少		高い	6	6少
3	大きい	15	6少		かたい	6	6少		悪い	6	6少		遅しい	5	5危
4	弱い	9	6少		醜い	5	5危		新しい	6	6少		つらい	3	3寂
5	空しい	8	3寂		熱い	4	4熱		危うい	5	5危		鈍い	6	6少
6	美しい	7	5危		厚い	6	6少		大人しい	5	5危		酷い	5	5危
	低い		6少		おかしい	5	5危		重い	6	6少		等しい	7	7赤
8	明るい	6	6少		軽い	2	26少		賢い	5	5危		太い	6	6少
9	気持ち良い	5	3寂		白い	7	7赤		悲しい	2	2嬉		柔らかい	4	4熱
	小さい		6少		楽しい	3	3寂		黒い	7	7赤				
11	少ない	4	6少		貧しい	6	6少		涼しい	4	4熱				

表4-7 「有情物ヲ〜クサセル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：77語、異なり語数：22語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	大人しい	19	5危	8	悲しい	2	2嬉	13	明るい	6	6少	1	気難しい	5	5危
2	気持ち良い	15	3寂		忙しい	5	5危		苛立たしい	2	2嬉		親しい	6	6少
3	息苦しい	7	4熱		暗い	6	6少		美しい	5	5危		つらい	3	3寂
	楽しい		3寂		寂しい	2	3寂		おかしい	5	5危		優しい	5	5危
5	熱い	3	4熱		切ない	3	3寂		重苦しい	5	5危				
	嬉しい		2嬉		たまらない	5	5危		かたい	6	6少				

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に現れる形容詞の類型を全体的に見ると、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も⑥「少ない」類、⑤「危ない」類、④「熱い」類、③「寂しい」類が現れている。ただし、「〜スル」構文では⑦「赤い」類が現れているのに対して「〜サセル」構文では現れておらず、「〜サセル」構文では②「嬉しい」類が現れているのに対して

「〜スル」構文では現れていない。また「〜スル」構文では⑥「少ない」類が上位を占めているが、「〜サセル」構文では③「寂しい」類が上位を占めていることが特徴的である。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も①「憎い」類は現れていない。

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に共通して現れる形容詞は、「明るい」「大人しい」「熱い」「気持ち良い」など属性・評価・感覚・感情を表す形容詞であり、これらは⑥～③類に該当する。(4-46)～(4-53)は「明るい」「大人しい」「熱い」「気持ち良い」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起して、人をその形容詞の状態に変化させることを表している。例えば、(4-46) (4-47)は「明るい」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起する例であるが、「〜スル」構文の(4-46)は「みんな」(Y)を「明るい」状態に変化させるように直接的にコントロールして、「〜サセル」構文の(4-47)は「その子」(Y)を「明るい」状態に変化させるように間接的にコントロールしている。他の例文も同様である。

(4-46) 学校でもはじけているのか、落ち着いているのかよく分からなくてけどそれがよくてみんなを明るくしてくれていたまつきー氏 (Yahoo!ブログ) 【⑥類】

(4-47) そのようにすることが、その子を明るくさせようとしたり、憂鬱さを取り去ろうとしたりするよりも、ずっとよい効果を生み出すのです。(カロリーネ・フォン・ハイデブラント著、西川隆範訳『子どもの体と心の成長』) 【⑥類】

(4-48) なんとか柴犬を大人しくする方法はないでしょうか？ (Yahoo!知恵袋) 【⑤類】

(4-49) 「その男とのあいだには子供が一人いましたね！」彼はこのことばを投げつけて、老婦人をおとなしくさせようと思った。(高行健著、飯塚容訳『ある男の聖書』) 【⑤類】

- (4-50) ファンを熱くする美意識 ですが、私はみなさんに『ローマ人の物語』を読破せよ、と勧めているわけではないのです。
(福田和也『悪の読書術』) 【④類】
- (4-51) 私も阪神ファン、タイガースはファンを熱くさせる、面白い野球をやってくれる、こないだの中日戦なんか最高！
(Yahoo!知恵袋) 【④類】
- (4-52) 「奈央美さん、触って…詩ちゃんを気持ちよくしてあげて…」
(開田あや『禁断の告白』) 【③類】
- (4-53) 「僕らはある意味ホストであって、どれだけお客さんを気持ち良くさせるかが大切。(『Boon (ブーン)』) 【③類】

一方、「～スル」構文のみと共起するのは「白い、黒い」など⑦「赤い」類であり、(4-54) (4-55) は「白い」「黒い」が「～スル」構文と共起する例である。これらは「赤く育った人」「自分」といった人を「白い」「黒い」状態に変化させるように直接的にコントロールしている。括弧のように「～サセル」には置き換えにくい。

- (4-54) よそのお母さんが育ててきたものをね、変えられるわけがないという、そこをまず考えなさいということです。 赤く育った人を白くしよう (*白くさせよう) というのは、何年もかかるものなんです。(野村有紀子、野村沙知代『日本一勇気ある嫁』) 【⑦類】
- (4-55) ほんとうの殺人は、窓ぎわから銃を撃って、窓から逃げ出した何者かによってなされた—ホワイトの靴でない靴を履いて、ホワイトが持っているはずのない銃を持っていた何者かによって。要するに、ホワイトは、あとから白くするために、

わざと自分を黒くした（*黒くさせた）のです。（カーター・ディクスン著、田口俊樹訳『第三の銃弾』）【⑦類】

また、「～サセル」構文のみに共起するのは「嬉しい」「苛立たしい」のような②「嬉しい」類であり、(4-56) (4-57) は「嬉しい」「苛立たしい」が「～サセル」と共起する例である。これらは「相手」「彼」といった人を「嬉しい」「苛立たしい」状態に変化させるように間接的にコントロールしている。そのため、括弧のように「～スル」に置き換えにくい。

(4-56) 言い方ひとつで、相手を嬉しくさせたり（?嬉しくしたり）、
がっかりさせたりすることに気付く。（森田弘行『小五教育技術』）【②類】

(4-57) ダッシュはクラレンの悲しみにすっかり気をとられて、この女性が彼をどんなにいらだたしくさせられる（?いらだたしくすることができる）か、ほとんど忘れていたのだった。
（ジョアン・ロス作、柴田礼子訳『ルールは無用』）【②類】

さらに、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類が現れていない。(4-58)～(4-60)では①「憎い」類の「憎い」「恨めしい」「恋しい」が「～スル」「～サセル」構文と共起する例であるが、どちらも不自然になる。それは、「憎い」「恨めしい」「恋しい」といった感情はコントロールによってそのような状態に変化させることが難しいためであると思われる。

(4-58) a. *花子を憎くする。【①類】

b. *花子を憎くさせる。

(4-59) a. *花子を恨めしくする。【①類】

- b. *花子を恨めしくさせる。
- (4-60) a. *花子を恋しくする。【①類】
- b. *花子を恋しくさせる。

以上、有情物をヲ格名詞句に取る「〜スル」構文と「〜サセル」構文は、⑥〜③類の属性・評価・感覚・感情を表す形容詞が用いられている点で共通しているが、「〜スル」構文は「〜サセル」構文と違って⑦類が用いられていて「〜サセル」構文は「〜スル」構文と違って②類が用いられている。また「〜スル」構文も「〜サセル」構文も①「憎い」類は用いられていない。

このことから、「有情物ヲ〜クスル／サセル」構文において、属性・評価・感覚・感情を表す形容詞が用いられるが、「〜スル」構文は「〜サセル」構文より属性を表す形容詞との共起範囲が広く「〜サセル」構文は「〜スル」構文より感情を表す形容詞との共起範囲が広いことが考えられる。また、二つの構文とも「憎い」「恨めしい」など感情度の高い形容詞と共起しにくい。

4.5.2 ヲ格名詞句が「心」の場合

ヲ格名詞句が「心」の場合、「〜スル」構文、「〜サセル」構文と共起する形容詞を全てまとめると表4-8と表4-9のようになる。

表4-8 「心ヲ〜クスル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：399語、異なり語数：22語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		
1	悪い	145	6少	7	暗い	11	6少	15	かたい		6少	1	冷たい		4熱		
2	良い	114	6少	8	正しい	8	7赤		柔らかい		4熱			遠い		6少	
3	強い	31	6少	9	軽い	6	6少		新しい		6少			貧しい		6少	
4	明るい	25	6少	10	温かい	5	4熱		美しい		5危			空しい		3寂	
5	熱い	21	4熱	11	優しい	3	5危		大きい		6少						
6	重い	16	6少	12	暖かい	2	4熱		寂しい		3寂						

表4-9 「心ヲ〜クサセル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：32語、異なり語数：12語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	悪い	11	6少	4	強い	3	6少		明るい		6少		重い		6少
2	熱い	4	4熱	5	寂しい	2	3寂	7	温かい	1	4熱		軽い		6少
	良い		6少		楽しい		3寂		痛い		3寂		切ない		3寂

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に現れる形容詞の類型を全体的に見ると、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も⑥「少ない」類、④「熱い」類、③「寂しい」類が現れている。ただし、「〜スル」構文では⑦「赤い」類と⑤「危ない」類が現れているのに対して、「〜サセル」構文では現れていない。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も①「憎い」類と②「嬉しい」類は現れていない。

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に共通して現れる形容詞は、「強い」「熱い」「寂しい」など属性・感覚・感情を表す形容詞であり、これらは⑥類、④類、③類に該当する。(4-101)～(4-106)は「強い」「熱い」「寂しい」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起して、心をその形容詞の状態に変化させることを表している。例えば、(4-101) (4-102)は「強い」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起する例で、(4-101)の「〜スル」構文は「天皇の心」(Y)を「明るい」状態に変化させることを、(4-102)の「〜サセル」構文は「外界との交渉を完全に断ち切ろうとする気持ち」(Y)を「明るい」状態に変化させることを表している。他の例文も同様である。

(4-61) 吉田定房の計らいで危うく脱出はしたが、さてその先はどうしたらよいかと思っていた矢先の正成の進言は、天皇の心を強くした。(新田次郎『新田義貞』) 【⑥類】

- (4-62) (略) こうした外国からの侵略の企てはかえって私たちの島国的偏見を強め、外界との交渉を完全に断ち切ろうとする気持ちを強くさせた。(岡倉天心『日本の目覚め』) 【⑥類】
- (4-63) こんなに長く胸を熱くするスポーツを、私は他に知りません。(Yahoo!知恵袋) 【④類】
- (4-64) こんなにも胸を熱くさせるバンドをあなたは知っているか!? (『Weeklyぴあ』) 【④類】
- (4-65) 波の音は、どうも変に心を淋しくしますし、松の風も異様に響いて兄の心をいじめます。(鳩山一郎『若き血の清く燃えて』) 【③類】
- (4-66) その言葉の響きが、母の心を頼もしく淋しくさせていく。(もえぎゆう『パーソナルニーズ』) 【③類】

一方、「～スル」構文のみと共起するのは「正しい」のような⑦「赤い」類であり、(4-67)は「正しい」が「～スル」構文と共起する例である。

(4-67)は「其心」を「正しい」状態に変化させることを表している。ここで「～スル」構文は括弧のように「～サセル」構文に置き換えにくい。

- (4-67) (略) 良心側に於て亦其意を誠にし其心を正しうする(^{??}正しくさせる)を要する所以の者実に此の徹醒の間に在るなり、(略) (新井奥邃『新井奥邃著作集』) 【⑦類】

上の⑦「赤い」類以外に⑤「危ない」類も「～スル」構文のみに現れている。(4-68) (4-69)は⑤類の「美しい」「優しい」と共起する例である。しかし、ここで「～サセル」は括弧のように「～スル」構文に置き換えられる。

(4-68) 肉体を再生したいのなら、心を美しくする（美しくさせる）
 ことです。（ジェームズ・アレン著、坂本貢一訳『「原因」と
 「結果」の法則』）【⑤類】

(4-69) 心を優しくする（優しくさせる）ためには、己をなくすこ
 とがいちばんです。（司馬遼太郎『司馬遼太郎全講演』）
 【⑤類】

また、「～スル」構文も「～サセル」構文も②「嬉しい」類は現れてい
 ないが、インターネットにその用例が見られる。（4-70）～（4-73）は②
 類の「嬉しい」「悲しい」が「～スル」「～サセル」構文と共起する例で
 あるが、「心」をヲ格名詞句に取りそれを形容詞の状態に変化させること
 を表している。

(4-70) おひなさんって、やっぱり女まつり。女子の心を、嬉しく
 するものでなくては！

<https://www.344-0456.com/2016/03/04/2016-03-03/>（2022.8.5検索）【②類】

(4-71) 食後のデザートも たくさんの種類が綺麗に並べられてい
 てどこまでも心を嬉しくさせてくれるサービスが行き届いて
 います^^

<https://blog.goo.ne.jp/cafe-photo/e/437e03c7dabade404d572eb19f0af5e3>

（2022.8.5検索）【②類】

(4-72) 兄よ。あなたがこの世に生きていないことが、どんなにわ
 たしの心を悲しくすることか。

https://www.aozora.gr.jp/cards/001753/files/59032_70198.html（2022.8.5検

索）【②類】

(4-73) 愛は 心にかいた落書きさ いつまでも 心にへばりついて
ぼくの心を 悲しくさせる

<https://lyricjp.com/ats/a001ff2/10061ffh> (2022.8.5検索) 【②類】

しかし、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類は現れていない。(4-74)～(4-76)は①類の「憎い」「恨めしい」「恋しい」が「～スル」「～サセル」構文と共起し「心」をヲ格名詞句に取る例であるが、どちらも不自然になる。それは、「憎い」「恨めしい」「恋しい」といった感情はそのような状態に変化させるように直接的にコントロールすることが難しいためであると思われる。

(4-74) a. *心を憎くする。【①類】

b. *心を憎くさせる。

(4-75) a. *心を恨めしくする。【①類】

b. *心を恨めしくさせる。

(4-76) a. *心を恋しくする。【①類】

b. *心を恋しくさせる。

以上、心をヲ格名詞句に取る「～スル」構文と「～サセル」構文は、③類、④類、⑥類の感情・感覚・属性を表す形容詞が用いられる点で共通しているが、「～スル」構文は「～サセル」構文と違って⑦類が用いられている点が特徴的である。「～サセル」構文では②類と⑤類が現れていないが、インターネットにそれらの用例が見られた。一方、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類は用いられていない。

このことから、「心ヲ～クスル／サセル」構文は属性・評価・感覚・感情を表す形容詞と共起するが、「～スル」構文は「～サセル」構文に比べ属性を表す形容詞との共起の範囲が広いことが考えられる。また、「～スル」構文も「～サセル」構文も「憎い」「恨めしい」など感情度の高い形容詞と共起しにくい。

4.5.3 ヲ格名詞句が「カラダ」の場合

ヲ格名詞句が「カラダ」の場合、「～スル」構文と「～サセル」構文に現れる形容詞を全てまとめると表4-10と表4-11のようになる。

表4-10 「カラダヲ～クスル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：1,307語、異なり語数：52語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	丸い	379	7赤	14	熱い	14	4熱		おかしい	5	危		緩い	6	少
2	かたい	137	6少		良い		6少		平たい		7		赤		温かい
3	赤い	116	7赤	16	白い	13	7赤	29	重い	6	少		きつい	6	少
4	低い	100	6少	17	青い	10	7赤		寒い		4		熱		厳しい
5	悪い	66	6少	18	厚い	9	6少	3	狭い	6	少		気持ち良い	3	寂
6	長い	62	6少		陰しい		6少		酷い		5		危		濃い
7	細い	54	6少	20	冷たい	8	4熱	34	太い	6	少		遅しい	5	危
8	柔らかい	44	4熱	21	明るい	7	6少		暖かい		4		熱		41
9	大きい	43	6少		美しい		5	危	2	痛い	3	寂	でかい	6	
10	強い	41	6少	軽い	6	少	薄い	6		少		少	遠い	6	少
11	高い	40	6少	24	黒い	6	7赤	暗い	6	少		広い	6	少	
12	酸っぱい	35	4熱	25	弱い	5	6少	涼しい	4	熱		空しい		3	寂
13	小さい	28	6少	26	危うい	4	5危	はやい	6	少	若々しい	5	危		

表4-11 「カラダヲ～クサセル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：24語、異なり語数：9語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	熱い	7	4熱	4	大きい	2	6少		おかしい	5	危
2	丸い	5	7赤		かたい		6		少		強い
3	赤い	4	7赤	6	青い	1	7赤	脆い	6	少	

「～スル」構文と「～サセル」構文に現れる形容詞の類型を全体的に見ると、「～スル」構文も「～サセル」構文も⑦「赤い」類、⑥「少ない」類、⑤「危ない」類が主に用いられている。「～スル」構文は「～サセル」構文に比べ④「熱い」類が多く、③「寂しい」類も見られる点が特徴的である。一方、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類と②「嬉しい」類は現れていない。

「～スル」構文と「～サセル」構文に共通して現れる形容詞は、「おかしい」「大きい」「丸い」など属性を表す形容詞であり、これらは⑤類、⑥類、⑦類に該当する。(4-77)～(4-82)は「おかしい」「大きい」「丸い」が「～スル」「～サセル」構文と共起して、カラダをその形容詞の状態に変化させることを表している。例えば、(4-77)(4-78)は「おかしい」が「～スル」「～サセル」構文と共起する例であるが、(4-77)の「～スル」は「食べ物」(X)が「人間の頭」(Y)を「おかしい」状態に変化させるように直接的にコントロールしていて、(4-78)の「～サセル」は「頭」(Y)を「おかしい」状態に変化させるように間接的にコントロールしている。他の例文も同様である。

- (4-77) 博士はそれまで、食べ物が人間の頭をおかしくすることなどないと考えていた方なのです。(七田真『言葉がどんどんとびでる0歳教育』)【⑤類】
- (4-78) 「あの湾の水には、頭をおかしくさせるものがいろいろとまじっています」と彼は気味の悪いことをいった。(ロバート・シーゲル著、中村融訳『氷海のクジラ』)【⑤類】
- (4-79) 玉之助は、大きな目を、いっそう大きくしておたけを見た。(向山正家『天保山夢の川さらえ』)【⑥類】
- (4-80) 自分の携帯電話を差し出した聖司に、桐原は目を大きくさせて、口だけを動かした。(宮本輝『にぎやかな天地』)【⑥類】
- (4-81) 旅館へ戻ると、さっきのお手伝いが目をまるくして出迎えた。(森村誠一『人間の証明』)【⑦類】
- (4-82) イプネフェルがそんなことを言って、巫弍の目を丸くさせた。(ゆうきりん『オーパーツ・ラブSP』)【⑦類】

④「熱い」類は(4-83) (4-84)のように「～スル」「～サセル」構文で表れている。(4-83) (4-84)は「～スル」「～サセル」構文が「熱い」と共起する例であり、「身体」「目頭」を「熱い」状態に変化させるようにコントロールしている。

(4-83) 老婆の宿痾といわれていたその疾患を、ともかくも治したのだ、という思いだけが身体を熱くし、バイクのスピードをあげていた。(曠野信太郎『榎の里』) 【④類】

(4-84) 毎回新刊を買ってきて読んで目頭を熱くさせてもらった感動の一品ですよ。(Yahoo!ブログ) 【④類】

一方、③「寂しい」類に関して「～スル」構文では「気持ち良い」「空しい」の2例があったが、「～サセル」構文では③「寂しい」類の例は見られなかった。(4-85) (4-86)は「気持ち良い」「空しい」が「～スル」構文と共起する例であり、「気持ち良い」は「女体が気持ち良い(と感じる)」のようにカラダの感覚を表す意味で用いられていて、「むなしい」は「手がむなしい」という派生的な意味で用いられている。このように(4-85) (4-86)で「気持ち良い」と「むなしい」は、主体の感情を表す意味よりは感覚や属性を表す意味で用いられていて、「女体」「手」の状態を変化させるように直接的にコントロールしている。

(4-85) 女体を気持ちよくしてやるどころか、さっきの自信などいっぺんにながぐり捨てた。(龍一京『くりから女刑事』) 【③類】

(4-86) ◆似たことわざ＝宝の山に入りながら手をむなしくして帰るおじゃる丸◎ケンは、自分さがしのための旅だといっっては、仕事を変えておるが、石屋でつくったマロの石像は、みな

びっくりするほどよくできておった。（藤田隆美『NHKおじゃる丸ことわざ辞典』）【③類】

また、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も①「憎い」類と②「嬉しい」類が現れていない。それは、「憎い」「嬉しい」のような感情を表す形容詞は（4-87）と（4-88）のように、元々対象語にカラダを取らないためであると思われる。

（4-87） * {目／頭／腰} が憎い。【①類】

（4-88） * {目／頭／腰} が嬉しい。【②類】

以上、カラダをヲ格名詞句に取る「〜スル」構文と「〜サセル」構文は、⑤～⑦類の属性を表す形容詞が用いられている。「〜スル」構文では③類の感情を表す形容詞「気持ち良い」「むなしい」の例も2例あったが、これらは主体の感情より感覚、属性を表す意味で用いられていた。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も感情度の高い①類と②類は用いられていない。

このように、「カラダヲ〜クスル／サセル」構文において、「〜スル」構文と「〜サセル」構文は属性を表す形容詞と共起し感情を表す形容詞とは共起しにくい点で共通する。

4.5.4 ヲ格名詞句が「コト」の場合

ヲ格名詞句が「コト」の場合、「〜スル」構文と共起する形容詞は上位50位まで、「〜サセル」構文と共起する形容詞は全てをまとめると、それぞれ表4-12、表4-13のようになる。

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に現れる形容詞の類型を全体的に見ると、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が多く、⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類の語が見られる。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も②「嬉しい」類と①「憎い」類は現れていない。

表4-12 「コトヲ〜クスル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：5,034語、異なり語数：95語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	良い	776	6少		難しい	69	5危	39	細い	18	6少		険しい	6	6少
2	大きい	530	6少	21	濃い	64	6少	40	柔らかい	17	4熱		つまらない	5	5危
3	少ない	426	6少	22	暗い	57	6少	41	ややこしい	16	5危		温かい	4	4熱
4	小さい	322	6少		狭い		6少	42	浅い	12	6少		甘い	4	4熱
5	強い	263	6少	24	薄い	54	6少		緩い	12	6少		渋い	4	4熱
6	高い	210	6少	25	遅い	46	6少	44	おかしい	11	5危	60	近い	3	6少
7	低い	206	6少		遅しい		5危		丸い	7	7赤		冷たい	4	4熱
8	軽い	193	6少	27	重い	43	6少	46	詳しい	9	6少		でかい	6	6少
9	短い	170	6少	28	かたい	39	6少		熱い	4	4熱		乏しい	6	6少
10	悪い	158	6少		楽しい	3	3寂		きつい	6	6少		鈍い	6	6少
11	多い	156	6少	30	面白い	36	5危	47	等しい	8	7赤		青い	7	7赤
12	明るい	98	6少	31	厚い	32	6少		太い	6	6少		重たい	4	4熱
13	長い	91	6少		弱い		6少	51	酷い	7	5危		可愛い	5	5危
14	広い	85	6少	33	細かい	26	6少		黒い	7	7赤		汚い	6	6少
15	はやい	75	6少	34	新しい	23	6少	52	白い	5	7赤	68	気持ち良い	2	3寂
16	深い	73	6少		あらい	6	6少		涼しい	4	4熱		寂しい	3	3寂
17	厳しい	72	6少	36	美しい	22	5危		暖かい	4	4熱		力強い	5	5危
18	安い	70	6少	37	正しい	20	7赤	55	美味しい	4	4熱		遠い	6	6少
19	危うい	69	5危		激しい		6少		苦しい		3寂		貧しい	6	6少

表4-13 「コトヲ〜クサセル」構文と共起する形容詞
(延べ語数：103語、異なり語数：48語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類	
1	大きい	10	6少	14	強い	6少	23	1	等しい	7赤	1	苦しい	3寂	14	悩ましい	5危
	2	楽しい	6		3寂	低い			6少	深い		6少	詳しい		6少	鈍い
悪い		6少			貧しい	6少			浅い	6少		寒い	4熱		広い	6少
4	激しい	5	6少		明るい	6少			あらい	6少		親しい	6少		紛らわしい	5危
	良い		6少		厚い	6少			息苦しい	4熱		騒々しい	5危		短い	6少
6	熱い	4	4熱		遅い	6少			多い	6少		遅しい	5危		珍しい	6少
	危うい		5危		少ない	6少			恐ろしい	3寂		正しい	7赤		ややこしい	5危
	難しい		5危		鋭い	6少			重い	6少		つまらない	5危		緩い	6少
9	薄い	3	6少		高い	6少			黄色い	7赤		つらい	3寂			
	厳しい		6少		小さい	6少			きつい	6少		乏しい	6少			

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に共通して現れる形容詞は、⑤～⑦類の「危うい」「少ない」「等しい」など属性を表すものである。(4-89)～(4-94)は「危うい」「少ない」「等しい」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起して、ヲ格名詞句をその形容詞の状態に変化させることを表している。例えば、(4-89) (4-90)は「危うい」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起する例であるが、「〜スル」構文の(4-89)は「日本の独立」(Y)を「危うい」状態に変化させるように直接的にコントロールしていて、「〜サセル」構文の(4-90)は「自らの立場」(Y)を「危うい」状態に変化させるように間接的にコントロールしている。他の例文も同様である。

(4-89) その際、彼らは、日本の独立を危うくする最大の要因は、
 大国ロシアの南下にあると考えました。(山田朗『護憲派の
 ための軍事入門』) 【⑤類】

(4-90) 下手な発言をして、ヒトラーの機嫌を損ねてもしたら、自
 らの立場をも危うくさせてしまうからだ。(原田治『帝国欧
 州戦記』) 【⑤類】

- (4-91) 社会は、可能なかぎり、貧困、病気、犯罪を少なくし、不平等や不満を是正すべきだとは思います。（鷺田小彌太『社会に出てから役に立つ考え方』）【⑥類】
- (4-92) そのことが、チューブワームの出番を少なくさせている一番の原因となっているかもしれません。（『海の根魚完全攻略500のQ&A』）【⑥類】
- (4-93) ただ、SDSLでは上りと下りの速度を等しくするため、音声通話で使う周波数の範囲まで利用しています。（『超入門ネットワーク』）【⑦類】
- (4-94) この場合、投資の収益率は、ネット・キャッシュフローの現在価値を投資額と等しくさせるような割引率（言い換えるとNPVをゼロにするような割引率）として計算され、内部収益率（IRR：Internal Rate of Return）と呼ばれる。（遠藤彰郎ほか『企業価値向上のためのIR経営戦略』）【⑦類】

また、④「熱い」類の「熱い」や③「寂しい」類の「楽しい」のように感覚・感情を表す形容詞も共通して用いられている。（4-95）～（4-98）は「熱い」「楽しい」が「～スル」「～サセル」構文と共起して、コトをその形容詞の状態に変化させることを表している。（4-95）（4-96）は「熱い」が「～スル」「～サセル」構文と共起する例であり、（4-97）（4-98）は「楽しい」が「～スル」「～サセル」構文と共起する例であるが、それぞれ「冷たい」認識」「男子テニス界」「毎日の食事」「会話」といったコトをその形容詞の状態に変化させることを表している。

- (4-95) そうした仕方で彼は「冷たい」認識を実存的に熱くするのに成功している。(リュディガー・ザフランスキー著、山本尤訳『ニーチェ』) 【④類】
- (4-96) 感情の起伏の激しい選手だがそのパフォーマンスもときには過激、ときには魅力的で、「男子テニス界」を熱くさせてくれる選手の一人だ(『スマッシュ』) 【④類】
- (4-97) 料理といふ技術の普及は、「毎日の食事」を更に楽しくしてくれた代りに、家庭の労務は甚だしく煩瑣なものになった。(柳田国男『柳田國男全集』) 【③類】
- (4-98) 男性が女性の気をひくために話題を豊富にし、「会話」を楽しくさせる。(奥脇洋子『「雑談力」講座』) 【③類】

「楽しい」の他にも、感情を表す形容詞が用いられる例として(4-99)と(4-100)が挙げられる。(4-99)は「つらい」が「～スル」構文と共起する例であり、(4-100)は「恐ろしい」が「～サセル」構文と共起する例であるが、それぞれ「嫁の立場」「最初の夜」といったコトの状態を変化させることを表している。

- (4-99) “嫁の立場”を辛くする周囲の無理解(宮子あずさ『老親の看かた、私の老い方』) 【③類】
- (4-100) しかし、あの夜の窒息するような暗闇のなかでは、近くになにが—もし手をのばしたときに私が触れるかもしれないなにか—あるのかもわからなかった。そのことが、「最初の夜」をとても恐ろしくさせたのだった。(エミリー・カー著、上野眞枝『カナダ先住民物語』) 【③類】

このようにヲ格名詞句がコトの場合、③「寂しい」類の感情を表す形容詞を取ることができる。しかし、同じ感情を表す形容詞でも①「憎い」類と②「嬉しい」類は現れていない。例えば、(4-103)と(4-104)は「憎い」「嬉しい」が「～スル」「～サセル」構文と共起して「学生生活」というコトの状態を変化させることを表す例であるが、どちらも成り立たない。「憎い」「嬉しい」は「学生生活」に対する主体の感情を表す意味は強いが「学生生活」の属性を表す意味は弱いため、コトをその形容詞の状態に変化させる「コトヲ～クスル／サセル」構文では用いられにくいと思われる。

- (4-101) a. 不良学生の存在が学生生活をつらくする。【③類】
 b. 不良学生の存在が学生生活をつらくさせる。
- (4-102) a. 格好良い先輩が学生生活を楽しくする。【③類】
 b. 格好良い先輩が学生生活を楽しくさせる。
- (4-103) a. *不良学生の存在が学生生活を憎くする。【①類】
 b. *不良学生が学生生活を憎くさせる。
- (4-104) a. *格好良い先輩が学生性格を嬉しくする。【②類】
 b. *格好良い先輩が学生生活を嬉しくさせる。

以上、コトをヲ格名詞句に取る「～スル」構文と「～サセル」構文は、⑤～⑦類の属性を表す形容詞のみでなく、③類、④類の感情・感覚を表す形容詞も用いられている。一方、①類、②類の感情度の高い形容詞は用いられていない。

このように、「コトヲ～クスル／サセル」構文において、コトの属性を表す形容詞は用いられるが、「憎い」「嬉しい」のようにコトに対する主体の感情を表す形容詞は用いられにくい。

4.5.5 ヲ格名詞句が「モノ」の場合

ヲ格名詞句が「モノ」の場合、「〜スル」構文、「〜サセル」構文と共に起する形容詞を全てまとめると表4-14と表4-15のようになる。

「〜スル」構文と「〜サセル」構文を比較すると、「〜スル」構文は延べ語数が617語、異なり語数が54語であるのに対して、「〜サセル」構文は延べ語数が5語、異なり語数が5語であり1例ずつ現れている。

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に現れる形容詞の類型を全体的に見ると、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も⑥「少ない」類と④「熱い」類が現れている。「〜スル」構文では⑤「危ない」類と⑦「赤い」類が現れているが「〜サセル」構文ではこれらの類の形容詞が現れていないのが特徴的である。一方、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も②「嬉しい」類と①「憎い」類は現れていない。

表4-14 「モノヲ〜クスル」構文と共に起する形容詞
(延べ語数：617語、異なり語数：54語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		
1	柔らかい	59	4熱	15	多い	15	6少	31	冷たい		4熱	35	大人しい		5危		
2	大きい	56	6少	16	かたい	14	6少		緩い		6少		3	2	面白い		5危
3	小さい	49	6少		低い	14	6少		温かい		4熱				可愛い	5危	
4	短い	47	6少	18	重い	10	6少		甘い		4熱		1		黄色い		7赤
5	高い	41	6少		太い	10	6少		美しい		5危				きつい	6少	
6	長い	39	6少	20	濃い	8	6少		良い		6少		38		臭い		4熱
7	新しい	31	6少	21	明るい		6少		でかい		6少				2	暗い	
8	少ない	30	6少		白い	7	7赤		平たい		7赤		狭い			6少	
9	薄い	19	6少	24	丸い		7赤		脆い		6少		1		近い		6少
10	厚い	18	6少		強い	6	6少		青い		7赤				遠い	6少	
	軽い		6少	25	暖かい	5	4熱		赤い		7赤		広い		6少		
	細かい	6少	27		はやい	5	6少		卑しい		5危		深い		6少		
13	細い	17		6少	熱い	4	4熱		美味しい		4熱						
14	美味しい	16	4熱	黒い	4	7赤	おかしい			5危							

表4-15 「モノヲ〜クサセル」構文と共に起する形容詞
(延べ語数：5語、異なり語数：5語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	甘い	1	4熱	3	安い		6少	5	悪い		6少
2	美味しい		4熱	4	緩い		6少				

「〜スル」構文と「〜サセル」構文に共通して現れる形容詞は、④「熱い」類の「甘い」「美味しい」と⑥「少ない」類の「緩い」である。(4-105)～(4-110)は「甘い」「美味しい」「ゆるい」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起して、モノをその形容詞の状態に変化させることを表している。例えば、(4-105) (4-106)は「甘い」が「〜スル」「〜サセル」構文と共起する例であるが、(4-105)の「〜スル」構文は「栗やトウモロコシ」(Y)を「甘い」状態に変化させるように直接的にコントロールしていて、(4-106)の「〜サセル」構文は「海の水」(Y)を「甘い」状態に変化させるように間接的にコントロールしている。他の例文も同様である。

(4-105) 栗やトウモロコシを甘くするゆで方(永島トヨ『「台所おばあちゃん」の料理秘伝』)【④類】

(4-106) これでは大海に砂糖をまいて海の水を甘くさせようとするようなものである。(北杜夫『どくとるマンボウ医局記』)【④類】

(4-107) インスタントラーメンに野菜を入れたり、何か一手間加えると美味しくなるように、インスタントコーヒーを美味しくする方法ってありますか?(Yahoo!知恵袋)【④類】

(4-108) 肉から茹で汁の中ににじみ出たウマみが、茹で汁を一層おいしくさせたあと、また肉の中に戻ってきた、そういう味がする。(東海林さだお『タケノコの丸かじり』)【④類】

(4-109) 靴をゆるくしても改善されなければ、整形外科へ。(『Hanako』)【⑥類】

(4-110) 樹木の根はその烈風に耐えようとして、おのれが拠るところの地盤をゆさぶり、その根本の土をゆるくさせ、風のため

ばかりではなく根を露出させて倒れていく。（半村良『黄金奉行』）【⑥類】

ただし、「ゆるい」以外に⑥「少ない」類に「大きい」「短い」「高い」などがあるが、これらは「～サセル」構文と共起しにくい。（4-111）～（4-113）は「大きい」「短い」「高い」が「～スル」構文と共起する例であり、「指輪」「スカート」「床」といったモノの状態をその形容詞の状態に変化させるように直接的にコントロールすることを表しているが、括弧のように「～サセル」構文には置き換えられない。

（4-111） 問題 世界最大の指輪の重さは何キロ？指輪をいくら大きくしても（*大きくさせても）、重くて限界がありますね。

（塩塚輝男『宴会・パーティーゲーム集』）【⑥類】

（4-112） 高校などで、スカートを短くしては（*短くさせては）いけないと校則がありますが、なぜ短くしてはいけないんですか??（Yahoo!知恵袋）【⑥類】

（4-113） 床を一段高くして（*高くさせて）、下を収納スペースとして使っています。（『子ども部屋』）【⑥類】

また、「～スル」構文では⑤「危ない」類の「美しい」や⑦「赤い」類の「黄色い」など属性を表す形容詞が現れているが、「～サセル」構文には現れていない。（4-114）（4-115）は「美しい」「黄色い」が「～スル」構文と共起する例であり、「インテリア用品」「ピーマン」といったモノをその形容詞の状態に変化させるように直接的にコントロールしていることを表しているが、括弧のように「～サセル」構文には置き換えにくい。

(4-114) 6 おもちゃ、文具、インテリアグッズ… 日用雑貨手間を
 けずにホコリを取るワザ インテリア用品 を 美しくする (?? 美し
 くさせる) (永田美穂と平成暮らしの研究会『ヨゴレを落と
 す裏ワザ・隠しワザ』) 【⑤類】

(4-115) カラーピーマンは ピーマン を過熟させて赤や、黄色くした
 (* 黄色くさせた) もので、肉厚は薄く、店もちも2 - 3日
 やわらかくなります。(Yahoo!知恵袋) 【⑦類】

一方、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類、②「嬉しい」
 類、③「寂しい」類のように感情度の高い形容詞とは共起していない。そ
 れは、これらの類型の形容詞は(4-116)～(4-118)のように本来モノを
 対象語に取りにくいいためであると思われる。

(4-116) *靴が 憎い。【①類】

(4-117) *靴が 嬉しい。【②類】

(4-118) *靴が 寂しい。【③類】

このように、モノをヲ格名詞句に取る「～スル」構文と「～サセル」構
 文では、感覚を表す④「熱い」類と属性を表す⑥「少ない」類が用いられ
 ている。ただし、⑥「少ない」類の場合「～サセル」構文では用いられる
 語に制限があると思われる。また「～スル」構文では⑤「危ない」類と⑦
 「赤い」類が用いられているが、「～サセル」構文ではこれらの語が用い
 られていない。一方、「～スル」構文も「～サセル」構文も①「憎い」類、
 ②「嬉しい」類、③「寂しい」類が用いられていない。

このように、「モノヲ～クスル／サセル」構文では感覚と属性を表す
 形容詞が用いられるが、「～スル」構文は「～サセル」構文より属性を表

す形容詞との共起範囲が広く、二つの構文とも「憎い」「嬉しい」「寂しい」など感情を表す形容詞は用いられにくい。

以上、五つのヲ格名詞句を取る「〜スル」「〜サセル」構文と共起する形容詞の特徴を見たが、「〜スル」構文の直接的なコントロールと「〜サセル」構文の間接的なコントロールから、属性・評価・感覚・感情の変化に関して次のようなことが考えられる。

まず、感情は「嬉しい」「楽しい」のように直接・間接的なコントロールによってそのように変化できるものもあれば、「憎い」のようにどのようにコントロールしても変化しにくいものもある。一方、属性は直接・直接的にコントロールできるが、「赤い」「丸い」など間接的にコントロールしにくいものもある。感覚と評価は直接・間接的にコントロールできる。

4.6 本章のまとめ

第4章では「XガYヲ〜クスル」構文と「XガYヲ〜クサセル」構文について、「〜スル」構文と「〜サセル」構文のヲ格名詞句を「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の五つに詳細に分類して、各ヲ格名詞句と共起する形容詞の特徴を見た。

その結果、表4-16のように「〜スル」構文と「〜サセル」構文では共起する形容詞の範囲に違いが見られるが、それに基づき形容詞は太い線のように①類、②類、③類、④類、⑤⑥類、⑦類の六つの段階に分けられた。

表4-16 「～スル」構文、「～サセル」構文と形容詞の七分類（表4-1の再掲）

		感情を表す			感覚を 表す	評価を 表す	属性を表す	
		① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類
ス ル	有 情 物		×	×	○	○	○	○
	有 情 物 の 部 分	心	×	△	○	○	○	○
		カラダ	×	×	△	○	○	○
	非 情 物	コト	×	×	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	○	○
サ セ ル	有 情 物		×	○	○	○	○	×
	有 情 物 の 部 分	心	×	○	○	○	○	×
		カラダ	×	×	×	○	○	○
	非 情 物	コト	×	×	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	△	△

第5章 比較構文「XがYより～い」

5.1 はじめに

従来、形容詞は程度性を持つため、属性や感情の意味に関係なく「私は花子より背が高い」「その言葉が他のどの言葉よりも嬉しい」のように比較構文が成り立つとされてきた。しかし、感情を表す形容詞の場合を詳しく見ると、「*私が花子より嬉しい」「[?]その言葉が他のどの言葉よりも憎い」のように比較構文が成り立ちにくい場合がある。そこで本章では、比較構文「XがYより～い」がどのような形容詞と共起するか、さらに比較する対象（X、Y）にどのような語が来るかを見ることによって、感情と属性の比較の特徴を論じ、これにより形容詞が四段階に分けられることを主張する。

本章では、まず比較の対象であるX、Yが「人」「モノ」「コト」であるかを見て、形容詞が三つの比較構文（「人₁が人₂より～い」「モノ₁がモノ₂より～い」「コト₁がコト₂より～い」）と共起するかを見る。各比較構文において、それぞれの形容詞の類型がどのような場合に共起してどのような場合に共起しないかを見ると表5-1のようになる。

表5-1 三つの比較構文と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類
人 ₁ が人 ₂ より～い	×	×	△	△	○	○	○
モノ ₁ がモノ ₂ より～い	×	△	○	○	○	○	○
コト ₁ がコト ₂ より～い	×	○	○	○	○	○	○

表5-1を見ると、三つの比較構文はいずれも⑤「危ない」類、⑥「少ない」類、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞とは共起する。一方、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、④「熱い」類の四つは、三つの比較構文と共起しないか共起しにくく、例えば①「憎い」類は「*私は花子より憎い」（「人₁が人₂より～い」）や「?その言葉が他のどの言葉よりも憎い」（「コト₁がコト₂より～い」）のように比較構文が成り立ちにくい。このように三つの比較構文と形容詞の七分類の共起関係を見ると、大きく四つの段階に分けることができる。これを表5-1の縦の太線で示す。

このような結果に基づき本章では、属性の場合はその対象が人、モノ、コトであるかに関係なく自由にその程度が比較できるが、感情の場合は人と人の感情の比較のみ難しいのではなく、同一人の主体における感情であっても程度の比較が行われにくい場合があることを論じる。

このように、比較構文「人₁が人₂より～い」「モノ₁がモノ₂より～い」「コト₁がコト₂より～い」は共起する形容詞の範囲に違いが見られて、本章ではこれらを形容詞を分類する指標の一つとし、形容詞を四つの段階に分ける。さらに、他の章の指標と合わせることで最終的に形容詞を七つに分類する。

5.1節では本章の構成と主張の要点について述べ、5.2節では比較構文の先行研究について概観する。続いて5.3節では比較する対象のX、Yである「人」「モノ」「コト」について説明して、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下、BCCWJ）を用いた調査の概要について説明する。次に5.4節では三つの比較構文と共起する形容詞を調査し、その特徴を考察する。最後に5.5節では本章の内容をまとめる。

5.2 先行研究

本節では比較構文について論じられている安達（2001）について概観し、先行研究を踏まえ本章の課題を提示する。

安達（2001）は、比較構文の文型や比較述語の特徴など、比較構文の全体像について論じたものである。安達（2001）は「二つ以上の要素の比較という意味を構造化して表した文」（p.1）を「比較構文」と呼び、典型的な比較構文は（5-1）のように比較の基準を「より」で表す文であるとしている。（5-1）は、「複雑さ」に関して比較を行うと「知識として持っていたもの」という基準に対して「放射性物質の実際の挙動」は上位に置かれることを表している述べている。

（5-1） これらの研究をやり始めて、私は少なからず驚いた。微量の放射性物質の実際の挙動というのは、当初私が学んで知識としてもっていたものよりも、はるかにはるかに複雑だった。

（高木仁三郎『市民科学者として生きる』p.77）

（安達2001：1の（1））

安達（2001）は、「典型的な比較構文は、あるテーマに関して、ある要素を基準とすると別のある要素が上位に置かれることを意味する。したがって典型的な比較は、テーマを設定する述語、基準となる「より」句、そして比較の対象の3つの構成要素からなることになる」（p.2）と述べている。

例えば（5-2）は、「毅然とした、骨のある人の多さ」という比較のテーマに関して「おじいさん」を基準とすると、その基準を「おばあさん」が量的に上回っていることを表していて、ここで「より（も）」で表され

る句を「比較の基準」、その基準と比較される要素を「比較の対象」、述語を「比較述語」と呼ぶとしている。

(5-2) 一般に、男と女とどちらが立派か、などと言ってみてもはじまらないが、年よりだけについて言えば、おじいさんよりもおばあさんのほうが、毅然とした、骨のある人が多いような気がする。

(高島俊男『お言葉ですが…』p.143)

(安達2001:2の(6))

安達(2001)は典型的な比較構文の文型を次のように表している。

(5-3)

Xより	Y (の方) が	P
比較の基準	比較の対象	比較述語

。

(安達2001:2の(7))

安達(2001)は「XよりYの方がP」は比較の対象が主題化されないときの文型であり、「YはXよりP」は比較の対象が主題化されたときの文型であるとし、二つとも典型的な比較構文の文型として扱っている。本研究では、比較の対象が主題化される「YはXよりP」という文型を比較構文の典型的な文型として扱い、本章では比較構文の文型を(5-4)のよう

(5-4) Xが Yヨリ P 。

安達(2001)は比較構文を成立させる主要因となる比較述語について、二つの要素の間で上下、優劣が付けられるという程度性や相対性を持つこ

とを論じている。その点で、「とても」「非常に」のような純粋程度副詞が共起する、形容詞がその中心になる比較述語であると述べている。

次の(5-5)と(5-6)は形容詞「暑い」「楽しい」が述語である比較構文の例であるが、例えば(5-5)において真夏の暑さと秋口の暑さが同じ気温である必要がないように、「暑い」という形容詞の表す意味には幅があることを述べている。

(5-5) 「暑いねえ。ひどい暑さだ」

と野田地佑さんは電話のむこうで、あきらかに元気のない声を出していた。たしかに今年の夏はいつもの年よりずっと暑いようだった。熱帯夜というものがもう十六日間も続いている。

(椎名誠『鷲と豚』p.127)

(5-6) そんなふうにして、そこで一日仕事をやってみると、けっこうそれは市ヶ谷の学校へ行ってノートにこしゃこしゃした文字を書いているより楽しかった。

(椎名誠『哀愁の町に霧が降るのだ 上』p.196)

(安達2001:4の(17)(18))

安達(2001)は、このように形容詞が表す属性や感情が程度性を持つことが比較構文の成立に大きな意味を持っていることを論じている。

このように、安達(2001)は形容詞が表す属性・感情は程度性を持つため比較構文が成り立つとしているが、程度性を持つ形容詞であるにも関わらず(5-7)～(5-9)のように比較構文が成り立たない場合もある。

(5-7) *私は花子より嬉しい。

(5-8) ?手作りチョコはブランドのチョコより羨ましい。

(5-9) ?その言葉は他のどの言葉よりも憎い。

上記の形容詞は、「とても {嬉しい／羨ましい／憎い}」「非常に {嬉しい／羨ましい／憎い}」のように程度副詞が共起して程度性を持つものであるが、比較構文が成り立たない。

本研究では比較構文「XガYヨリ～い」において、どのような形容詞が共起するか、比較する対象（X、Y）にどのような語が来るかを見て、比較における形容詞の特徴を明らかにする。

5.3 調査概要

本節では、比較構文「XガYヨリ～い」について、BCCWJの「中納言」を用いた調査の概要について述べる。

調査の概要の説明に入る前に、比較構文「XガYヨリ～い」の述語と「X」「Y」に現れる語の特徴について説明する。

まず、比較構文の述語に関しては、述部に用いられる形容詞を対象とした。²¹その例は、(5-10)～(5-12)のようなものである。(5-10)(5-11)では「難しい」「細かく」が述部に用いられていて、(5-12)では「高い」が[形容詞+名詞+ダ/デス]の形で述部に用いられている。

(5-10) 命ずることは従うことより難しい。(アリス・ミラー著、山下公子訳『真実をとく鍵』)

²¹ 形容詞が修飾部や補部など、述部以外で用いられる場合、「その友達よりもきつといい彼氏が出来るはずです」「もともとの原子核より、小さく分かれた原子核をまとめる方が少ないエネルギーですむために、(略)」のように「XガYヨリ～い」と異なる文構造を取る場合が多かったため、形容詞が述部以外に現れる場合は対象外にした。

- (5-11) イスラムの列柱はコルドバのモスクにも見られるが、「獅子の中庭」の列柱はモスクの柱より細くて優美である。（ロム・インターナショナル『この建築物が「凄い！」といわれる理由』）
- (5-12) タナーは、わたしが知っている誰よりもプライドの高い人だ。（ミンディ・ネフ作、神津ちさと訳『花嫁は行方不明？』）

次に、「XがYより～い」の「X」と「Y」に関しては、「人」「モノ」「コト」のものを対象とした。これらは「人₁が人₂より～い」「モノ₁がモノ₂より～い」「コト₁がコト₂より～い」の三つであるが、これらの三つについて次の i～iii で説明する。

i. 「人₁が人₂より～い」

比較構文「XがYより～い」において、X、Yが「人」であり人の状態を比較する場合である。ここで「人」は(5-13)～(5-16)の「ドブレ山の王、ギャッファー」「妻、私」「私の夫、あちらの夫」「みな、ジェシー」のことである。「人」には(5-13) (5-14)のように外見・所有という外面的な側面と、(5-15) (5-16)のように性格・感情という内面的な側面があり、内面的な側面を持たない「モノ」「コト」とは区別される。

- (5-13) ドブレ山の王はギャッファーよりも背が高く、とても落ちついていて、威厳に満ちている。（キャサリン・ラングリッシュ作、金原瑞人、杉田七重訳『トロール・フェル』）
- (5-14) 共働きで妻が、私より若干手取り収入が多く、いつも威圧的です。（Yahoo!知恵袋）

- (5-15) 私の夫はあちらの夫よりも頼もしく、私の子供は、だれの子供よりもかしくくて美人だ。(瀬戸内寂聴『寂聴人は愛なしでは生きられない』)
- (5-16) みな、ジェシーよりもはるかに楽しそうで、ジョークを言い合って笑っているではないか。(ゲーリー・S. トプチック著、有賀裕子訳『ネガティブな部下とどうつきあえばいいのか!』)

ii. 「モノ₁がモノ₂ヨリ～い」

比較構文「XがYヨリ～い」において、X、Yが「モノ」でありモノの状態を比較する場合である。ここで「モノ」とは(5-17)～(5-20)の「その家、周りの家」「石畳、竈」「柘榴の花、薔薇の花」「パン、ジャガイモの皮」のことである。モノは空間に存在し感覚によって捉えられる具体物のことであり、大きさ・温度・色・味のような属性を持つ。「モノ」は実質的である点で、抽象的な「コト」とは区別される。

- (5-17) その家は、周りの家より一回り大きく、芝生の中央で噴水が、水を噴き上げていた。(コリン・ウィルソン著、小森健太郎訳『スパイダー・ワールド』)
- (5-18) 道の石畳は午後の陽光に灼かれてパン屋の竈よりも熱く、ひび割れ尖って裸足の足裏に突き刺さる。(篠田真由美『龍の黙示録』)
- (5-19) チルスの園に生えている柘榴の花は、薔薇の花より赤いけれど、お前の口のように赤くはない。(鶴見俊輔他『新・ちくま文学の森』)
- (5-20) パンのほうが、ジャガイモの皮よりずっとおいしかった。

(ジェニングズ・マイケル・バーチ著、塩谷紘訳『ぬいぐるみを檻に入れられて』)

iii. 「コト₁がコト₂より～い」

比較構文「XがYより～い」において、X、Yが「コト」でありコトの状態を比較する場合である。ここで「コト」とは(5-21)～(5-24)の「男女差、個人差」「うまくいくこと、失敗すること」「走り出すこと、止まること」「現実、想像」のことである。「コト」は概念的・抽象的な事態のことであり、大きさや難易度などの属性を持つ。

(5-21) 赤ちゃん時期は、男女差より個人差のほうが大きいというのが正解のようです。(『Baby-mo』)

(5-22) 確かに、板を頼りに売買しても、うまくいくことよりも失敗することが多いような気がします。(Yahoo!ブログ)

(5-23) 「走り出すより、止まる方が難しいなんて、考えてもみなかったよ」(坂本康宏『歩兵型戦闘車両ダブルオー』)

(5-24) たいていの場合、現実の方が我々のいかなる想像よりもはるかに恐ろしい。(ポール・オースター著、柴田元幸、畔柳和代訳『空腹の技法』)

以上を踏まえて、BCCWJの「中納言」で比較構文「XがYより～い」の用例を抽出した。抽出方法は次の通りである。

① 検索対象：全て

長単位検索：

前方共起1：キーから5語以内

「語彙素読み」が「ヨリ」

AND「品詞」の「中分類」が「助詞-格助詞」

キー：「品詞」の「大分類」が「形容詞」

- ② ①のように検索して17,096件を抽出したが、形容詞が述部で用いられていない場合（例：甘いキスをしよう）や「より」が比較の意味で用いられていない場合（例：肩甲骨の下の少し真ん中よりのところ）や重複する文などは除外した。次に、比較する対象X、Yが「人」の場合、「モノ」の場合、「コト」の場合のものを抽出した結果、「人₁が人₂より～い」は延べ語数967語、異なり語数100語が、「モノ₁がモノ₂より～い」は延べ語数1,045語、異なり語数106語が、「コト₁がコト₂より～い」は延べ語数2,952語、異なり語数144語が抽出できた。

5.4 共起する形容詞の特徴

5.3節で行った調査結果を基に、各構文と共起する形容詞の特徴を見る。各構文の延べ語数と異なり語数を見ると、「人₁が人₂より～い」「モノ₁がモノ₂より～い」「コト₁がコト₂より～い」の順にその数が多くなる。以下、5.4.1節では「人₁が人₂より～い」と共起する形容詞の特徴を、5.4.2節では「モノ₁がモノ₂より～い」と共起する形容詞の特徴を、5.4.3節では「コト₁がコト₂より～い」と共起する形容詞の特徴を見る。

5.4.1 「人₁が人₂より～い」

本節では「人₁が人₂より～い」と共起する形容詞の特徴を見る。表5-2は、「人₁が人₂より～い」と共起する形容詞を示したものであり、「数」

は出現数を、「類」は表5-2に示した①〜⑦の七つの形容詞の類型を表す。他も同様である。

表5-2 比較構文「人₁ガ人₂ヨリ〜い」と共起する形容詞
(延べ語数：967語、異なり語数：100語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	高い	109	6少	26	賢い	7	5危	60	つらい	1	3寂	42	細かい	9	6少
2	多い	88	6少		軽い		6少		遠い		6少		嫉妬深い		5危
3	若い	79	6少	29	短い	6	6少	60	相応しい	1	6少	42	斉い	9	5危
4	良い	72	6少		無い		7赤		太い		6少		しんどい		3寂
5	強い	57	6少	30	幼い	5	6少	60	古い	1	6少	42	素晴らしい	9	5危
6	大きい	45	6少		広い		6少		醜い		5危		遅しい		5危
	低い		6少	深い	6少	やさしい	-	ダサい	5危						
8	はやい	39	6少	33	上手い	4	6少	60	ーぼい	1	6少	42	正しい	9	7赤
9	少ない	35	6少		面白い		5危		ーらしい		6少		楽しい		3寂
10	ーやすい	28	6少	37	怖い	3	3寂	60	浅い	1	6少	42	頼りない	9	5危
11	小さい	21	6少		安い		6少		厚い		6少		慎ましい		5危
12	偉い	20	6少	37	重い	3	6少	60	甘い	1	4熱	42	生臭い	9	4熱
	弱い		6少		かたい		6少		潔い		6少		鈍い		6少
14	うまい	19	-	37	頼もしい	3	5危	60	煩い	1	5危	42	人情深い	9	5危
	悪い		6少		激しい		6少		嬉しい		2嬉		のろい		6少
16	詳しい	18	6少	42	ーにくい	2	6少	60	縁遠い	1	6少	42	甚だしい	9	6少
	長い		6少		明るい		6少		大人しい		5危		幅広い		6少
18	可愛い	16	5危	42	忙しい	2	5危	60	おもろい	1	5危	42	欲しい	9	1憎
19	遅い	15	6少		薄い		6少		我慢強い		5危		貧しい		6少
20	酷い	11	5危	42	汚い	2	6少	60	かわゆい	1	5危	42	脆い	9	6少
21	美しい	9	5危		厳しい		6少		汚らしい		6少		喧しい		5危
	近い		6少	黒い	7赤	興味深い	5危	優しい	5危						
24	でかい	8	6少	42	濃い	2	6少	60	毛深い	1	6少	42	宜しい	9	6少
	格好良い		5危		狭い		6少		心無い		5危		若々しい		5危
	凄い		5危	42	冷たい	2	4熱	60	好ましい	1	5危	42	ー深い	9	6少

表5-2に現れる形容詞の類型を見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が上位を占めていて多く分布している。その他に⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類の語も見られる。一方、①「憎い」類の語は「欲しい」の1語のみである。

表5-2では、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が上位を占めて広く分布している。(5-25)は⑥類の「高い」と共起する例であり(5-26)は⑤類の「美しい」と共起する例であるが、どちらも人₁が人₂よりある側面においてその程度が上であることを表している。例えば(5-25)は「花沢唯」と「黒田」の身長という側面を比較し、「花沢唯」が「黒田」より身長の

程度が拳ひとつ分高いことを表している。(5-26)は「ヌーレディン」と「シャムセディン」の美しさという側面を比較していて、「ヌーレディン」が「シャムセディン」より美しさの程度が上であることを表している。

(5-25) 花沢唯は黒田より拳ひとつ背が高い。 (結城信孝『牌がささやく』) 【⑥類】

(5-26) けれども彼には二つの月にも似た二人の子供がありました。
(中略) けれども下のヌーレディンの方が、確かにシャムセディンよりも美しく、出来がよいのでありました。(幸田露伴他『美食』) 【⑤類】

一方、⑦「赤い」類の「無い」「黒い」「正しい」のように程度性を欠く形容詞の出現も見られる。これらは「無い⇨有る」「黒い⇨黒くない」「正しい⇨正しくない」のように、その中間の程度は考えにくい。ただし、(5-27)～(5-29)は「無い」「黒い」「正しい」が比較構文で用いられる例であり、ここで「無い」は「(学歴が)低い」の意味で、「黒い」は「(黒の明度・彩度が)高い」の意味で、「正しい」は「賢い」の意味で用いられていて、その程度の上下が考えられるようになり比較構文が成り立つと思われる。

(5-27) あと、やはり自分は他の人よりも学歴もない分、これから先の仕事に対して自身がないようです。(Yahoo!知恵袋) 【⑦類】

(5-28) 「きれいな人だった？」 「まあまあだね」 「肌の色は？」 「ルアンよりずっと黒い」 (笹倉明『ルアン』) 【⑦類】

(5-29) その結果、高学歴者に庶民より自分たちの方が正しいとい

う独善的な態度が生まれやすくなったのである。（古川隆久『戦時下の日本映画』）【⑦類】

また、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類のように感覚・感情を表す形容詞の共起も見られる。まず、感覚を表す形容詞の場合を見る。（5-30）～（5-32）は④類の「甘い」「冷たい」「生臭い」と共起する例であるが、これらは人₁と人₂が感じる感覚を表すのではなく、「金銭感覚が甘い」「（態度が）冷たい」「（働きぶりが）生臭い」のように派生的に使われて人の属性を表している。

（5-30） 金銭感覚 お金に困った経験が少ないため、人よりも金銭感覚が甘いよう。（動物占いプロジェクト『恋愛動物占い』）

【④類】

（5-31） 郁彦が好きになった人は、誰より冷たい—義兄という名の男だった。（竹内照菜『この夜が、終わるまでには』）【④類】

（5-32） 片や中曾根は五月に七十六歳となるが、これも意気さかん、福田よりも生臭く、院政を敷く色気やあわよくば再度の宰相の野望を秘めるかとの憶測さえ出る活動ぶりを見せている。

（内田健三『戦後宰相論』）【④類】

次に、感情を表す形容詞の場合を見る。（5-33）は③「寂しい」類の「怖い」と共起する例であり（5-34）は②「嬉しい」類の「嬉しい」と共起する例であるが、感覚を表す形容詞と同様に人₁と人₂が感じる内面を表していない。これらは、「親、子ども」「ヤンクミみたいな先生、普通の先生」といった人に対して感じる評価的感情を表すといえる。例えば（5-35）で、「怖い」は「親」と「子ども」が感じる内面の状態を表すのでな

く、「親」と「子供」に対して感じられる「怖い」という感情を表すと同時に「（態度が）怖い」という性質を表すのである。

(5-33) 本書のタイトル「子どもよりも親が怖い」は、担当編集者の坂口雄一朗さんの強い意向で決まりました。（諸富祥彦『子どもよりも親が怖い』）【③類】

(5-34) 『ごくせん』の人气が高いようですが、実際に『ヤンクミ』みたいな先生がいたら、嬉しい？それともウザい？普通の先生より百倍は嬉しいです。（Yahoo!知恵袋）【②類】

一方、例文の中には人₁と人₂が感情の主体であり、お互いの感情の程度の上下を比較する文もあった。それは③「寂しい」類の「つらい」「楽しい」「しんどい」と共起する例であり、(5-35)～(5-38)の4例であった。(5-35)～(5-38)における人₁と人₂は、それぞれ「つらい」「楽しい」「しんどい」と感じる主体である。例えば(5-35)で、「残される人」と「残す人」は「つらい」と感じる主体であり、つらさの程度が「残される人」の方がより上であることを表している。以下同様である。

(5-35) 自殺志願者が多いのも・・・事実いるんだなあ～と思うわたしも思春期に病気になって 病院の窓から飛び降りようとしたことあるんだ～オバカさんだよね～（略）残される人は残す人よりもつらいです。きっとづ～っと・・・つらいです。（Yahoo!ブログ）【③類】

(5-36) （略）あたし、取っておいてちびちび食べるわ。そうすればお楽しみが長持ちするでしょ。食べ終わったら、いつだってちょっと辛いのに それを言うなら、「空しい」だろう。

ただ、孫小紅も「空しい」というのは、うまく言葉にできなかった。「上官金虹から見れば、この世でただ一人の宿敵は李尋歡よ。殺しちゃったら、あたしが胡桃を食べきったときみたいな気持ちになるはずだわ。それも、あたしよりずっと辛いと思うわ」（古龍著、岡崎由美訳『多情劍客無情劍』）

【③類】

(5-37) だが、少し落ち着くと、今度は周囲の乗客たちの言葉に耳を傾けてみた。みな、ジェシーよりもはるかに楽しそうで、ジョークを言い合って笑っているではないか。ジェシーは考え込んでしまった。（ゲーリー・S・トプチック著、有賀裕子訳『ネガティブな部下とどうつきあえばいいのか！』）

【③類】

(5-38) 6月中旬、7月に入ってからドタバタと忙しくなり、気候もその季節らしくどうしようもなく暑い日になり、体力・気力共にイッパイ、イッパイになってきました。（略）その後、同級生と話したのですが、夜勤4連チャンとかがあがるらしく、自分よりもしんどそうで、軽々と愚痴れないなあと思いました。（Yahoo!ブログ）【③類】

上記の例では「きっと」「と思う」「～そうで」のような推測を表す表現が用いられているが、これは人の感情はその人でない限り明確に把握できなかったため、これらの表現で推測の意味を加えていると思われる。

さらに、上記の例では「づ～っと」「ずっと」「はるかに」のように程度の差が大きいことを表す副詞が用いられている。次の(5-39)～(5-41)はこれらの副詞がある場合とない場合を比較したものであるが、副詞のない(5-39b)～(5-41b)は副詞のある(5-39a)～(5-41a)に比べてより不自然になる。それは、人と人の感情の程度を比較すること自体は成

り立ちにくいことであるが、「ずっと」や「はるかに」のように副詞を付けることでその程度の差が明確になり、比較が成り立つようになるからだと思います。

(5-39) a. 残される人は残す人よりも ずっと つらい。

b. ?残される人は残す人よりも つらい。

(5-40) a. 彼はあかしより ずっと つらいと思う。

b. ?彼はあかしより つらい と思う。

(5-41) a. みな、ジェシーよりも はるかに 楽しそうだ。

b. ?みな、ジェシーよりも 楽しそうだ。

このように、「人₁が人₂より～い」は、人の外見・態度・能力など外面的な側面の程度を比較する意味では用いられるが、感覚・感情など内面的な側面の程度を比較する意味では用いにくい。そのため、⑥類の「高い」と⑤類の「美しい」のような属性や評価を表す形容詞が主に用いられていて、感覚や感情を表す形容詞は「金銭感覚が甘い」「ある人は（性格が）怖い」のように人の属性を表す意味のものが用いられている。ただし、その中で人₁と人₂の感情を表し、その感情の程度の上下を比較する例文が4例あったが、これらは「ずっと」「はるかに」のように程度の差が大きいことを表す副詞と共起していた。これらの副詞がないと感情の程度の上下を比較する意味で比較構文は成り立ちにくく、「人₁が人₂より～い」において感情を表す形容詞は共起しにくいと思われる。

5.4.2 「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」

本節では「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」と共起する形容詞の特徴を見る。表5-3は、「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」と共起する形容詞を示したものである。

表5-3 比較構文「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」と共起する形容詞
(延べ語数：1,045語、異なり語数：106語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類					
1	良い	109	6少	28	明るい	8	6少		淡い		6少		興味深い		5危					
2	大きい	95	6少		美しい		5危		4熱		黒い		7赤							
3	高い	76	6少		細かい		6少		4熱		詳しい		6少							
4	小さい	64	6少		古い		6少		5危		険しい		6少							
5	安い	48	6少	32	難しい	7	5危		臭い		4熱		香ばしい		4熱					
6	強い	41	6少		柔らかい		4熱		4熱		寒い		4熱		好ましい	5危				
	やすい		6少	一ぱい	6少	凄まじい	6少	怖い		3寂										
8	多い	38	6少	35	新しい	6	6少		正しい		7赤		白い		7赤					
9	低い	31	6少		甘い		4熱		6少		遠い		6少		酸っぱい	4熱				
	広い		6少	37	素晴らしい	5	5危			分厚い		6少		鋭い		6少				
11	美味しい	27	4熱		近い		6少		6少			細長い				6少		冷たい		4熱
	少ない		6少		でかい		6少					若い				6少		ナウい		5危
	はやい	6少	45	無い	5	7赤		あたたかい		-		鈍い		6少						
14	重い	20		6少		酷い		5危		4熱				暖かい		4熱		激しい		6少
	軽い			6少		太い		6少						危ない		5危		幅広い		6少
16	短い	17		6少		欲しい		1憎		6少				荒い		6少		深い		6少
17	長い	15	6少	細かい	6少	5危		煩い		5危			相応しい			6少				
	弱い		6少	4	赤い	7赤		3寂				恐ろしい			3寂		不味い		4熱	
19	面白い	14	5危		嬉しい	2嬉	5危		おもしろい			5危			丸い				7赤	
	濃い		6少	47	青い	3	7赤			芳しい			4熱			珍しい			6少	
21	遅い	13	6少		格好良い		5危	67			1		7赤				勿体無い			5危
22	薄い	12	6少		暗い		6少										6少			
23	狭い	11	6少	優しい	5危	6少						やばい		5危						
	悪い		6少	51	浅い							6少		6少						柔い
	にくい	6少	暑い		4熱	2	4熱						ー 難い							
26	うまい	10	-	熱い	4熱								6少							
	かたい		6少	厚い	6少	清い	6少													

表5-3に現れる形容詞の類型を見ると、「人₁ガ人₂ヨリ～い」と同様に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が上位に来やすい。⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類の語も見られるが、これらの語は「人₁ガ人₂

「～い」と比べるとより多い。②「嬉しい」類の場合は、「嬉しい」の1語のみである。ここでも①「憎い」類の語は「欲しい」の1語のみである。

表5-3のほとんどの形容詞は⑥「少ない」類の「高い」のように属性を表すものや⑤「危ない」類の「美しい」のように評価を表すものである。

(5-42) (5-43) は「高い」「美しい」と共起する例であるが、モノ₁がモノ₂に比べてその属性の程度がより上であることを表している。例えば、(5-42) は「ガラス」と「プラスチック」の比重を比較していて、「ガラス」が「プラスチック」より比重の程度が高いことを表している。(5-43) は「倒された便器」と「仏陀像」の美しさを比較していて、「倒された便器」が「仏陀像」より美しさを程度が上であることを表している。

(5-42) ガラスのほうがプラスチックよりも薄くできます。が、それ以上に、ガラスのほうがプラスチックより比重が高いので重くなりがちです。(Yahoo!知恵袋) 【⑥類】

(5-43) 新しい産業デザインの一貫として生産された便器に目をつけたことと考えあわせるなら、(中略)「倒された便器は仏陀像より美しい」とつぶやくデュシャンを思い描くのも、さほどの的はずれともいえないだろう。(『ゲームの世界』)

【⑤類】

また、⑦「赤い」類の「無い」「赤い」「正しい」のように程度性を欠く形容詞の出現も見られる。(5-44)～(5-46) は「無い」「赤い」「正しい」の例であるが、ここで「無い」は「少ない」の意味で、「赤い」は「(赤の明度・彩度が)高い」の意味で、「正しい」は「(由緒が)素晴らしい」の意味で用いられていて、その程度の上下が考えられるようになり比較構文が成り立つと思われる。

- (5-44) 千九百九十八年に二村化学工業から出された P P / E V O H / P P 構成フィルムで P V D C コートフィルムに匹敵するガスバリア性、保香性などを有する。共押出フィルムのため、コートフィルムよりも湿度依存性がなく、乾燥食品から半生菓子のような比較的水分率の高い食品まで使用可能である。(鈴木久昭『食品包装/容器・包材マーケット情報』)

【⑦類】

- (5-45) チルスの園に生えている柘榴の花は、薔薇の花より赤いけれど、お前の口のように赤くはない。(鶴見俊輔他『新・ちくま文学の森』) 【⑦類】

- (5-46) メロディーもいいし、歌詞だって、えっと、大伴家持だったかな、旅人だったかな、とにかく万葉集だから、君が代よりも由緒正しい。(Yahoo!ブログ) 【⑦類】

また、④「熱い」類の「甘い」「暑い」「熱い」「香ばしい」など感覚を表す形容詞や③「寂しい」類の「恐ろしい」「気持ち悪い」「怖い」と②「嬉しい」類の「嬉しい」のように感情を表す形容詞が述語になる例文も見られる。これらはモノの属性を表す意味で用いられている。まず(5-47)～(5-50)は「甘い」「暑い」「熱い」「香ばしい」の例であるが、これらは「飴が甘い」「飛燕服が暑そうだ」「道の石畳が熱い」「パンが香ばしい」のように、モノの味・着用感・温度・匂いといった属性を表す意味で用いられている。

- (5-47) 「華場院さまから勤六どのにお土産を下されました。甘酒よりも串柿よりもずっと甘い。きびからとりました飴じゃそうな。(略) (山岡荘八『徳川家康』) 【④類】

- (5-48) その他、コス用品調達（滝汗）ウィッグけちりすぎたかなあ…つけた感じ、ちょっと淋しい。（中略）…飛燕服は浮竹服より暑そうだ（涙）袖も襟元も締まってるしサテン地だし。（Yahoo!ブログ）【④類】
- (5-49) 道の石畳は午後の陽光に灼かれてパン屋の竈よりも熱く、ひび割れ尖って裸足の足裏に突き刺さる。（篠田真由美『龍の黙示録』）【④類】
- (5-50) 肌理細かなパンは歯ごたえがあって、聖司がこれまで食べたどのトーストパンよりも香ばしくて粘りもあった。（田村明『イギリスは豊かなり』）【④類】

次に、(5-51)～(5-54)は②「嬉しい」類の「嬉しい」と③「寂しい」類の「恐ろしい」「気持ち悪い」「怖い」の例であるが、これらは「とんがりコーンが嬉しそうだ」「『狼と七匹のこやぎ』は恐ろしい」「蚕は気持ち悪い」「砂糖は怖い」ということで、各形容詞はモノに対する主体の感情を表すと同時にモノの性質を表している。

- (5-51) ひっちゃんは、おもちゃよりもとんがりコーンが嬉しそうでした——！（Yahoo!ブログ）【②類】
- (5-52) そのころのボクにとって、『狼と七匹のこやぎ』は『十三日の金曜日』よりも恐ろしいサスペンスでしたし、『泣いた赤鬼』は『フィールド・オブ・ドリームス』と同じくらいヒーローマンなドラマでした。（田窪一世『黒いスーツのサンタクロース』）【③類】
- (5-53) 蚕は鶏の嘴よりももっと気持ち悪いが、いちば春の初め、新川の町にある種蚕を売る家に行き、春蚕を三グラムほど買って

戻り、それを見たとき綾子はちりけが寒くなるほどの嫌悪感を持った。（宮尾登美子『仁淀川』）【③類】

- (5-54) 砂糖は阿片よりもこわく、アル中よりもひどい影響をもつといわれています。（七田真『言葉がどんとどんとびでる0歳教育』）【③類】

一方、感情を表す形容詞の中で①「憎い」類の「憎い」「恨めしい」「恋しい」のような語の出現は見られないが、これらの形容詞は(5-55)～(5-57)のように元々モノを対象語に取りにくいためであると思われる。

(5-55) ??靴が憎い

(5-56) ??靴が恨めしい

(5-57) ??靴が恋しい²²

このように、比較構文「モノ₁がモノ₂ヨリ～い」は、モノのある側面の程度の上下を比較する意味で用いられている。そのため、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類のようにモノのある側面に関する属性・評価を表す形容詞が主に用いられている。また、感覚を表す④「熱い」類もモノの属性を表すものが用いられていて、感情を表す③「寂しい」類と②「嬉しい」類もモノに対する主体の感情を表すと同時にモノの属性を表すものが用いられている。しかし、①「憎い」類は「欲しい」の1語のみ用いられている。

²² 確かに、その靴が元カレからもらった靴だったという文脈があれば(5-55)～(5-57)も成り立つが、特定の文脈がなければ(5-55)～(5-57)は成り立ちにくい。

5.4.3 「コト₁ガコト₂ヨリ～い」

本節では比較構文「コト₁ガコト₂ヨリ～い」と共起する形容詞の特徴を見る。表5-4は、「コト₁ガコト₂ヨリ～い」と共起する形容詞を示したものである。

表5-4 比較構文「コト₁ガコト₂ヨリ～い」と共起する形容詞
(延べ語数：2,952語、異なり語数：144語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類																												
1	良い	392	6少	37	明るい	6少	75	2	優しい	5危	2	100	おどろおどろしい	5危	1																												
2	高い	345	6少		暑い	10			4熱	ーぼい			6少	感慨深い		3寂																											
3	多い	235	6少		凄い	5危			浅い	6少			汚い	6少																													
4	大きい	223	6少		若い	6少			厚い	6少			香ばしい	4熱																													
5	低い	183	6少		41	きつい			9	6少			荒々しい	5危		心地良い	3寂																										
6	安い	172	6少			無い			7赤	有り難い			3寂	聡い		5危																											
7	少ない	164	6少		43	ーにくい			8	6少			忙しい	5危		寂しい	3寂																										
8	はやい	115	6少		44	涼しい			7	4熱			著しい	6少		慈悲深い	5危																										
9	小さい	111	6少			やさしい			7	ー			薄暗い	6少		しゃあない	5危																										
10	強い	69	6少		46	新しい			6少	75			2	うまい		ー	凄まじい	6少																									
11	ーやすい	65	6少			美しい			6					5危		偉い	6少	空々しい	5危																								
12	長い	53	6少			濃い			6少					おもろい		5危	賢い	5危	猛々しい	5危																							
13	難しい	47	5危		49	薄い			6少					75		2	悲しい	2嬉	頼りない	5危																							
14	遅い	40	6少			暗い			6少								興味深い	5危	詳しい	6少	力強い	5危																					
15	悪い	38	6少		仕方ない	5危			5								5危	好ましい	5危	罪深い	6少																						
16	短い	35	6少		素晴らしい	5危												75	2	素早い	6少	でかい	6少																				
17	面白い	31	5危		尊い	6少			75								2			乏しい	6少	手強い	6少																				
18	楽しい	3	寂		望ましい	5危														75	2	儂い	6少	手早い	6少																		
	酷い	28	5危		痛い	3寂																恥づかしい	2嬉	生暖かい	4熱																		
21	広い	6少	6少		かたい	6少																75	2	等しい	7赤	幅広い	6少																
	軽い	6少			格好良い	5危																		等しい	7赤	分厚い	6少																
23	厳しい	25	6少		気持ち良い	3寂																		75	2	相応しい	6少	古臭い	6少														
	つらい	22			3寂	細かい																				4	6少	相応しい	6少	細い	6少												
25	古い	6少	6少		甚だしい	6少																				75	2	貧しい	6少	蒸し暑い	4熱												
	近い	18			6少	欲しい																						1憎	5危	ややくししい	5危	珍しい	6少										
26	暖かい	4熱	6少		柔らかい	4熱																						75	2	弱弱しい	5危	めんどい	3寂										
	重い	16			6少	若々しい																								5危	ー深い	ー	勿体無い	5危									
28	遠い	6少	6少		甘い	4熱																								75	2	赤い	7赤	物憂い	3寂								
	弱い	15			6少	恐ろしい																										3寂	危ない	5危	脆い	6少							
30	嬉しい	14	2嬉		可愛い	5危																										75	2	荒い	6少	易い	6少						
	怖い	3寂	苦しい		3寂	如何わしい																												5危	緩い	6少							
31	寒い	4熱	6少		正しい	7赤																												75	2	潔い	6少	用心深い	5危				
	激しい	12			6少	冷たい																														3	4熱	100	美味しい	1	4熱	余所余所しい	5危
35	深い	6少	6少		手っ取り早い	6少																														75	2	上手い	6少	喜ばしい	5危		
	美味しい	11			4熱	鈍い																																6少	煩い	5危	宜しい	5危	
	狭い	6少	6少		易しい	6少																																易しい	6少	おかしい	5危	ーがたい	6少

表5-4に現れる形容詞の類型を見ると、他の比較構文と同様に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が上位に来やすい。⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類の語も見られるが、特に③「寂しい」類と②「嬉しい」類が他の比較構文と比べ上位に現れていることが特徴的である。ここも他と同様に①「憎い」類の語は「欲しい」の1語のみである。

表5-4のうちほとんどの形容詞は⑥「少ない」類の「高い」のように属性を表すものや⑤「危ない」類の「美しい」のように評価を表すものである。(5-58) (5-59)は「高い」「美しい」と共起する例であるが、コト₁がコト₂に比べてその属性の程度がより上であることを表している。例えば、(5-58)は妊娠「十二週」と「妊娠十六週」の流産の総合割合を比較していて、「十二週」が「妊娠十六週」より流産の割合の程度が上であることを表している。(5-59)では「雨のベルゲン」と「晴れの日(のベルゲン)」の美しさを比較していて、前者が後者よりも美しさの程度が上であることを表している。

(5-58) (略) 流産の総合割合が妊娠十六週より十二週のほうが高いためです。(スチュアート・キャンベル著、菅田倫子訳『出生前の“ワタシを見て!”』) 【⑥類】

(5-59) 「雨のベルゲンは晴れの日よりも美しいとされています。(略) (岡崎大五『添乗員世界遺産旅がらす』) 【⑤類】

また、⑦「赤い」類の「無い」「正しい」「赤い」のように程度性を欠く形容詞の出現も見られる。(5-60)～(5-62)は「無い」「正しい」「赤い」の例であるが、ここで「無い」は「(気温差が)少ない」の意味で、「正しい」は「優れている」の意味で、「赤い」は「(赤の明度・彩度が)高い」の意味で用いられており、程度性が現れるため比較構文が成

り立つのである。

(5-60) 地下のトンネル内部は、地上よりも気温差がなく、快適に
 すごせる場所なのです。(ガラスウインド『ルームメートは
 ハムスター』) 【⑦類】

(5-61) ところで、自信の強さの問題は別として、これは、上野が
「ジュース・原田組の反対論」の方がナウマン説より正しか
 った、と理解したことを示している。(山下昇『フォッサマ
 グナ』) 【⑦類】

(5-62) 萩では石垣は多く見られますけど大島のは溶岩なんですね。
萩で見るより、赤いです。(Yahoo!ブログ) 【⑦類】

また、④「熱い」類の「暖かい」「寒い」「柔らかい」など感覚を表す
 形容詞や③「寂しい」類の「楽しい」「つらい」「気持ち良い」と②「嬉
 しい」類の「嬉しい」など感情を表す形容詞が述語になる例文も見られる。
 これらはコトの属性を表す意味で用いられている。まず(5-63)～(5-6
 5)は「暖かい」「寒い」「甘い」の例であるが、これらは「曇った日の
 早朝は暖かい」「今日はさむい」「成功すると思うのは甘い」のように、
 コトの温度・満足感といった属性を表す意味で用いられている。

(5-63) そのため、曇った日の早朝は、晴れた日の早朝より暖かい。
 (長倉三郎，梶田叡一，松井孝典他『新編理科総合B』)
 【④類】

(5-64) 今夜から明日にかけて一部の地域で雨に注意する必要があ
 り今日は昨日よりさむいのでさむさにも注意する必要があり
 (略) (Yahoo!ブログ) 【④類】

(5-65) これで成功するなんて思うのは、あんみつにシロップとハチ

ミツとパルスweetをかけるのより甘い! (ゆうきゆう『メルマガで人気者になろう!』) 【④類】

次に、(5-66)～(5-69)は③「寂しい」類の「楽しい」「つらい」「気持ち良い」と②「嬉しい」類の「うれしい」の例であるが、これらは「君と歩くことは楽しい」「肉親と絶縁するのはつらい」「友達が「できる」ことはうれしい」「音楽に身を任せて踊ってみることは気持ち良い」ということで、各形容詞はコトに対する主体の感情を表すと同時にコトの性質を表していると思われる。

(5-66) 議論より君と歩くが楽しいと口には出せず資料広ぐる (栗木京子『増補版現代短歌全集』) 【③類】

(5-67) 肉親と絶縁するのは、夫婦の離婚よりつらいかもしれませんよ。(Yahoo!知恵袋) 【③類】

(5-68) 音楽に身を任せて踊ってみると、普通に突っ立つより、気持ち良いし、それはアーティストにも伝わります。(Yahoo!知恵袋) 【③類】

(5-69) 教え合い・学び合い・助け合いによって、友達が「できる」ことは、自分が「できる」よりうれしいかもしれませんね。(Yahoo!ブログ) 【②類】

一方、①「憎い」類の「憎い」「恨めしい」「恋しい」のような感情を表す形容詞の出現が見られないが、これらはモノの場合と違って、(5-70a)～(5-72a)のようにコトを対象語に取ることができるという特徴がある。しかし、(5-70b)～(5-72b)のように比較構文「コト₁がコト₂より～い」にすると若干不自然に感じられる。例えば、(5-70b)は「その

言葉」と「今まで聞いたどの言葉」に対して主体が「憎い」と感じることを表し、憎いと感じた程度の上下を比較することであるが、同一の主体による感情の比較であるにも関わらず比較構文が成り立ちにくいのである。これは、「憎い」「恨めしい」「恋しい」は主にコトに対する主体の感情を表し、あるコトに対する感情の程度を基準にして他のコトに対する感情の程度の上下を計るのは難しいためであると思われる。

(5-70) a. その言葉が憎い。【①類】

b. ?その言葉は今まで聞いたどの言葉よりも憎い。

(5-71) a. その言葉が恨めしい。【①類】

b. ?その言葉は今まで聞いたどの言葉よりも恨めしい。

(5-72) a. その言葉が恋しい。【①類】

b. ?その言葉は今まで聞いたどの言葉よりも恋しい。

このように、「コト₁がコト₂より～い」は、コトのある側面の程度の上下を表す意味で用いられている。そのため、⑥「少ない」類の「高い」と⑤「危ない」類の「美しい」のようにコトのある側面に関する属性・評価を表す形容詞が主に用いられている。また、感覚を表す④「熱い」類の「暖かい」のようにコトの属性を表すものが用いられていて、感情を表す③「寂しい」類の「楽しい」と②「嬉しい」類の「嬉しい」のようにコトに対する主体の感情を表すと同時にコトの属性を表すものが用いられている。しかし、①「憎い」類は「欲しい」以外は用いられていない。

以上、5.4.1節～5.4.3節では、比較構文「人₁が人₂より～い」「モノ₁がモノ₂より～い」「コト₁がコト₂より～い」と共起する形容詞の特徴を見た。その結果をまとめると表5-5のようになる。

表5-5 三つの比較構文の形容詞の特徴（表5-1の再掲）

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤い」 類
人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	×	×	△	△	○	○	○
モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	×	△	○	○	○	○	○
コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	×	○	○	○	○	○	○

表5-5で、三つの比較構文は属性度の高い「赤い」類、「少ない」類、「危ない」類は全て共起するが、感情度の高い「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類との共起には違いが見られる。

これは、属性の比較はどの比較構文においても成り立つが、感情の比較は制限があることを意味すると思われる。「人₁ガ人₂ヨリ～い」において「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類のような感情・感覚を表す形容詞は成り立たないか成り立ちにくいだが、それは人と人の感情を比較することは考えにくいからであると思われる。²³また、「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」では感情度の高い「憎い」類と「嬉しい」類が共起しにくく、「コト₁ガコト₂ヨリ～い」では感情度の高い「憎い」類が共起しにくいだが、それは一人の中での感情の比較であっても「憎い」類のように主に主体の感情のみを表すもの同士はその程度の上下を比較しにくいからであると思われる。

²³ 感情形容詞はその感情・感覚の主体、つまり一人称を主語に取るという「人称制限」を持つため（小山1966、西尾1972、寺村1971、1973、1982、等）、「人₁ガ人₂ヨリ～い」の述語に感情を表す形容詞が来る場合「人₁」が一人称のときは「人₁」が三人称のときより容認度が上がると思われる。しかし、述語が感情を表す形容詞の場合「人₁」が一人称であっても、「*私は花子より憎い」「*私は花子より嬉しい」「??私は花子より寂しい」のように感情の比較が成り立ちにくいことには変わりがない。

5.5 本章のまとめ

第5章では、比較構文「XガYヨリ～い」について、X、Yが「人」「モノ」「コト」である場合を対象として、BCCWJで調査を行い各比較構文と共起する形容詞の特徴を見た。その結果、三つの比較構文において共起する形容詞の特徴は表5-6の通りであった。

その結果、表5-6のように比較構文「人₁ガ人₂ヨリ～い」「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」「コト₁ガコト₂ヨリ～い」では共起する形容詞の範囲に違いが見られるが、それに基づき形容詞は太い線のように①類、②類、③④類、⑤⑥⑦類の四つの段階に分けられた。

表5-6 比較構文と形容詞の七分類（表5-1の再掲）

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱 い」類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類
人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	×	×	△	△	○	○	○
モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	×	△	○	○	○	○	○
コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	×	○	○	○	○	○	○

第6章 程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょっと」「少し」「やや」

6.1 はじめに

従来、程度副詞が形容詞を修飾する際、「非常に髪が長い」「非常に嬉しい」の「非常に」のように属性・感情のどちらも修飾するものもあれば、「なかなか髪が長い」「*なかなか嬉しい」の「なかなか」のように属性は修飾するが感情は修飾しないものもあることが指摘されている。しかし、感情といっても一概に修飾しないのではなく、例えば「なかなか」の場合、「*なかなか嬉しい」は成り立ちにくい「なかなか楽しい」は成り立つように、修飾しにくいものもあれば修飾できるものもある。

そこで本章では、11語の程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょっと」「少し」「やや」が属性、感情を表す形容詞と共起するかを見て、11語の程度副詞の共起範囲の違いによって形容詞が四段階に分けられることを主張する。また、「非常に嬉しい」は成り立つが「*なかなか嬉しい」はなぜ成り立たないかのように、程度副詞によって共起する形容詞の範囲が異なる理由について、疏（2018）の比較内容（比較基準と比較差）を参考にしながら考察する。

11語の程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょっと」「少し」「やや」と本研究の形容詞の七分類の共起関係を見ると、表6-1のようになる。

表6-1 程度副詞11語と形容詞の七分類の共起関係

	感情を表す			感覚を 表す	評価を 表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類
非常に～い	○	○	○	○	○	○	○
とても～い	○	○	○	○	○	○	○
かなり～い	○	○	○	○	○	○	○
ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○
少し～い	○	○	○	○	○	○	○
やや～い	○	○	○	○	○	○	○
相当～い	○	○	○	○	○	○	○
大変～い	○	○	○	○	○	○	×
なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×
ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○
だいぶ～い	×	×	○	○	○	○	○

表6-1を見ると、程度副詞11語は④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように感覚・評価・属性を表す形容詞と共起する。一方、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、⑦「赤い」類に関しては、共起するものもあれば共起しないものもある。例えば、①「憎い」類と②「嬉しい」類は「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」と共起せず他の副詞八語と共起するが、③「寂しい」類は「ずいぶん」のみと共起しにくい。このように程度副詞11語と形容詞①～⑦類の七つの共起関係は、大きく四つの段階に分けることができる。これを表6-1の縦の太線で示す。

以下、6.2節では程度副詞と形容詞の共起に関する先行研究について概観する。続いて6.3節では国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下、BCCWJ）を用いた11語の程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょ

っと」「少し」「やや」と共起する形容詞の調査概要について説明して、6.4節ではその調査結果から11語の程度副詞と共起する形容詞の特徴を考察する。さらに6.5節では程度副詞の程度（比較差）の判断基準に注目して、「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」がなぜ感情度の高い形容詞と共起しにくいかにについて考察する。最後に6.6節では本章の内容をまとめる。

6.2 先行研究

程度副詞について、工藤（1983）は「（相対的な）状態性の意味をもつ語にかかって、その程度を限定する副詞」と既定している。工藤（1983）は、程度副詞が単なる意味分類ではない文法的な品詞類の一つとして認められていることについて「（略）主として動詞と組み合わさる状態副詞に対して、程度副詞が《種々の形容詞（いわゆる形容動詞を含めて言う）と組み合わさるのを基本とする》という形式一文法的特徴をもつからだ（略）」（p.178）と述べている。

このように、形容詞を修飾するということは程度副詞の特徴であり、程度副詞と形容詞との共起関係に関しては様々な研究がなされてきた。一つは、「程度性」²⁴を持つ形容詞と程度副詞との共起関係を考察した研究（西尾1972、佐野1999）であり、「非常に、とても、少し」等は程度性を持つ形容詞（ex.高い、うれしい）と共起するが、「ほとんど」は一点的な状態を表す形容詞（ex.ない、同じだ）と共起することが論じられている。もう一つは、感情形容詞と程度副詞との共起関係を考察した研究（佐野1998、劉・吉田2006）であり、「非常に、とても、少し」等は感情形容

²⁴ 佐野（1999）は「程度性」について「連続的・段階的な状態の幅」であり、「形容詞（ナ形容詞も含める）を中心とする多くの状態性述語に内在する」（p.32）と説明している。

詞ともその他の形容詞とも共起するが、「ずいぶん、なかなか、だいたい」等は感情形容詞以外の形容詞とのみ共起することが論じられている。

本章はこのうち程度副詞と感情形容詞との共起を論じた佐野（1998）と劉・吉田（2006）を概観する。また、「ずいぶん、なかなか、だいたい」等の程度副詞がなぜ感情形容詞と共起しにくいかについて考察するため、疏（2018）の程度副詞の比較内容（比較基準と比較差）を概観する。

6.2.1 佐野（1998）

佐野（1998）は、程度副詞は話者の主観によって程度を述べるものであるとし、その「主観性」の特徴を明らかにするために、程度副詞と感情形容詞との共起関係や修飾の仕方の違いについて論じたものである。

佐野（1998）はまず程度副詞と感情形容詞との共起関係によって程度副詞を以下のように「心底」類、「ずいぶん」類、「非常に」類の三つに分類している。「心底」類は感情形容詞とのみ共起するもの、「ずいぶん」類は感情形容詞以外の形容詞とのみ共起するもの、「非常に」類はどちらとも共起するものである。

- ・「心底」類（感情形容詞とのみ共起する）：

心底、痛切に、身に染みて、無性に、たまらなく、耐え難く、
途方もなく

- ・「ずいぶん」類（その他の形容詞とのみ共起する）：

ずいぶん、極端に、相当、嫌に、異様に、割合、案外、以外に、
予想外に、なかなか、大層、ある程度、恐ろしく、だいたい、多少

- ・「非常に」類（感情形容詞ともその他の形容詞とも共起する）：

非常に、とても、たいへん、すごく、まあまあ、少し、ちょっと

(佐野1998 : 113)

次に、佐野(1998)はそれぞれの程度副詞において、「感情形容詞＋そうだ」の修飾の仕方が異なることを論じている。

まず「心底」類の場合、(6-1)のように第三者の感情について述べることができるが、「心底」は(6-2)のように感情形容詞「うれしい」を修飾し主体の感情を強めるのに対し(6-3)のように「うれしそうだ」という客観的状态について程度を強めることはできないと述べている。

(6-1) 彼は心底うれしそうだ。

(6-2) 彼は[心底うれし] そうだ。

(6-3) *彼は心底 [うれしそうだ] 。

(佐野1998 : 113の(14) (15)、114の(16))

このことから、佐野(1998)は「心底」類は「内的感情の程度」を表すものであるとしている。

次に「非常に」類は、(6-4)のように感情形容詞「うれしい」を修飾するとも、(6-5)のように「うれしそうだ」という客観的状态を修飾することもできることから、「非常に」類は「内的感情の程度」または「客観的状态に対する評価的程度」を表すものとしている。

(6-4) 彼は[非常にうれし] そうだ。

(6-5) 彼は非常に [うれしそうだ] 。

(佐野1998 : 114の(19) (20))

最後に「ずいぶん」類は、(6-6)のように「うれしそうだ」という客観的状态を修飾することはできるが、(6-7)のように「うれしい」のみを修飾することはできないと述べている。このことから、「ずいぶん」類は「客観的状态に対する評価的程度」を表すものであるとしている。

(6-6) 彼はずいぶん [うれしそうだ]。

(6-7) *彼は [ずいぶんうれし] そうだ。

(佐野1998: 116の(29) (30))

以上、佐野(1998)は程度副詞の「主観性」に「内的感情の程度」と「客観的状态に対する評価的程度」の二種類があることを示すために、程度副詞と感情形容詞との共起関係を分類している。

佐野(1998)は「ずいぶん」類がなぜ「内的感情の程度」を表せないかについては特に考察していないが、本章では疏(2018)の比較内容(比較基準と比較差)に基づきその理由について考察する。

本章では、佐野(1998)が感情形容詞と共起するものとして取り上げた「非常に」類の「非常に、とても、たいへん、少し、ちょっと」と感情形容詞と共起しないものとして取り上げた「ずいぶん」類の「ずいぶん、なかなか、だいたい、相当」を考察の対象とする。²⁵

²⁵ 「ずいぶん、相当、だいたい、なかなか」が一人称主体の文において感情・感覚を表す形容詞と共起しにくいことは、他の研究でも指摘されている。渡辺(1991)は「わがこと」(話手自身のこと)と「ひとごと」(話手に関わりなく成立すること)という観点から、「ずいぶん、大ぶん、相当、かなり、なかなか」等を「ひとごと」系の副詞に分類し、これらは「わがこと」性を有する「嬉しい／悲しい…」と共起しにくいことを指摘している。その他に、各副詞において感情を表す形容詞が共起しにくいことを指摘した研究に、「ずいぶん」に関しては渡辺(1998)、「なかなか」に関しては服部(1994)、工藤(1999)が挙げられる。しかし、これらの研究は、感情・感覚を表す形容詞の中でより共起しやすいものやより共起しにくいものといった共起範囲の違いについては考察していない。

6.2.2 劉・吉田（2006）

劉・吉田（2006）は状態副詞、程度副詞、陳述副詞と「眠い、悲しい、読みづらい」のような情意表現の共起について論じたものである。本章は程度副詞と形容詞の共起関係に焦点を当てるものであるため、このうち程度副詞との共起に関する内容を中心に見る。

劉・吉田（2006）は、程度副詞は副詞の研究の中で比較的多く取り上げられているが、情意述語との共起に関しては考察が少ないことを指摘している。劉・吉田（2006）は、程度副詞「とても」「非常に」「はなはだ」「ずいぶん」「かなり」「なかなか」「もっと」「あまり」「すこしも」を取り上げ、このうち「とても」「非常に」「はなはだ」は感情の肯定文に用いられ、「あまり」「すこしも」は感情の否定文に用いられ、「ずいぶん」「かなり」「なかなか」「もっと」は感情形容詞と共起しないことを論じている。

まず、感情の肯定文に用いられる「とても」「非常に」「はなはだ」について見る。これらは（6-8）～（6-10）のように情意述語と共起するとされている。

（6-8） ゆうべ試験の準備で全然寝なかったので、今とても眠い。

（作p381）

（6-9） だから、今、おまえに抜けられるのは非常に痛い。（アp132）

（6-10） 夜中に電話をしてくるなんて、はなはだ迷惑だ。（実4p19）

（劉・吉田2006：170の（22）、171の（29）、171の（33）、下線は筆者
（権）による）

次に、感情の否定文に用いられる「あまり」「少しも」に関しては、否定の「ない」と呼応し、感情の否定文に用いられるものとしている。「あまり」は感情の肯定文に使わないが(6-11)のように感情の否定文によく使われて、「少しも」も(6-12)のように否定の「ない」と呼応してその感情・感覚の様態を持たないことを表すとしている。

(6-11) プレゼントをもらっても、あまりうれしくなかった。

(形p2)

(6-12) おばけやしきなんて少しもこわくないよ。(実3p112)

(劉・吉田2006: 171-172の(39)、172の(41)、下線は筆者(権)による)

一方、情意表現と共起しないものとして「ずいぶん」「かなり」「なかなか」「もっと」を提示している。特に「ずいぶん」に関して、「ずいぶん」は感情・感覚形容詞とあまり共起しないものではあるが、過去のことを表す場合は「私はずいぶん嬉しかった」のように共起できることを指摘している。

以上、劉・吉田(2006)は程度副詞と情意表現の共起について論じているが、情意表現との共起内容に関してはより考察の余地がある。例えば、劉・吉田(2006)は「かなり」が感情・感覚形容詞文に用いられないとしているが、(6-13)のように「かなり」が感情・感覚を表す形容詞と共起する例が見られる。

(6-13) でもその人がすごく私にとって今は癒し系の存在。みてるだけで、ちょっと話せるだけでもかなりうれしい。(Yahoo!知恵袋)

また、劉・吉田（2006）は情意表現と共起しないものとして「ずいぶん」「なかなか」を取り上げているが、これらは確かに「*ずいぶん嬉しい」「*なかなか嬉しい」のように両者とも共起しにくい場合もあるが、「?ずいぶん楽しい」「なかなか楽しい」のように同じ情意表現であっても共起に違いが見られる場合もある。本章では、程度副詞によって共起する情意範囲の違いに注目して、その特徴を明らかにする。

本章の対象とする程度副詞は、劉・吉田（2006）が情意述語と共起するものとして取り上げた「とても、非常に」と情意述語と共起しないものとして取り上げた「ずいぶん、かなり、なかなか」である。「あまり、少しも」と「はなはだ」は、否定の「ない」と共起したり否定の意味を表す語と共起したりするなど、共起する語に制限があるため調査対象から外した。

6.2.3 疏（2018）

疏（2018）は、程度副詞が使用できるかどうかはその文に用いられる比較の内容（比較基準と比較差）に関わるという考えに基づき、その比較の違いによって程度副詞を11類に分類したものである。

疏（2018）は、比較とは「2つ以上の事物の量を比べること」であるとし、例えば（6-14）で「太郎」は「比較対象」であり「次郎」は「比較基準」であるとしている。また、程度副詞「ずっと」は比較対象と比較基準の差、すなわち二人の身長差（＝比較差）を限定するとしている。

（6-14） 太郎は 次郎より ずっと 背が高い。

比較対象 比較基準 程度副詞 被修飾成分

(疏2018 : 47の (25))

疏 (2018) は程度副詞の分類を紹介する前に、「比較基準」と「比較差」について概観している。まず「比較基準」の場合、程度副詞文ではあるものとあるものを比較しているが、その比較基準の性質が必ずしも同じではないと述べている。例えば、「とても」が用いられた (6-15a) は「平均的な身長」を基準にしてそれより高いことを述べているが、「もっと」が用いられた (6-15b) は「太郎」も「次郎」も高身長であるということを前提として、太郎と「次郎」の身長を比べているとしている。

- (6-15) a. 太郎はとても背が高い。
b. 太郎は次郎よりもっと背が高い。

(疏2018 : 47の (26))

次に「比較差」の場合、比較を行った以上、比較差がどのくらいあるかが問題となるとしている。例えば、(6-16) では「ずっと」「少し」「もっと」が用いられているが、比較差すなわち二人の身長差は同じではないとしている。(6-16a) の「ずっと」は、二人の身長差は話し手が想定する一般の身長差より大きいということを表していて、(6-16b) の「少し」は、身長差は話し手が想定するほど大きくないということを表しているとしている。(6-16c) の「もっと」は「太郎」が「次郎」より「背が高い」程度が大きいということを表しているが、身長差が1センチでも10センチでも構わないと述べている。

- (6-16) a. 太郎は次郎よりずっと背が高い。(比較差が大きい)
b. 太郎は次郎より少し背が高い。(比較差が小さい)

c. 太郎は次郎より もっと 背が高い。(比較差の大小不問)

(疏2018: 47-48の(27))

疏(2018)は、以上のような「比較基準」の性質や「比較差」のあり方を見ることによって、程度副詞を分類し、表6-2のように、程度副詞を「もっと」類、「最も」類、「ずっと」類、「かなり」類、「少し」類、「とても」類、「極めて」類、「ほとんど」類、「完全に」類、「少しも」類、「あまり」類の11類に分けている。

表6-2 疏(2018)における程度副詞の分類(疏2018: 48の表2-5)

程度副詞の分類	程度副詞文の比較基準	比較差	程度副詞
「もっと」類	他者基準、時空基準、過去基準	大小不問	もっと、より、さらに
「最も」類	範囲基準	大小不問	最も、一番
「ずっと」類	他者基準、時空基準、過去基準	大	ずっと、遥かに、よほど
「かなり」類	他者基準、時空基準、過去基準、平均基準、感覚基準、計量基準	大	かなり、だいぶ、相当、ずいぶん、比較的、結構
「少し」類	他者基準、時空基準、過去基準、平均基準、感覚基準、計量基準	小	少し、ちょっと、やや、少々、多少
「とても」類	平均基準、感覚基準	大	とても、大変、非常に、なかなか
「極めて」類	平均基準	大	極めて、ごく
「ほとんど」類	全体基準	小	ほとんど、ほぼ、だいたい
「完全に」類	全体基準	ゼロ	完全に、全く、全然、まるで、まるっきり
「少しも」類	全体基準	ゼロ	少しも、ちっとも
「あまり」類	過去基準、平均基準、感覚基準、計量基準	小	あまり、そんなに、それほど、大して、さほど

本章では、劉・吉田(2006)が示した「とても、非常に、ずいぶん、かなり、なかなか」の五語を考察対象とし、これらが属する「とても」類と「かなり」類を対象とする。本章では、「とても」類の「とても、大変、非常に、なかなか」は全て対象とし、「かなり」類の「かなり、だいぶ、相当、ずいぶん」を対象とする。また、「とても」類と「かなり」類は両

方とも比較差が「大」であるため、比較差が「小」である「少し」類も対象として入れて、「少し」類の「少し、ちょっと、やや」を対象とする。このようにして、本章では「非情に、とても、なかなか、大変、かなり、ずいぶん、相当、だいぶ、ちょっと、少し、やや」の11語の程度副詞を考察対象とする。

疏（2018）は、「比較基準」は比較に用いられる参照点であるとし、次の表6-3のように比較基準をa～hの八つに分類している。また、八つの比較基準の内容について表6-4のようにまとめている。

表6-3 疏（2018）の比較基準の分類
（疏2018：56の表3-1に定義と下線・太字を加筆）

比較の種類	比較基準	例文
①明示的な比較	a. 他者基準	比較対象以外の事物を比較基準とするものであり、比較のヨリ格などで明示される 例：太郎は <u>次郎より</u> もっと背が高い
	b. 範囲基準	比較対象が属する集合を基準とするものである 例：太郎は <u>家族の中では</u> 最も背が高い
②含意的な比較	c. 時空基準	相対的な空間位置や時点を決めるための参照点を基準とするものである 例：太郎は <u>（私の）</u> ずっと右にいる 例：これは <u>（今から）</u> 少し昔の話だ
	d. 過去基準	過去の比較対象自身を基準とするものであり、自己の変化を表す場合に使われる 例：太郎は <u>（去年より）</u> かなり背が伸びた
③潜在的な比較	e. 平均基準	比較基準が属する集合の平均値を基準とするものであり、文中に明示されるものではない 例：太郎は <u>とても</u> 背が高い
	f. 感覚基準	話し手が五感や感情を感じる最小識別量を基準とするものであり、文中に明示されない 例：このリンゴは <u>かなり</u> 甘い
	g. 計量基準	動作に関わる量を計るために単位量を基準とするものであり、文中に明示されない 例：太郎は <u>少し</u> リンゴを食べた
	h. 全体基準	量の全体すなわち100%を比較基準とするものである 例：太郎は <u>ほとんど</u> リンゴを食べ切った

表6-4 疏（2018）の比較基準と程度副詞との対応関係（疏2018：57の表3-2）

程度副詞の分類	明示的な比較		含意的な比較		潜在的な比較			
	他者基準	範囲基準	時空基準	過去基準	平均基準	感覚基準	計量基準	全体基準
「もっと」類	○							
「最も」類		○						
「ずっと」類	○		○	○				
「とても」類					○	○		
「極めて」類					○			
「ほとんど」類								○
「完全に」類								○
「少しも」類								○
「あまり」類				○	○	○	○	
「かなり」類	○		○	○	○	○	○	
「少し」類	○		○	○	○	○	○	

疏（2018）は比較基準が文中に明示されるか否かによって、比較を「明示的な比較」「含意的な比較」「潜在的な比較」の三種類に分けている。

「明示的な比較」は比較基準が文中の成分（ex. ヨリ格）や先行文脈によって明示されるものであり、「含意的な比較」は比較基準が文に含意されているため文中に明示される必要がないものであり、「潜在的な比較」は比較基準が文中に明示されないものであるとしている。

本章では「非常に大きい」「ずいぶん大きい」「ちょっと大きい」のように比較基準が文中に明示されない場合を対象とするため、「潜在的な比較」の比較基準に注目する。「潜在的な比較」の比較基準は大きく「平均基準」「感覚基準」「計量基準」「全体基準」の四つに分けられているが、「計量基準」と「全体基準」は程度副詞と共起する語が「食べる」「食べ切る」のような動詞であるため、本章では形容詞と共起する「平均基準」と「感覚基準」に注目する。

ここからは、本章で対象とする「非情に、とても、なかなか、大変、かなり、ずいぶん、相当、だいぶ、ちょっと、少し、やや」の11語が属する「とても」類、「かなり」類、「少し」類において、「平均基準」と「感覚基準」がどのように用いられるかを見る。

まず「とても」類の「とても」の例を見る。(6-17)は「平均基準」が
用いられる例であるが、(6-17a)は「とても」が用いられていないが
(6-17b)は「とても」が用いられている。

- (6-17) a. 太郎は背が高い。
b. 太郎はとても背が高い。

(疏2018: 88の(10ab))

(6-17a)は太郎の身長が平均的身長(ex.日本人成人男性の平均的身長)
を上回っていることを表していて、平均的身長を170cmに想定すれば、太
郎の身長は171cm以上であることになっているとしている。一方、(6-17b)は太
郎の身長が平均的身長を上回っているだけでなく、さらに平均的身長との
差が大きいことを表すとしている。身長171cmは「背が高い」と言っても
「とても背が高い」とは言えず、身長200cmはむしろ「とても背が高い」
が適切であるとしている。平均的身長と太郎の身長との比較差が「通常程
度」を上回ってはじめて「とても」が用いられるとしている。ここで「通
常程度」とは、「話し手が想定する通常と比較差のことである」(p.89)
としている。疏(2018)はこのことを図6-1のように図式化している。

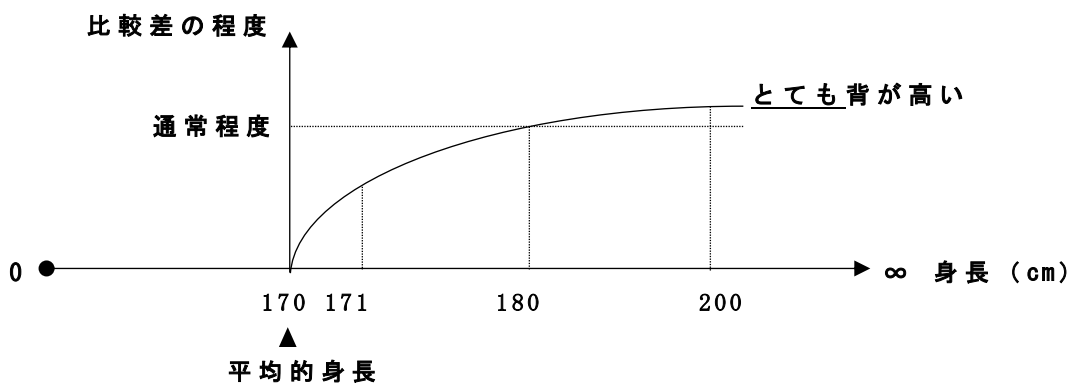


図6-1 平均基準の文における「とても」(疏2018: 89の図4-4)

図6-1の横軸は太郎の身長（比較対象）を示し、縦軸は太郎の身長と平均的身長の隔たり（比較差）の程度を示すとしている。曲線は太郎の身長と平均的身長の隔たりが大きければ大きいほど、「背が高い」の程度が高くなるということを示すとしている。太郎の身長が200cmの場合、平均的身長（170cm）との比較差（30cm）が「通常程度」に相当するため「とても背が高い」が言えるとしている。

次に（6-18ab）は「感覚基準」が用いられる例であるが、（6-18a）は「とても」が用いられていないが（6-18b）は「とても」が用いられている。

- （6-18） a. この水は甘い。
b. この水はとても甘い。

（疏2018：89-90の（11ab））

（6-18a）は、この水に含まれる砂糖の濃度（比較対象）が甘さの最小識別量（砂糖の濃度0.34%）を超えていることを表すとし、例えば、砂糖の濃度が0.34%以上であれば「甘い」と言えるとしている。一方、（6-18b）は、砂糖の濃度が最小識別量を超えていることだけでなく、濃度と最小識別量との比較差が「通常程度」を上回っていることを同時に表すとしている。疏（2018）はこのことを図6-2のように図式化している。

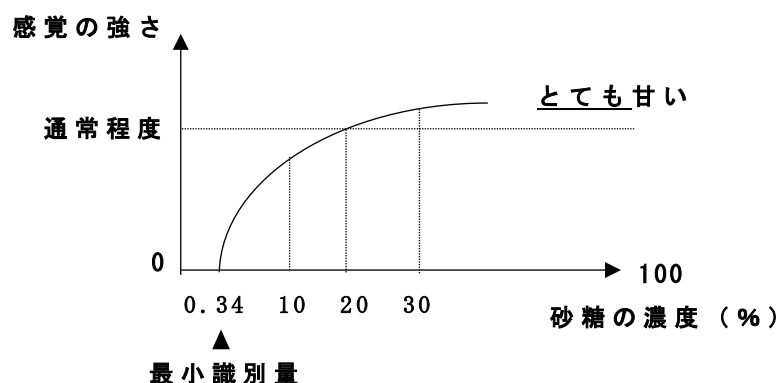


図6-2 感覚基準の文における「とても」（疏2018：90の図4-5）

図6-2の横軸は砂糖の濃度（比較対象）を示し、濃度が最小識別量（感覚基準）を超えれば甘さが感じられるとしている。縦軸は甘さの程度を示し、曲線は砂糖の濃度が高いほど甘さが強くなることを示すとしている。砂糖の濃度が0.34%以上であれば「この水は甘い」が成り立つが、濃度10%の場合は甘さの程度が足りないため「とても甘い」とは言いにくいとしている。濃度20%の場合は甘さが「通常程度」を上回っていて「とても甘い」が言えて、濃度30%の場合は甘さが「とても甘い」がもっと言いやすいと述べている。

次は「かなり」類の「かなり」と「少し」類の「少し」の例を見る。疏（2018）は、「かなり」類と「少し」類は比較基準が共通しているため一緒に扱っている。（6-19ab）は「平均基準」が用いられる場合であるが、（6-19a）は「かなり」と「少し」が用いられていないが（6-19b）は「かなり」と「少し」が用いられている。

- (6-19) a. 太郎は背が高い。
 b. 太郎は {かなり／少し} 背が高い。

（疏2018：120の（50ab））

(6-19a) は太郎の身長が平均的身長より高いことを表すものであり、(6-19b) は太郎の身長と平均的身長との差（比較差）がどれほどあるかを表すものであるとしている。170cmを平均的身長と想定する場合、太郎の身長が171cmであれば「背が高い」または「少し背が高い」と言えるが、「とても背が高い」とは言えず、太郎の身長が190cmであれば「背が高い」または「とても背が高い」と言えるが「少し背が高い」とは言えないとしている。疏（2018）はこのことを図6-3のように図式化している。

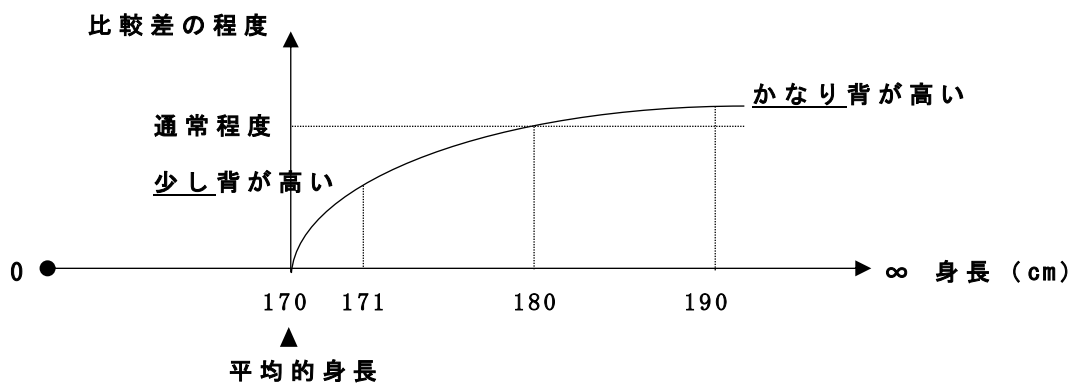


図6-3 平均基準の文における「かなり」と「少し」（疏2018：120の図4-20）

(6-20ab) は「感覚基準」が用いられる場合であるが、(6-20a) は「かなり」と「少し」が用いられていないが(6-20b) は「かなり」と「少し」が用いられている。

- (6-20) a. この水は甘い。
 b. この水は {かなり／少し} 甘い。

(疏2018：121の(51ab))

(6-20a) は「この水」の砂糖の濃度が甘味の最小識別量（砂糖の濃度0.34%）を超えていることを表すものであり、(6-20b) は「この水」の砂

糖の濃度が最小識別量をどれほど超えているかを問題にするものであるとしている。濃度が0.34%より高ければ「甘い」と言えるが、濃度が10%の場合「少し甘い」と言えても「かなり甘い」とは言えず、濃度が30%の場合「かなり甘い」と言えても「少し甘い」と言いにくいとしている。疏(2018)はこのことを図6-4のように図式化している。

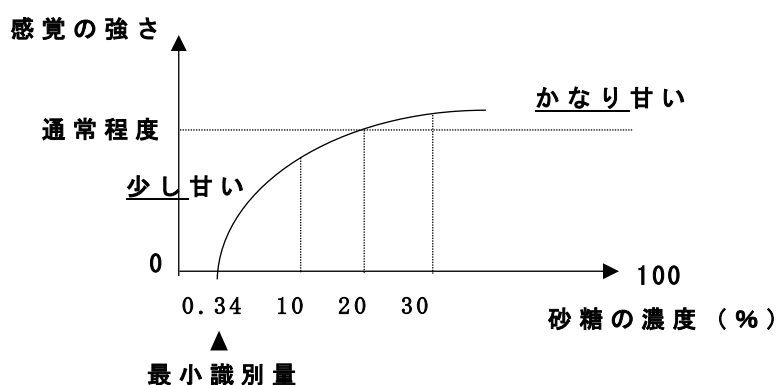


図6-4 感覚基準の文における「かなり」と「少し」(疏2018: 121の図4-21)

疏(2018)は、以上の「とても」類、「かなり」類、「少し」類の意味と比較差のあり方を表6-5のようにまとめている。

表6-5 「とても」類、「かなり」類、「少し」類の意味
(疏2018: 123の表4-2の「とても」類、「かなり」類、「少し」類の部分)

分類	程度副詞	共起可能な比較基準	意味
「とても」類	とても、大変、非常に、なかなか	平均基準、感覚基準	比較差が「通常程度」より大きい
「かなり」類	かなり、だいぶ、相当、ずいぶん、比較的、結構	他者基準、時空基準、過去基準、平均基準、感覚基準、計量基準	比較差が「通常程度」より大きい
「少し」類	少し、ちょっと、やや、少々、多少	他者基準、時空基準、過去基準、平均基準、感覚基準、計量基準	比較差が「通常程度」より小さい

以上、疏(2018)は、程度副詞文には必ず何らかの比較が存在するという考えに基づき、その比較の内容(比較基準と比較差)によって程度副詞を11類に分類している。しかし、程度副詞を詳しく見ると、同じ種類の副

詞であっても修飾する形容詞が異なる場合がある。例えば、疏（2018）の「かなり」類には「かなり、だいぶ、相当、ずいぶん」が属するが、感情を表す形容詞の現在形の言い切りは「かなり、相当」は修飾できるが「だいぶ、ずいぶん」は修飾しにくい。（6-21）～（6-24）がその例である。

（6-21） 私はかなり嬉しい。

（6-22） 私は相当嬉しい。

（6-23） ? 私はだいぶ嬉しい。

（6-24） * 私はずいぶん嬉しい。

疏（2018）は、「私」の嬉しさの程度が嬉しさの最小識別量を超えれば「嬉しい」と感じ取れて、「私」の嬉しさの程度と最小識別量の差が話し手の想定する通常程度（「通常程度」）より高ければ「かなり」類が用いられると述べている。しかし、（6-21）～（6-24）のように「かなり」類の中でも共起に違いがあることから、「かなり、相当」と「だいぶ、ずいぶん」は比較において何か違いがあることが考えられる。そこで、本章では「だいぶ、ずいぶん」は、他の副詞と違って、その比較差が「通常程度」より大きいかを見るのではなく、「話し手の期待した程度」より大きいかを見るということを主張する。これは「なかなか」にも同じように当てはまる。詳しい内容は6.5節で述べる。

6.2.4 先行研究のまとめと本章の課題

以上、佐野（1998）、劉・吉田（2006）、疏（2018）による程度副詞と形容詞の共起について見た。

これらの先行研究を踏まえ、本章では「非常に、とても、なかなか、大変、かなり、ずいぶん、相当、だいぶ、ちょっと、少し、やや」の程度副詞11語を対象とする。

また、これらの程度副詞と共起する形容詞の特徴を明らかにするために、本章ではBCCWJでこれらの程度副詞11語と共起する形容詞を調査する。

さらに、その結果については疏（2018）の程度副詞の比較内容（比較基準と比較差）を参考にしながら、程度副詞によってなぜ形容詞との共起範囲が異なるかについて論じる。

6.3 調査概要

本節では程度副詞「とても、大変、非常に、なかなか、かなり、だいぶ、相当、ずいぶん、少し、ちょっと、やや」の11語と共起する形容詞について、BCCWJの「中納言」でどのように調査を行ったかについて説明する。

本章では程度副詞が形容詞と共起する場合を対象とするが、対象とした述語の形は（6-25）（6-26）のような形容詞述部の現在形や、（6-27）のような〔形容詞＋と思う〕の形である。

（6-25） 思わずガッツポーズをしたが、我に帰るとかなり恥ずかしい。（Yahoo!ブログ）

（6-26） ところが読んでみるとなかなかおもしろく、私はぐいぐいと本の中に引きずり込まれて行きました。（潮文社編集部『心に残るとっておきの話』）

（6-27） これっておかしいと思いませんか？確かにちょっとおかしいと思います。（Yahoo!知恵袋）

以上のように、対象にする形を現在形の形容詞述部に限定したのは、程度副詞によって現在形の形容詞述部が共起する場合もあれば共起しない場合もあるためである。例えば、「とても」と「ずいぶん」は感情を表す形容詞と共起する場合、「とても」は「私はとてもうれしい」「私はとてもうれしかった」のように述部の形容詞が現在形でも過去形でも成り立つが、「ずいぶん」は「*私はずいぶんうれしい」「私はずいぶんうれしかった」のように述部の形容詞が現在形の場合は成り立たないが過去形の場合は成り立つ。このように、程度副詞と共起する述部の形容詞が現在形の場合、程度副詞によって共起する形容詞の違いが明らかになるため、本章では調査対象を現在形の形容詞述部に限定した。

用例の抽出方法は次の通りである。

① 検索の設定は以下の通りである。

検索対象：全て

検索方法：長単位検索

検索条件：

- i) 「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょっと」「少し」「やや」の場合

例) 「とても」

前方共起1「キーから5語以内」：

「語彙素読み」が「トテモ」

AND「品詞」の「大分類」が「副詞」

キー：「品詞」の「大分類」が「形容詞」

- ii) 「非常に」の場合

例) 「非常に」

キー：「語彙素読み」が「ヒジョウ」

後方共起1「キーから1語」（キーと結合して表示）：

「語彙素読み」が「ダ」

AND「活用形」の「小分類」が「連用形-ニ」

後方共起2「キーから5語以内」：

「品詞」の「大分類」が「形容詞」

- ② ①のように検索して全部で37,486語を抽出したが、そのうち「とても」が「とうてい」の意味で用いられる場合（例：とてもそんな資力はない）や「ちょっと」が呼びかけの意味で用いられる場合（例：ちょっといいですか）や「なかなか」が否定の語を伴い容易に実現しないさまを表す意味で用いられる場合（例：そんな機会はなかなかない）などの場合は除外した。その結果、「非常に」は延べ語数2,488語、異なり語数157語が、「とても」は延べ語数1,928語、異なり語数182語が、「なかなか」は延べ語数785語、異なり語数82語が、「大変」は延べ語数387語、異なり語数87語が、「かなり」は延べ語数1,481語、異なり語数155語が、「ずいぶん」は延べ語数152語、異なり語数60語が、「相当」は延べ語数142語、異なり語数52語が、「だいぶ」は延べ語数53語、異なり語数30語が、「ちょっと」は延べ語数1,348語、異なり語数176語が、「少し」は延べ語数672語、異なり語数132語が、「やや」は延べ語数386語、異なり語数72語が抽出できた。

6.4 共起する形容詞の特徴

本節では、6.3節のように調査を行った結果について見る。6.4.1節～6.4.11節では、程度副詞11語と共起する形容詞の特徴を見る。その順番は表6-6の通りである。各程度副詞が①～⑦類の形容詞と共起する範囲を基

準にし、6.4.1節～6.4.7節では①～⑦類の七つの形容詞全てと共起する「とても」「ちょっと」「少し」「非常に」「かなり」「やや」「相当」を、6.4.8節では①～⑥類の六つの形容詞と共起する「大変」を、6.4.9節～6.4.10節では③～⑦類の形容詞と共起する「ずいぶん」「だいぶ」を、6.4.11節では③～⑥類の形容詞と共起する「なかなか」を扱った。①～⑦類の七つの形容詞と共起する「とても」「ちょっと」「少し」「非常に」「かなり」「やや」「相当」の場合、七つの形容詞のうちどの種類の形容詞が上位を占めるかを見ると、②～⑥類が上位を占める「とても」「ちょっと」「少し」と⑤⑥類が上位を占める「非常に」「かなり」「やや」「相当」にさらに分けられる。

表6-6 程度副詞11語と共起する七つの形容詞

	程度副詞	形容詞の種類		程度副詞	形容詞の種類
1	とても	①～⑦ (②～⑥類が上位を占める)	9	ずいぶん	③～⑦
2	ちょっと		10	だいぶ	
3	少し		11	なかなか	③～⑥
4	非常に	①～⑦ (⑤⑥類が上位を占める)			
5	かなり				
6	やや				
7	相当				
8	大変	①～⑥			

このような順番で、程度副詞11語と共起する形容詞の特徴を見る。

6.4.1 「とても」

「とても」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-7のようになる。共起する形容詞の延べ語数は1,928語、異なり語数は182語である。「類」は形容詞の種類を表し、他の表も同様である。

「とても」と共起する形容詞の種類を全体的に見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が広く用いられていて、⑦「赤い」類、④「熱い」類、

③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類の語が見られる。上位に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類以外にも、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類が現れているのが特徴的である。このように、「とても」は①～⑦類の七つの形容詞全てと共起している。

(6-28) ～ (6-34) は「とても」が①～⑦類の七つの形容詞と共起する例である。

(6-28) 囁くような伊織の提案はとても正しい。(高崎ともや『この接吻さえもあなたのために』) 【⑦類】

(6-29) 兄夫婦はとても仲がいい。(山本文緒『紙婚式』) 【⑥類】

(6-30) いま、目の前でほほえんでる亜衣は、とてもかわいい。
(はやみねかおる『あやかし修学旅行』) 【⑤類】

(6-31) そういう日々が一月ほど続いたが、台所の窓を開け放しで寝るのでドアのすき間から寒風が入ってとても寒い。(今井美沙子『やっぱり猫はエライ』) 【④類】

(6-32) 小磯での釣りはあまり大物の期待はできないが、いろいろな種類の魚が釣れてとても楽しい。(中田悟『磯釣り』) 【③類】

(6-33) すると皆さんが可愛い可愛いとおっしゃる。そう言われると、私はとても嬉しいし、この子もいい気分になって非常に喜んでいる。(木元教子『子離れ親離れのすすめ』) 【②類】

(6-34) 優しい顔立ちで性格も優しい、とてもうらやましい。
(Yahoo!知恵袋) 【①類】

表6-7 「とても」と共起する形容詞
(延べ語数：1,928語、異なり語数：182語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	良い	230	6少	52	格好良い	5危	8	10	しんどい	3寂	2	6	重たい	4熱	1
2	嬉しい	142	2嬉		可愛らしい	5危			鋭い	6少			女の子らしい	6少	
3	美味しい	104	4熱		近い	6少			怠い	2嬉			賢い	5危	
4	-やすい	63	6少		冷たい	4熱			遠い	6少			格好悪い	5危	
5	難しい	60	5危		懐かしい	1憎			情けない	5危			か細い	6少	
6	多い	52	6少		恐ろしい	3寂			人懐こい	5危			かわゆい	5危	
7	可愛い	50	5危		興味深い	5危			古い	6少			気まずい	5危	
8	楽しい	3	3寂		薄い	6少			細い	6少			気持ち悪い	3寂	
9	怖い	43	3寂		心地良い	3寂			眩しい	4熱			擦ったい	2嬉	
10	つらい	40	3寂		狭い	7			短い	6少			気高い	5危	
11	大きい	39	6少	眠い	2嬉	面倒臭い	3寂	神々しい	5危						
12	美しい	38	5危	深い	6少	勿体無い	5危	酒臭い	4熱						
13	高い	6	6少	甘い	4熱	-がたい	6少	さり気無い	5危						
14	優しい	30	5危	上手い	6少	愛らしい	5危	親しい	6少						
15	面白い	29	5危	正しい	7赤	青い	7赤	白い	7赤						
16	強い	6	6少	低い	6	厚い	6少	清々しい	5危						
17	寒い	27	4熱	酷い	5危	怪しい	5危	酸っぱい	4熱						
18	悪い	6	6少	貧しい	6少	いじらしい	1憎	素早い	6少						
19	悲しい	23	2嬉	珍しい	6少	痛々しい	5危	狡賢い	5危						
20	少ない	6	6少	温かい	4熱	疎い	6少	せこい	5危						
21	寂しい	3	3寂	暑い	4熱	偉い	6少	ださい	5危						
22	小さい	22	6少	おかしい	5危	感慨深い	5危	頼もしい	5危						
23	無い	7	7赤	かたい	6少	汚い	6少	タバコ臭い	4熱						
24	柔らかい	21	4熱	臭い	4熱	悔しい	3寂	頼り無い	5危						
25	はやい	20	6少	詳しい	6少	陰しい	6少	近しい	6少						
26	素晴らしい	19	5危	凄い	5	濃い	6	力強い	5危						
27	痛い	18	3寂	涼しい	4熱	好ましい	5危	生温い	4熱						
28	-にくい	17	6少	激しい	6少	切ない	3寂	鈍い	6少						
29	有り難い	16	3寂	太い	6少	艶めかしい	5危	人間らしい	6少						
30	忙しい	5	5危	まずい	4熱	苦い	4熱	歯痒い	1憎						
31	恥ずかしい	2	2嬉	若い	6少	腹立たしい	1憎	はしたない	5危						
32	広い	6	6少	-難い	6少	蒸し暑い	4熱	幅広い	6少						
33	安い	6	6少	浅い	6少	脆い	6少	晴れがましい	6少						
34	-づらい	6	6少	大人しい	5危	易しい	6少	相応しい	6少						
35	明るい	6	6少	痒い	2嬉	宜しい	6少	欲しい	1憎						
36	暖かい	4	4熱	きつい	6少	汗臭い	4熱	程遠い	6少						
37	気持ち良い	3	3寂	心強い	5危	新しい	6少	微笑ましい	5危						
38	重い	13	6少	細かい	6少	熱い	4熱	醜い	5危						
39	厳しい	6	6少	申し訳ない	2嬉	危ない	5危	惨たらしい	5危						
40	長い	6	6少	-ぼい	6少	あらい	6少	空しい	3寂						
41	弱い	6	6少	息苦しい	4熱	あんらしい	6少	ややこしい	5危						
42	羨ましい	12	1憎	遅い	6少	愛しい	1憎	用心深い	5危						
43	軽い	11	6少	覚束ない	5危	印象深い	5危	喜ばしい	5危						
44	苦しい	3	3寂	からい	4熱	恨めしい	1憎	-苦しい	6少						
45	煩い	10	5危	暗い	6少	幼い	6少								
46	美味しい	9	4熱	香ばしい	4熱	惜しい	1憎								

以上、「とても」は①～⑦類の七つの形容詞が全て用いられている。このように、「とても」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が表せる。

6.4.2 「ちょっと」

「ちょっと」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-8のようになる。共起する形容詞の延べ語数は1,348語、異なり語数は176語である。

「ちょっと」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑤「危ない」類と⑥「少ない」類が広く用いられていて、その他に⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類が見られる。上位に⑤「危ない」類と⑥「少ない」類以外にも、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類が現れている点で「とても」と共通している。このように、「ちょっと」は①～⑦類の七つの形容詞全てと共起している。

表6-8 「ちょっと」と共起する形容詞
(延べ語数：1,348語、異なり語数：176語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類			
1	怖い	86	3寂	48	欲しい	1	憎	104	煙たい	4	熱	1	おばさん臭い		5危			
2	おかしい	85	5危		面倒臭い	3	寂		心細い	3	寂		おばはん臭い		5危			
3	高い	76	6少		ー難い	6	少		しつこい	5	危		重たい		4熱			
4	ーにくい	55	6少		暑い	4	熱		しょっぱい	4	熱		堅苦しい		5危			
5	難しい	51	5危		ウザい	5	危		酸っぱい	4	熱		痒い		2嬉			
6	寂しい	47	3寂		遅い	6	少		切ない	3	寂		軽い		6少			
7	悪い	44	6少		格好良い	5	危		ダサい	5	危		感慨深い		5危			
8	無い	41	7赤		強い	6	6少		近い	6	少		黄色い		7赤			
9	はやい	38	6少		肌寒い	4	熱		冷たい	4	熱		ぎこちない		5危			
10	ーぼい	37	6少		宜しい	6	少		とろい	6	少		汚い		6少			
11	遠い	31	6少		弱い	6	少		生々しい	5	危		気持ち良い		3寂			
12	恥ずかしい	27	2嬉		若い	6	少		苦い	4	熱		興味深い		5危			
13	痛い	26	3寂	57	危ない	5	危	1	眠い	2	嬉	1	口寂しい		2嬉			
	つらい	26	3寂		重い	6	少		柔らかい	4	熱		黒い		7赤			
15	古い	25	6少		狭い	6	少		煩わしい	5	危		ぐろい		5危			
	良い	25	6少		楽しい	3	寂		青い	7	赤		心地良い		3寂			
17	寒い	24	4熱		怠い	2	嬉		青臭い	4	熱		心苦しい		3寂			
18	嬉しい	23	2嬉		ーやすい	6	少		赤い	7	赤		心強い		5危			
19	ひどい	20	5危		怪しい	5	危		浅ましい	5	危		細かい		6少			
20	ーづらい	19	6少		低い	6	少		味気ない	5	危		塩辛い		4熱			
21	悲しい	18	2嬉		63	広い	4		6少	1	暖かい		4	熱	1	仕方ない		5危
22	不味い	17	4熱			珍しい	6		少		温かい		4	熱		渋い		4熱
23	きつい	16	6少			ーがたい	6		少		新しい		6	少		小便臭い		4熱
24	やばい	15	5危			熱い	4		熱		厚かましい		5	危		じれったい		3寂
25	忙しい	13	5危	いやらしい		5	危	磯臭い	4		熱	図々しい		5危				
	厳しい		6少	濃い		6	少	訝しい	5		危	涼しい		4熱				
	長い		6少	凄い		5	危	陰険臭い	5		危	せこい		5危				
	勿体無い		5危	狡い		5	危	うざったい	5		危	たどたどしい		5危				
29	甘い	12	4熱	68		頼りない	5	危	1		胡散臭い	5	危	1		だらしない		5危
	しんどい		3寂			小さい	6	少			薄い	6	少			情けない		5危
31	格好悪い	11	5危			泥臭い	4	熱			薄暗い	6	少			馴れ馴れしい		5危
	少ない		6少			懐かしい	1	憎			嘘臭い	5	危			温い		4熱
33	多い	10	6少		浅い	6	少	疑わしい		5	危	激しい			6少			
	気持ち悪い		3寂		危うい	5	危	疎い		6	少	はしたない			5危			
	ややこしい		5危		鬱陶しい	3	寂	疎ましい		5	危	腹立たしい			1憎			
36	面白い	9	5危		上手い	6	少	美味しい		4	熱	貧乏くさい			5危			
37	羨ましい	8	1憎		エロい	5	危	エグい		4	熱	太い			6少			
	かたい		6少		恐ろしい	3	寂	えげつない		5	危	古臭い			5危			
39	煩い	7	5危		77	大人げない	2	5危		1	偉い	6	少		1	微笑ましい		5危
	大きい		6少			からい	4	熱			美味しい	4	熱			ぼろい		6少
	可愛い		5危	ぎこちない		5	危	幼い	6		少	空しい		3寂				
	悔しい		3寂	気まずい		5	危	惜しい	1		憎	安い		6少				
	暗い		6少	キモい		5	危	おっかない	3		寂	ーらしい		6少				
	苦しい		3寂	詳しい		6	少	おっさん臭い	5		危							

(6-35) ～ (6-41) は「ちょっと」が①～⑦類の七つの形容詞と共起する例である。

(6-35) まきが、かみをふって出ていくと、先生はようこにむきなあった。「たんは、どう？」 「少し…」 「くちびるが、ちょっと青いわねえ」 (和田登『ネコまんがのほけん室』)

【⑦類】

(6-36) 三重県長島町の長島スパーランド 遊園地、温泉、どちらもかなりいい ホテル代がちょっと高い。(Yahoo!知恵袋)

【⑥類】

(6-37) とにかく最初から、この人の頭の回路はちょっとおかしいぞ、と思いましたがね。(『佐藤雅彦全仕事』) 【⑤類】

(6-38) 地下鉄の駅から地上にでると、ひんやりとした空気があたしたちを包んだ。「ちょっと寒いけど、いい気持ち」(田中雅美『赤い靴探偵団』) 【④類】

(6-39) ただ坂道とかで止まるとちょっと怖いね。(Yahoo!知恵袋)

【③類】

(6-40) カップルルームなども有ります。私はチョッと恥ずかしいので行った事はありません。(Yahoo!知恵袋) 【②類】

(6-41) 先日行ったG U A MでパパがマンダラS P Aでオイルマッサージを受けたのですが・・・(略) パパはタッキーが体験してることを体験したんだな～と思うとちょっとうらやましい。(Yahoo!ブログ) 【①類】

以上、「ちょっと」は、①～⑦類の七つの形容詞が全て用いられている。このように、「ちょっと」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が表せる。

6.4.3 「少し」

「少し」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-9のようになる。共起する形容詞の延べ語数は672語、異なり語数は132語である。

「少し」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が広く用いられていて、その他に⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類が見られる。上位に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類以外にも、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類が現れている点で「とても」「ちょっと」と共通している。このように、「少し」は①～⑦類の七つの形容詞全てと共起している。

(6-42)～(6-48)は「少し」が①～⑦類の七つの形容詞と共起する例である。

(6-42) 「あなた、顔色悪いんじゃない、少し蒼いわよ」（伊保庄健『老いてこそ、始める』）【⑦類】

(6-43) ▼父は血圧が少し高い。（田代しんたろう『漢字事典五年生』）【⑥類】

(6-44) 変換後の動画の画面のサイズが少しおかしいです・・・
（Yahoo!知恵袋）【⑤類】

(6-45) 上着を脱いできてしまったので、少し寒い。（鈴木博之『都市のかなしみ』）【④類】

表6-9 「少し」と共起する形容詞
(延べ語数：672語、異なり語数：132語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類	
1	高い	53	6少	34	甘い	4熱	5	4熱	からい	4熱	1	5危	気恥ずかしい	5危	5危	
2	痛い	29	3寂		狭い	6少			ぎこちない	5危			気まずい	5危		
	はやい	6少	冷たい		4熱	厳しい			6少	くどい			5危			
4	おかしい	28	5危		細い	6少			臭い	4熱			心苦しい	3寂		
5	大きい	24	6少		ややこしい	5危			黒い	7赤			心強い	5危		
6	小さい	23	6少		良い	6少			しんどい	3寂			心許無い	3寂		
	悪い	6少	暑い		4熱	少ない			6少	しょっぱい			4熱			
8	寂しい	19	3寂		薄い	6少			涼しい	4熱			白々しい	5危		
	長い	6少	暗い		6少	情けない			5危	凶々しい			5危			
10	寒い	18	4熱		40	苦しい			4	3寂			酸っぱい	4熱		
11	怖い	16	3寂		眠い	2嬉			分厚い	6少			鋭い	6少		
12	難しい	15	5危		欲しい	1憎			太い	6少			せこい	5危		
13	古い	13	6少		明るい	6少			ほろ苦い	4熱			素っ気ない	5危		
	弱い	6少	暖かい		4暖	勿体無い			5危	楽しい			3寂			
15	きつい	6少	厚い		6少	柔らかい			4熱	頼りない			5危			
	遠い	6少	あらい		6少	緩い			6少	近い			6少			
	恥ずかしい	2嬉	息苦しい		4熱	宜しい			6少	茶色い			7赤			
	安い	6少	羨ましい		1憎	若い			6少	照れ臭い			1憎			
19	無い	10	7赤		46	煩い			5危	1			6少	名残惜しい		1憎
	広い	6少	嬉しい		3	2嬉			青臭い	4熱			鈍い	6少		
21	重い	9	6少		軽い	6少			温かい	4熱			人間臭い	5危		
22	遅い	6少	気持ち悪い		3寂	新しい			6少	熱い			4熱	温い		4熱
	短い	6少	悔しい		3寂	熱い			4熱	危なっかしい			5危	妬ましい		1憎
	ーぼい	6少	詳しい		6少	荒々しい			5危	有り難い			3寂	のろい		6少
25	多い	6少	肌寒い		4熱	86			ウザい	1			5危	深い		6少
	悲しい	2嬉	低い		6少	60			薄暗い	6少			6少	誇らしい		5危
	強い	6少	青い		7赤	7赤			幼い	6少			6少	不味い		4熱
	ーにくい	6少	赤い		7赤	7赤			押しつけがましい	5危			5危	丸っこい		7赤
29	かたい	6少	危ない		5危	2			面白い	5危			5危	珍しい		6少
	濃い	6少	60		慌ただしい	2			5危	5危			5危	申し訳無い		2嬉
	怠い	2嬉	忙しい		5危	5危			可愛い	5危			5危	煩わしい		5危
	つらい	3寂	惜しい		1憎	1憎			ぎこちない	5危			5危	ーやすい		6少
	ーづらい	6少	重たい		4熱	4熱								ー難しい		6少

(6-46) 野茂英雄選手が引退を表明しましたね。彼のことが好きだったので、少し寂しいです。(Yahoo!ブログ) 【③類】

(6-47) 中古でスーツケースをもらったのですが、旅先でのステッカーが沢山はってあり、少し恥ずかしいです。(Yahoo!知恵袋) 【②類】

(6-48) でも、祭りというものを、ノスタルジーの風物だけにしてしまうのは、少しおしい。(森毅『世紀末のながめ』)【①類】

以上、「少し」は、①～⑦類の七つの形容詞が全て用いられている。このように、「少し」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が表せる。

6.4.4 「非常に」

「非常に」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-10のようになる。共起する形容詞の延べ語数は2,488語、異なり語数は157語である。

「非常に」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が広く用いられていて、その他に⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類の語が見られる。上位に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類の二類が主に現れている点で、「とても」「ちょっと」「少し」とは区別される。このように、「非常に」は①～⑦類の七つの形容詞全てと共起している。

(6-49)～(6-55)は「非常に」が①～⑦類の七つの形容詞と共起する例である。

(6-49) その点、田中外相は「金魚のフン」であることを良しとしない気概がある。日米安保やミサイル防衛システムなどへの感覚は非常に正しい。(『サンデー毎日』2001年7月22日号)
【⑦類】

表6-10 「非常に」と共起する形容詞
(延べ語数：2,488語、異なり語数：157語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	良い	285	6少	44	詳しい	6少	5	94	尊い	6少	1	騒がしい	5危		
2	多い	278	6少		楽しい	3寂			根強い	6少		親しい	6少		
3	悪い	220	6少		古い	6少			望ましい	5危		渋い	4熱		
4	高い	201	6少		厚い	6少			幅広い	6少		思慮深い	5危		
5	難しい	185	5危		甘い	4熱			ひどい	5危		しんどい	3寂		
6	大きい	168	6少		きつい	6少			まずい	4熱		素っ気無い	5危		
7	少ない	149	6少		細かい	6少			貧しい	6少		頼もしい	5危		
8	強い	127	6少		寒い	4熱			眩しい	4熱		だらしない	5危		
9	低い	72	6少		無い	7赤			面倒臭い	3寂		力強い	5危		
10	-やすい	54	6少		暑い	4熱			勿体無い	5危		冷たい	4熱		
11	厳しい	41	6少	忙しい	5危	喧しい	5危	手堅い	5危						
12	-にくい	38	6少	悲しい	2嬉	若い	6少	手ぬるい	5危						
13	小さい	32	6少	正しい	47赤	-ぼい	6少	照れ臭い	1憎						
14	長い	29	6少	乏しい	6少	愛らしい	5危	生々しい	5危						
	広い	6少		腹立たしい	1憎	浅い	6少	悩ましい	5危						
16	短い	25	6少	細かい	6少	暖かい	4熱	根深い	6少						
17	面白い	24	5危	怪しい	5危	熱い	4熱	のろい	6少						
18	弱い	23	6少	疑わしい	5危	危ない	5危	腹黒い	5危						
19	近い	20	6少	上手い	6少	危なっかしい	5危	相応しい	6少						
20	興味深い	19	5危	煩い	5危	危うい	5危	古めかしい	6少						
21	嬉しい	2嬉		惜しい	1憎	あらい	6少	紛らわしい	5危						
	狭い	6少		遅い	6少	印象深い	5危	待ち遠しい	1憎						
23	はやい	16	6少	賢い	5危	疑い深い	5危	見苦しい	5危						
24	美しい	15	5危	好ましい	35危	疑り深い	5危	みっともない	5危						
	軽い	6少		怖い	3寂	鬱陶しい	3寂	蒸し暑い	4熱						
26	珍しい	6少		素早い	6少	巧い	6少	空しい	3寂						
	-づらい	6少		鋭い	6少	恐ろしい	3寂	めんどい	3寂						
28	薄い	6少		遠い	6少	大人しい	5危	易しい	6少						
	つらい	3寂		恥ずかしい	2嬉	重々しい	5危	優しい	5危						
30	おかしい	5危		申し訳ない	2嬉	堅苦しい	5危	柔い	4熱						
	重い	6少		柔らかい	4熱	格好良い	5危	喜ばしい	5危						
32	かたい	6少		宜しい	6少	痒い	2嬉	弱弱しい	5危						
	深い	6少		-がたい	6少	汚い	6少	分かり良い	6少						
34	安い	10	6少	新しい	6少	汚らしい	6少	若々しい	5危						
35	激しい	9	6少	美味しい	4熱	気まずい	5危	煩わしい	5危						
36	有り難い	3寂	74	奥深い	6少	口煩い	5危	-難い	6少						
	美味しい	4熱		気持ち良い	3寂	毛深い	6少								
	素晴らしい	5危		暗い	6少	濃い	6少								
39	苦しい	7	3寂	険しい	6少	心許無い	3寂								
40	痛い	6	3寂	心苦しい	3寂	寂しい	3寂								

- (6-50) しかし、アスクルの予算管理サービスは顧客の間で非常に評判がいい。(井関利明、緒方知行『アスクル』)【⑥類】
- (6-51) また、発話は聴力を何歳で失ったかによっても大きく左右され、孝治のように、言語を習得できる臨界期と言われる三歳までに失聴した場合、「声」を出して話すのは非常に難しい。(黒岩比佐子『音のない記憶』)【⑤類】
- (6-52) 香りは特に優れ、果実が非常に甘い。(『趣味の園芸(NHKテレビ放送テキスト)』)【④類】
- (6-53) 四時間しか寝ていないので、非常につらい。(池田貴『ガンを生きる』)【③類】
- (6-54) 「我々のいた時代より今のダイキンはよくなっている」と言われると非常に嬉しいです。(『エコノミスト』)【②類】
- (6-55) 勝負に生きる一角(ひとかど)の人物だけに非常に惜しいです。(Yahoo!ブログ)【①類】

以上、「非常に」は、①～⑦類の七つの形容詞が全て用いられている。このように、「非常に」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が表せる。

6.4.5 「かなり」

「かなり」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-11のようになる。共起する形容詞の延べ語数は1,481語、異なり語数は155語である。

表6-11 「かなり」と共起する形容詞
(延べ語数：1,481語、異なり語数：155語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	高い	155	6少		甘い		4熱		細い		6少		気持ち良い		3寂
2	多い	120	6少		美味しい		4熱		柔らかい		4熱		興味深い		5危
3	良い	82	6少		恥ずかしい		2嬉		浅い		6少		際どい		5危
4	大きい	81	6少	43	上手い		6少	80	新しい		6少		擦ったい		2嬉
5	低い	80	6少		煩い		5危		危ない		5危		悔しい		3寂
6	難しい	67	5危		かたい	6	6少		あらい		6少		黒い		7赤
7	少ない	47	6少		寒い		4熱	有り難い		3寂		険しい		6少	
8	強い	41	6少		太い		6少	忙しい		5危		心強い		5危	
9	きつい	37	6少		暖かい		4熱		旨い		4熱		心許無い		3寂
10	広い	32	6少		薄い		6少		からい		4熱		小広い		6少
	安い		6少		おかしい		5危		気まずい		5危		寂しい		3寂
12	厳しい	29	6少		可愛い		5危	毛深い		6少		さみしい		3寂	
13	痛い	25	3寂	48	臭い		4熱	80	煙い		4熱		騒がしい		5危
14	小さい	22	6少		暗い	5	6少		心地良い	2	3寂		塩辛い		4熱
	近い		6少		苦しい		3寂		白い		7赤		塩臭い		4熱
	悪い	6少		でかい		6少	凶々しい		5危	渋い		4熱			
17	面白い	21	5危		珍しい		6少	素晴らしい		5危		消毒臭い		4熱	
18	美味しい	20	4熱		短い		6少		鋭い		6少		しょっぱい		4熱
	古い		6少		ウザい		5危		楽しい		3寂		しょぼい		5危
20	重い	19	6少		鬱陶しい		3寂		無い		7赤		凄まじい		5危
	長い		6少	軽い		6少	面倒臭い		3寂	涼しい		4熱			
22	酷い	17	5危		濃い		6少	勿体無い		5危		せこい		5危	
23	遅い	16	6少	57	しんどい		3寂		ややこしい		5危		そそっかしい		5危
	怖い		3寂		情けない	4	5危		若い		6少		頼り無い		5危
	はやい		6少		苦い		4熱		熱い		4熱		血腥い		4熱
26	やばい	15	5危		まずい		4熱	厚い		6少		手厳しい		5危	
27	つらい	14	3寂		蒸し暑い		4熱	危うい		5危		忍耐強い		5危	
28	格好良い	12	5危		緩い		6少	102	痛ましい		3寂		根強い		6少
	狭い		6少		弱い		6少		嘘臭い		5危		幅広い		6少
	遠い		6少		-にくい		6少		美しい		5危		分厚い		6少
31	-ぼい	11	6少		明るい		6少	羨ましい		1憎		へぼい		5危	
32	嬉しい	10	2嬉		重たい		4熱	エロい	1	15危		欲しい		1憎	
33	疑わしい	9	5危	69	詳しい		6少		奥深い		6少		醜い		5危
	凄い		5危		しつこい		5危		覚束無い		5危		女々しい		5危
	深い	6少	酸っぱい		3	4熱	賢い			5危	めんどい			3寂	
36	怪しい	8	5危		冷たい		4熱	堅苦しい		5危		易しい		6少	
	激しい		6少	手強い		5危	悲しい		2嬉	柔い		4熱			
	-やすい	6少			眠い		2嬉	我慢強い		5危		-づらい		6少	
39	暑い	7	4熱		古臭い		5危	キモい		5危					

「かなり」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が広く用いられていて、その他に、⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類の語が見ら

れる。上位に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類の二類が主に現れている点で「非常に」と共通している。このように、「かなり」は①～⑦の七つの形容詞全てと共起している。

(6-56) ～ (6-62) は「かなり」が①～⑦類の七つの形容詞と共起する例である。

(6-56) 肌はかなり白く、不健康にも見えるくらいです。(Yahoo!知恵袋) 【⑦類】

(6-57) ポジティブな口コミは、エアコンについて、「そのブランドはかなり信頼性が高く、取付けも簡単で、耐久性も高く、維持コストやエネルギーコストも低い」というものであり、(略) (上田隆穂, 守口剛『価格・プロモーション戦略』) 【⑥類】

(6-58) ヨーロッパ在住です。(略) 毎日、日本食というのはかなり難しいと思いますがある程度工夫して現地の物で日本食もどきを作るとかしないと金銭的にも厳しいと思います。(Yahoo!知恵袋) 【⑤類】

(6-59) さすがに夏で、かなり暑いです。(四茂野修『「帝国」に立ち向かう』) 【④類】

(6-60) これの何倍以上のものがいつか必ず発生すると思うと、かなり怖い……。 (Yahoo!ブログ) 【③類】

(6-61) 採ったときに「変だぞ！ 見たことない虫だ」と思い、それを調べて「これかー！」と思う瞬間も、かなりうれしい。(河合雅雄『ふしぎの博物誌』) 【②類】

(6-62) 私も、最近レゲエが好きになったんですが、行ける事がかなり羨ましいです……。 (Yahoo!知恵袋) 【①類】

以上、「かなり」は、①～⑦類の七つの形容詞が全て用いられている。
このように、「かなり」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が
表せる。

6.4.6 「やや」

「やや」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-12のよう
になる。共起する形容詞の延べ語数は386語、異なり語数は72語である。

「やや」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類と
⑤「危ない」類が広く用いられていて、その他に、⑦「赤い」類、④「熱
い」類、③「寂しい」類が見られる。上位に⑥「少ない」類が現れている。
一方、②「嬉しい」類と①「憎い」類は現れていない。このように、「や
や」は③～⑦類の形容詞と共起している。

表6-12 「やや」と共起する形容詞
(延べ語数：386語、異なり語数：72語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	高い	41	6少		緩い	6少			甲高い	6少			濃い	6少	
2	低い	35	6少		悪い	6少			厳しい	6少			心許無い	3寂	
3	少ない	23	6少	21	はやい	6少	5		怖い	3寂			細かい	6少	
	小さい		6少		細い	6少			古い	6少			鋭い	6少	
5	大きい	22	6少	23	きつい	6少	4		若い	6少			俗語臭い	5危	
6	弱い	20	6少		苦しい	3寂			赤い	7赤			素っ気ない	5危	
7	多い	18	6少		狭い	6少			明るい	6少			冷たい	4熱	
8	強い	12	6少		乏しい	6少			新しい	6少			無い	7赤	
9	かたい	11	6少		長い	6少			厚い	6少			情けない	5危	
	難しい		5危		太い	6少			怪しい	5危			温い	4熱	
11	近い	10	6少	29	あらい	6少	42		美しい	5危			激しい	6少	
12	薄い	9	6少		幼い	6少			エロい	15危			深い	6少	
	重い		6少		軽い	6少			重苦しい	5危			古めかしい	5危	
14	遅い	8	6少		鈍い	6少			黴臭い	4熱			細長い	6少	
15	遠い	7	6少		広い	6少			可愛らしい	5危			面倒臭い	3寂	
16	甘い	6	4熱		35	良い			6少					気難しい	
	煩い		5危	浅い		6少	仰々しい	5危	安い		6少				
	短い		6少	淡い		6少	暗い	6少	弱弱しい		5危				

(6-63) ～ (6-67) は「やや」が③～⑦類の形容詞と共起する例である。

(6-63) 長い入院（脳梗塞、大腿骨頸部骨折で歩行困難、リハビリが長期に必要）で日焼けはすでに褪めていた。色白で頬がやや赤く、肥えて丸く、笑えば口元がペコちゃんの口に似て、まるで恵比寿様のようにであった。（伊保庄健『老いてこそ、始める』）【⑦類】

(6-64) 庶民といっても大工や左官は、手に技術があるのでやや且当が高い。（稲垣史生『図説大江戸おもしろ事典』）【⑥類】

(6-65) E u s t e r a l i s s p. ●オランダ・プラントに似た姿から名付けられた育成はやや難しいが、二酸化炭素の添加を行えばよく育つタイプだ。（熱帯魚・水草スーパーカタログ編集部『熱帯魚・水草スーパーカタログ』）【⑤類】

(6-66) 口にすると、はじめはやや甘いと感ずますが、それだけではなくて、酸がたっぷり、ある瞬間は酸っぱいと感じるくらい。（Yahoo!ブログ）【④類】

(6-67) 暮らし向きについて、「ゆとりがある」（5%）と「多少ゆとりがある」（四十四%）を合わせた「ゆとりがある」人は四十九%で、「苦しい」（十%）と「やや苦しい」（三十九%）を合わせた「苦しい」人の四十九%と並んだ。（『NHK 放送研究と調査』）【③類】

一方、②「嬉しい」類と①「憎い」類の語は見られない。しかし、これらの形容詞が「やや」と共起する例は(6-68)～(6-71)のように考えられる。(6-68) (6-69)は②類の「嬉しい」「恥ずかしい」が「やや」と

共起する例であり、(6-70) (6-71) は①類の「羨ましい」「恨めしい」が「やや」と共起する例であるが、どちらも自然である。

(6-68) プレゼントがやや嬉しい。【②類】

(6-69) 成績がやや恥ずかしい。【②類】

(6-70) 彼女がやや羨ましい。【①類】

(6-71) 彼女がやや恨めしい。【①類】

インターネットからも(6-72)と(6-73)のように②類の「嬉しい」と①類の「羨ましい」が「やや」と共起する例が見られる。これらはアンケートの回答みたいな場面や選択的な場面で使われやすいという特徴がある。

(6-72) 元カレ、元カノが結婚したと聞いたとき（もしくは聞いたら）の本音を教えてください。

特に何も思わない.....43.9%

やや悔しい.....14.7%

悔しい.....11.9%

やや嬉しい.....11.7%

嬉しい.....7.5%

<https://gakumado.mynavi.jp/freshers/articles/11651>

(2022年9月6日検索) 【②類】

(6-73) 私はえぐいほどの直毛ですが天パの子をみるとくるくるしててかわいいなと思いき羨ましくなります。皆さんはどうですか?? (略) やや羨ましい (直毛) 直毛+硬太多すぎて結ぶと固いホウキみたいになるため。

<https://coromoo.com/question/109647>

(2022年9月6日検索) 【①類】

以上、「やや」は、③～⑦類の形容詞が用いられていて、①②類の形容詞はBCCWJには現れていない。しかし、インターネットの例からは①②類の語と共起する例があり、「やや」は①～⑦類の形容詞全てと共起すると考える。このように、「やや」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が表せる。

6.4.7 「相当」

「相当」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-13のようになる。共起する形容詞の延べ語数は142語、異なり語数は52語である。

表6-13 「相当」と共起する形容詞
(延べ語数：142語、異なり語数：52語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	高い	17	6少	14	無い	3	7赤		青い	7	7赤		寒い	4	4熱
2	多い	11	6少		長い		6少		危ない		5危		少ない		6少
	難しい		5危		厚い	6少	怪しい		5危	涼しい	4熱				
4	大きい	8	6少			上手い	6少		疑わしい	5危	素早い		6少		
5	厳しい	6	6少		おかしい	5危	美味しい	4熱	正しい	7赤					
6	痛い	5	3寂	16	きつい	6少	27	美味しい	4熱	1	6少		手強い	6少	
	低い		6少		苦しい	3寂			遅い				6少	遠い	6少
	悪い		6少		凄い	2			5危				恐ろしい	3寂	深い
9	重い	4	6少		小さい	6少		2	面白い	5危	不味い		4熱		
	強い		6少	つらい	3寂	かたい	6少		眩しい	4熱					
	酷い		5危	でかい	6少	からい	4熱		安い	6少					
	広い		6少	激しい	6少	黒い	7赤		やばい	5危					
	古い		6少	良い	6少	細かい	6少		一ぱい	6少					

「相当」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が多く用いられていて、その他に、⑦「赤い」類、④「熱い」類、③「寂しい」類との共起が見られる。上位に⑥「少ない」類と⑤

「危ない」類の二類が現れている点で「非常に」「かなり」「やや」と共通している。一方、①「憎い」類は現れていない。

(6-74) ～ (6-79) は「相当」が③～⑦類の形容詞と共起する例である。

(6-74) 監督がモニターの前でぜいぜいしている横で、青い顔をした私は「これで終わりだよな」と祈るように彼の終結宣言を待った。彼の顔だって相当青い。(香川照之『中国魅録』)

【⑦類】

(6-75) 同じ博士号を取るにも一流の国立大学と3流の私立大学では取りやすさに難易度はあるのでしょうか？(略)東大などの場合は、当然のことながら東大教授や東大の大学院教育にかかわっている研究機関の教授が選任されますので、その難易度は相当高いです。(Yahoo!知恵袋) 【⑥類】

(6-76) 「タイブレーク」からの戦い方は相当難しいですね。(Yahoo!ブログ) 【⑤類】

(6-77) 真冬なので帰りに相当寒いわ、ビール臭いわで、結局風邪引いて・・・楽しいけど、2度と参加したくない感じです。(Yahoo!知恵袋) 【④類】

(6-78) (略) 出産された方は怖くなかったですか？今3ヶ月なんですけど相当恐ろしいです。(Yahoo!知恵袋) 【③類】

(6-79) なにか、重い物を持ったりした覚えが無いのですが、なんでなのでしょう？相当痛いです…(Yahoo!知恵袋) 【③類】

一方、①「憎い」類との共起は現れていない。しかし、①類の「憎い」「恨めしい」は(6-80)と(6-81)のように「相当」との共起が成り立ち、「相当」は①類の語と共起すると思われる。

(6-80) 元カレが相当憎い。【①類】

(6-81) 元カレが相当恨めしい。【①類】

インターネットからも(6-82)と(6-83)のように①類の「憎い」「恨めしい」が「相当」と共起する例が見られる。

(6-82) せっかく計画立てたのに、気分屋やから「明日の自分」に任せたりするし。そんなわけで今日の私はテンヤワンヤですわ。「昨日の自分」が相当憎い。

<https://dz-travel.net/shanghai-japanesefood-takeo-3/>

(2022年9月6日検索) 【①類】

(6-83) あーおれもライブいきてー 受験なのが相当恨めしいよ

<https://music2.5ch.net/test/read.cgi/musicj/1058276263/>

(2022年9月6日検索) 【①類】

以上、「相当」は、③～⑦類の形容詞が用いられていて、①類の形容詞は現れていない。しかし、インターネットの例からは①類の語と共起する例がある。このように、「相当」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞の程度が表せる。

6.4.8 「大変」

「大変」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-14のようになる。共起する形容詞の延べ語数は387語、異なり語数は87語である。

表6-14 「大変」と共起する形容詞
(延べ語数：387語、異なり語数：87語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類									
1	難しい	32	5危	27	はやい	6	6少	45	悪い	5	5危	1	しんどい	3	3寂									
2	良い	28	6少		古い	6	6少		新しい	6	6少		凄い	5	5危									
3	多い	27	6少		短い	6	6少		疑わしい	5	5危		鋭い	6	6少									
4	嬉しい	2	2嬉		珍しい	6	6少		疎い	6	6少		近い	6	6少									
	美味しい	16	4熱		小さい	4	46少		美味しい	4	4熱		慎み深い	5	5危									
	興味深い	5	5危		甘い	4	4熱		上手い	6	6少		遠い	6	6少									
7	申し訳無い	15	2嬉		痛い	3	3寂		おかしい	5	5危		懐かしい	1	1憎									
8	ーやすい	14	6少		重い	6	6少		遅い	6	6少		苦い	4	4熱									
9	高い	12	6少		詳しい	6	6少		覚束無い	5	5危		眠い	2	2嬉									
10	面白い	5	5危		28	長い	3		6少	45	賢い		5	5危	1	2嬉	5	5危						
	厳しい	11	6少	激しい				6				6少							かたい	6	6少	飲み良い	6	6少
	強い	6	6少	広い				6				6少							悲しい	1	2嬉	人懐っこい	5	5危
13	大きい	10	6少	ーづらい	6	6少	痒い	2	2嬉	深い	6	6少												
14	有り難い	9	3寂	暑い	4	4熱	可愛い	5	5危	可憐い	5	5危												
15	忙しい	3	3寂	36	恐ろしい	3	3寂	45	感銘深い	5	5危	1	2嬉	5	5危									
	少ない	6	6少													汚い	6	6少	気持ち良い	3	3寂	貧しい	6	6少
	低い	7	6少													気持ち悪い	3	3寂	好物らしい	6	6少	めでたい	5	5危
	ーにくい	6	6少													怖い	2	3寂	心細い	3	3寂	面倒臭い	3	3寂
19	美しい	5	5危	44	楽しい	3	3寂	45	好ましい	5	5危	1	2嬉	5	5危									
	素晴らしい	6	5危													つらい	3	3寂	細かい	6	6少	脆い	6	6少
	悪い	6	6少													不味い	4	4熱	寂しい	3	3寂	喧しい	5	5危
22	狭い	5	6少	愛らしい	1	5危	しつこい	5	5危	宜しい	6	6少												

「大変」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類と⑤「危ない」類が広く用いられていて、その他に④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類、①「憎い」類の語が見られる。上位に⑥「少ない」類と⑤「危ない」類以外にも、④「熱い」類、③「寂しい」類、②「嬉しい」類が現れている点で「とても」「ちょっと」「少し」と共通しているが、⑦「赤い」類の語は見られないという点で区別される。このように、「大変」は①～⑥類の形容詞と共起している。

(6-84) ～ (6-89) は「大変」が①～⑥類の六つの形容詞と共起する例である。

(6-84) ワタリガラスは大変頭がよくて、食物に不自由しないように、たえず自分のエサがとれる場所を知っている。(環栄賢『熊野学事始め』) 【⑥類】

- (6-85) 今年（千九百九十八年）のように雨の多い年には、ブドウは露地では栽培がたいへん難しいです。（JAグループ環境推進協議会『食糧と地球環境』）【⑤類】
- (6-86) 野菜は、油菜心、葱、唐がらしの水漬け、大蒜、生姜などで、片栗粉のとろみがつき、たいへんおいしいです」（清岡卓行『李杜の国で』）【④類】
- (6-87) （略）大変深いホームに昇降するエスカレーターは赤錆びて何時切れても不思議ではないと思われる程老朽化していた。轟々と高い音を立てて昇ったり降ったりしていて大変恐ろしい。（福山清隆『ヨーロッパ絵で見る歴史散歩』）【③類】
- (6-88) 旅館に泊まって、朝ごはん温泉卵が出てくると大変嬉しい。（鳩山エミリ『食べるのが大好き』）【②類】
- (6-89) 桂子はそこで静代と数十年ぶりに再会をしたのである。（略）桂子は大変なつかしく、お互いに年をとっていたが、静代には若い頃のおもかげが残っていた。（芹川芳江『雪柳』）【①類】

一方、⑦「赤い」類の語は現れていない。（6-90）（6-91）は⑦類の「赤い」「丸い」が「大変」と共起する例であるが、どちらも不自然になり⑦「赤い」類は「大変」と共起しにくいと思われる。

(6-90) ??お花が大変赤い。

(6-91) ??テーブルが大変丸い。

以上、「大変」は、①～⑥類の形容詞は用いられているが、⑦類は現れていない。このように、「大変」は属性、評価、感覚、感情を表す形容詞

の程度が表せるが、「赤い」「丸い」など属性度の高い形容詞の程度は表しにくい。

6.4.9 「なかなか」

「なかなか」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-15のようになる。共起する形容詞の延べ語数は785語、異なり語数は82語である。

表6-15 「なかなか」と共起する形容詞
(延べ語数：785語、異なり語数：82語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類
1	難しい	303	5危	22	かたい	6少	3	44	喧しい	5危	1	しつこい	5危		
2	良い	158	6少		きつい	6少			愛情深い	5危		邪魔臭い	5危		
3	面白い	68	5危		気持ち良い	3寂			あざとい	5危		しんどい	3寂		
4	美味しい	27	4熱		詳しい	6少			厚い	6少		素晴らしい	5危		
5	厳しい	18	6少		細かい	6少			初初しい	5危		素早い	6少		
6	格好良い	15	5危		はやい	6少			美しい	5危		狡い	5危		
7	上手い	13	6少		おもしろい	5危			旨い	4熱		つらい	3寂		
8	楽しい	10	3寂		賢い	5危			煩い	5危		悩ましい	5危		
	手強い		5危		可愛らしい	5危			大きい	6少		低い	6少		
10	興味深い	9	5危		険しい	6少			奥深い	6少		酷い	5危		
11	美味しい	8	4熱		濃い	6少			惜しい	1憎		広い	6少		
	可愛い		5危		渋い	4熱			覚束無い	5危		紛らわしい	5危		
	深い		6少		しぶとい	6少			重い	6少		面倒臭い	3寂		
	-やすい		6少		狡賢い	2			5危	気難しい		5危	安い		
15	鋭い	7	6少		強い	6少			口煩い	5危		ややこしい	5危		
16	少ない	5	6少		でかい	6少			苦しい	3寂		弱い	6少		
	高い		6少		手厳しい	6少			心地良い	3寂		凛々しい	5危		
18	忙しい	4	5危		遠い	6少			心強い	5危		若い	6少		
	多い		6少		長い	6少			小難しい	5危		-らしい	6少		
	凄い		5危		古い	6少			怖い	3寂					
	宜しい		6少		短い	6少			寒い	4熱					

「なかなか」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑤「危ない」類と⑥「少ない」類が広く用いられていて、その他に④「熱い」類、③「寂しい」類、①「憎い」類が見られる。⑤「危ない」類が上位を占めて

いる点で他の副詞と区別される。一方、⑦「赤い」類と②「嬉しい」類は現れていない。このように、「なかなか」は①類と③～⑥類の形容詞と共起している。

(6-92)～(6-96)は「なかなか」が①類、③～⑥類の形容詞と共起する例である。

(6-92) 雑誌等にも取り上げられていた洗剤だったので買って見ましたが、なかなかいいです。(Yahoo!知恵袋)【⑥類】

(6-93) 作物の作付けというのは、かなり経験を積んだ農家でもなかなかむずかしい。(牧野昇、高橋乗宣『第三の経済危機』)
【⑤類】

(6-94) チョコレートがほろ苦くてコクがあってなめらかで、なかなか美味しい。(Yahoo!ブログ)【④類】

(6-95) デンマークから更に南下して電車に乗ったまま電車ごとフェリーに乗ってドイツまで行くのもなかなか楽しいですよ。
(Yahoo!知恵袋)【③類】

(6-96) 悪い事をする間は他人の難儀も気かけず、又、金も惜しくなき心に候えども、自分で賃仕事を致し金を儲け候て見れば、なかなか一文の金も惜しく、これを取られし人の難儀を思い、今更のように気の毒に存じ候。(神坂次郎『勝者こそわが主君』)【①類】

一方、「なかなか」は⑦「赤い」類と②「嬉しい」類が現れていないが、⑦「赤い」類の場合は、(6-97) (6-98)のように⑦類の「赤い」「丸い」と共起する例が考えられる。

(6-97) リンゴの実がなかなか赤い。【⑦類】

(6-98) お月様がなかなか丸い。【⑦類】

インターネットからも(6-99)と(6-100)のように⑦類の「赤い」と「丸い」が「なかなか」と共起する例が見られる。

(6-99) 無難に【大辛】を選びました！色はなかなか赤いのでとても辛そうに見えますが、辛ウマなレベルでとてもおいしいです！！

<https://sotetsu-hotels.com/fresa-inn/kawasaki/blog/1004/>

(2022年9月6日検索) 【⑦類】

(6-100) フランスのフリースタイルフットボール専用ボールSPEEN BALLの紹介です かなり食いつくので、クラッチ精度悪いけど成功させたいって人にはおすすりバウンス、タップもよく跳ねてやりやすいです なかなか丸いのでアッパーもやりやすいです

<https://www.youtube.com/watch?v=dtF2GUn8BHY>

(2022年9月6日検索) 【⑦類】

一方、②「嬉しい」類の場合は、調査の結果通りに「なかなか」と共起しにくく、(6-101) (6-102)のように②類の「嬉しい」「悲しい」と共起する例は考えにくい。

(6-101) *私はなかなか嬉しい。【②類】

(6-102) *私はなかなか悲しい。【②類】

また、①「憎い」類の場合、(6-96)のように①類の「惜しい」の例が1例あったが、別の①類の「憎い」「羨ましい」が「なかなか」と共起する例を考えると(6-103)(6-104)のように成り立ちにくい。①「憎い」類も「なかなか」と共起しにくいと思われる。

(6-103) *私は彼がなかなか憎い。【①類】

(6-104) *私は彼がなかなか羨ましい。【①類】

以上、「なかなか」は、③～⑥類の形容詞が用いられていて、⑦類の形容詞は現れていない。しかし、インターネットの例からはある。一方、①②類の形容詞は「なかなか」と共起しにくいと思われる。このように、「なかなか」は属性、評価、感覚を表す形容詞の程度が表せるが、「憎い」「嬉しい」のように感情度の高い形容詞の程度は表しにくい。その理由については6.5節で説明する。

6.4.10 「ずいぶん」

「ずいぶん」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-16のようになる。共起する形容詞の延べ語数は152語、異なり語数は60語である。

「ずいぶん」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類が広く用いられている。その他に、⑦「赤い」類、⑤「危ない」類、④「熱い」類、③「寂しい」類が見られる。上位には⑥「少ない」類が現れている。②「嬉しい」類と①「憎い」類は現れていない点で「なかなか」と共通している。このように、「ずいぶん」は③～⑦類の形容詞と共起している。

表6-16 「ずいぶん」と共起する形容詞
(延べ語数：152語、異なり語数：60語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類	
1	多い	16	6少	16	明るい	6	6少	2	薄い	6	6少	16	ちっちゃい	6	6少	
2	良い	11	6少		忙しい	5	5危		美味しい	4	4熱		手厳しい	5	5危	
3	広い	10	6少		おかしい	5	5危		偉い	6	6少		粘っこい	6	6少	
4	長い	8	6少		遅い	6	6少		面白い	5	5危		久しい	6	6少	
5	大きい	7	6少		暗い	2	6少		嵩高い	6	6少		深い	6	6少	
6	高い	7	6少		寒い	4	4熱		からい	4	4熱		古臭い	6	6少	
7	はやい	7	6少		柔らかい	4	4熱		可愛らしい	5	5危		細い	6	6少	
8	若い	6	6少		弱い	6	6少		苦しい	3	3寂		ぼろい	6	6少	
9	古い	5	6少		ーやすい	6	6少		黒い	7	7赤		短い	6	6少	
10	詳しい	4	6少		赤い	7	7赤		心地良い	3	3寂		難しい	5	5危	
	遠い		6少		暖かい	4	4熱		白い	7	7赤		面倒臭い	3	3寂	
12	暑い	3	4熱		25	新しい	6		6少	涼しい	4		4熱	安い	6	6少
	小さい		6少			厚い	6		6少	狭い	6		6少	若々しい	5	5危
	強い		6少			甘い	4		4熱	遅しい	5		5危	ーにくい	6	6少
	悪い		6少			あらい	6		6少	頼りない	5		5危	ーぼい	6	6少

(6-105) ～ (6-109) は「ずいぶん」が③～⑦類の形容詞と共起する例である。

(6-105) ずいぶんとほっぺたが赤いよ、熱いの？ (池上正樹『「引きこもり」生還記』) 【⑦類】

(6-106) 手羽や皮身はずいぶんと脂が多くてそんなにヘルシーとは思えませんが、実際には牛肉や豚肉に比べればずっと体にいいそうです。(永富明郎『单身赴任の台所』) 【⑥類】

(6-107) あんたが来てからというもの、あいつの様子はずいぶんおかしい。(『ファンタジー王国』) 【⑤類】

(6-108) 「今日はずいぶん暑いね」(中嶋秀隆、ケン・ジョーカー『ピガサス101』) 【④類】

(6-109) こう云っちゃナンですが、劉備って奴はどうも魅力がないんだよねー。龐統ではなおのこと役者が小さいし、第一見苦しいんだもの。とって周瑜の亡霊ってのも、ずいぶん苦しいと思う。(中島梓『小説道場』) 【③類】

一方、「ずいぶん」は②「嬉しい」類と①「憎い」類の語が現れていない。(6-110)～(6-113)はそれぞれ②類の「嬉しい」「悲しい」と①類の「憎い」「羨ましい」が「ずいぶん」と共起する例であるが、どちらも成り立たない。

(6-110) *私はずいぶん嬉しい。【②類】

(6-111) *私はずいぶん悲しい。【②類】

(6-112) *私は彼がずいぶん憎い。【①類】

(6-113) *私は彼がずいぶん羨ましい。【①類】

以上、「ずいぶん」は、③～⑦類の形容詞が用いられていて、①類、②類の形容詞は現れていない。このように、「ずいぶん」は属性、評価、感覚を表す形容詞の程度が表せるが、「憎い」「嬉しい」のように感情度の高い形容詞の程度は表しにくい。その理由については6.5節で説明する。

6.4.11 「だいぶ」

「だいぶ」と共起する形容詞を出現数の高い順にまとめると表6-17のようになる。共起する形容詞の延べ語数は53語、異なり語数は30語である。

表6-17 「だいぶ」と共起する形容詞
(延べ語数：53語、異なり語数：30語)

	形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類		形容詞	数	類			
1	良い	9	6少	12	遠い		6少	1	薄暗い		6少	6	古い		6少			
2	少ない	4	6少		はやい		6少		多い		6少		見すばらしい		6少			
3	寒い		4熱		悪い		6少		軽い		6少		やばい		5危			
	長い	3	6少		赤い		7赤		悔しい		3寂		宜しい		6少			
	安い		6少		明るい		6少		小さい		6少		若い		6少			
6	大きい		6少		危ない		15危		肉肉しい		6少		ーやすい		6少			
	高い	2	6少		痛い		3寂		酷い		5危							
	近い		6少		薄い		6少		広い		6少							

「だいぶ」と共起する形容詞の類型を全体的に見ると、⑥「少ない」類が広く用いられていて、その他に、⑦「赤い」類、⑤「危ない」類、④「熱い」類、③「寂しい」類との共起が見られる。一方、①「憎い」類と②「嬉しい」類は現れていない。「だいぶ」は、上位に⑥「少ない」類が現れている点や①「憎い」類、②「嬉しい」類が現れていない点で「ずいぶん」と共通している。このように、「だいぶ」は③～⑦類の形容詞と共起している。

(6-114) ～ (6-118) は「だいぶ」が③～⑦類の形容詞と共起する例である。

(6-114) 「いや、ではわたしが先に行って知らせるとしよう。そなたはもう一杯冷たい水でもかぶって血を下げてからゆっくり降りてくるとよい。—まだだいぶ赤いぞ」(丘野ゆうじ『破界戦士』) 【⑦類】

(6-115) くわえて、東京生活が大分長いのに、静子は薩摩訛りが抜けず、それがいっそう外に出るのを億劫にさせた。(渡辺淳一『静寂[しじま]の声』) 【⑥類】

(6-116) しばらく パソコンから遠ざかっていたらなんと アップの仕方 忘れてた しかも トラバ忘れてる わたし だいぶあぶないわ (Yahoo!ブログ) 【⑤類】

(6-117) 青森ではもう長袖だし、夜は外はだいぶ寒いです。(Yahoo!知恵袋) 【④類】

(6-118) 一段高くなった観覧席が元に戻されたという情報がはいってきました！これから現場検分に行ってきたと思います

今日 その昨日まで高かった席が当たたら・・・だいぶ
悔しいなあ～笑 (Yahoo!ブログ) 【③類】

一方、「だいぶ」は②「嬉しい」類と①「憎い」類の語が現れていない。
(6-119) ～ (6-122) はそれぞれ②類の「嬉しい」「悲しい」と①類の
「憎い」「羨ましい」と共起する例であるが、どちらも成り立ちにくい。

(6-119) ? 私はだいぶ嬉しい。【②類】

(6-120) ? 私はだいぶ悲しい。【②類】

(6-121) ? 私は彼がだいぶ憎い。【①類】

(6-122) ? 私は彼がだいぶ羨ましい。【①類】

以上、「だいぶ」は、③～⑦類の形容詞が用いられていて、①類、②類の形容詞は現れていない。このように、「だいぶ」は属性、評価、感覚を表す形容詞の程度が表せるが、「憎い」「嬉しい」のように感情度の高い形容詞の程度は表しにくい。その理由については6.5節で説明する。

以上のように、6.4.1節～6.4.11節では、程度副詞11語のそれぞれにおいて共起する形容詞の特徴を見たが、それをまとめると表6-18のようになる。

表6-18 程度副詞11語と共起する形容詞の特徴のまとめ（表6-1の再掲）

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
非常に～い	○	○	○	○	○	○	○
とても～い	○	○	○	○	○	○	○
かなり～い	○	○	○	○	○	○	○
ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○
少し～い	○	○	○	○	○	○	○
やや～い	○	○	○	○	○	○	○
相当～い	○	○	○	○	○	○	○
大変～い	○	○	○	○	○	○	×
なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×
ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○
だいぶ～い	×	×	○	○	○	○	○

程度副詞11語のうち、「非常に」「とても」「かなり」「ちょっと」「少し」「やや」「相当」は①～⑦類の形容詞七つ全てと共起するが、「大変」「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は形容詞との共起に制限があることが分かる。特に「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は感情を表す形容詞①類、②類と共起しないという点で共通している。

次の6.5節では、「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」に注目し、これらの程度副詞がなぜ感情を表す形容詞と共起しないかについて、疏（2018）を参考にしながら考察する。

6.5 「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」における比較と共起する形容詞

本節では、疏（2018）の程度副詞の比較内容（比較基準と比較差）を参考にしながら、「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」はなぜ感情を表す形容詞の言い切りの現在形と共起しにくいのかについて述べる。

まず、疏（2018）における程度副詞11語の比較基準の特徴をまとめると表6-19のようになる。

表6-19 本章の程度副詞11語と比較基準

疏（2018）の程度副詞の分類	本章の対象（11語）	潜在的な比較の「比較基準」	「比較差」の基準
「とても」類	とても、非常に、大変、 なかなか	「平均基準」 「感覚基準」	「通常程度」
「かなり」類	かなり、相当、ずいぶん、 だいぶ		
「少し」類	少し、ちょっと、やや		

「とても」類、「かなり」類、「少し」類は「比較基準」と「比較差」の基準が同じように適用されるが、「とても」類の「なかなか」と「かなり」類の「ずいぶん」「だいぶ」は他の副詞と違って、感情度の高い形容詞と共起しにくい。

このことから、本章では「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は比較内容（比較基準と比較差）において他の副詞と違いがあると考えて、辞書の記述を参照しながらこれらの比較内容を考察した。

次は『デジタル大辞泉』の「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」の記述の一部である。記述の中の下線と太字は筆者（権）による。

「なかなか」：「なかなか（中中）」のうち副詞の見出し

- ① a. 予想した以上に。意外に。かなり。

(例) 「中中難しい問題だ」「敵も中中やるね」「中中の腕前」

「ずいぶん」：「ずいぶん(随分)」のうち副詞の見出し

- ① a. いちじるしいさま。多く、予想外だとか不本意だとかいう気持ちをこめて用いる。非常に。だいぶ。かなり。

(例) 「年の割には随分(と)老ふけて見える」「随分(と)大げさなことをいう人だ」

「だいぶ」：「だいぶ[大分]」のうち副詞の見出し

- ① 思ったよりも数が多かったり、程度がはなはだしかったりするさま。相当。ずいぶん。だいぶん。

(例) 「本を大分買った」「今日は大分寒い」

以上、「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は、「予想した以上に」「予想外だ」「思ったよりも」のように話し手が予想した程度以上であることを表す点で共通している。²⁶そこで、本章では「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は、比較差の程度が「話し手の期待した程度」より大きいことを表すということを主張する。

例えば、感覚基準が用いられる「ずいぶん」について見る。(6-123)は「ずいぶん」が感覚を表す「甘い」と共起する例である。

(6-123) 私はこの水がずいぶん甘い。

²⁶ 浅野(1984)は「ずいぶん・だいぶ・なかなか・相当・かなり」を<100パーセントではないが、標準程度を超えている程度>を表す程度副詞の一群として扱い、そのうち「ずいぶん」と「なかなか」を主観性の濃い副詞としている。「ずいぶん」は「話者の予想」という主観的な基準を超えたことに対する驚きを表し、「なかなか」は「大体この程度であろう、この程度なら肯定できる」との個人的な予想を上回ることを表すと述べている。

(6-123) は「この水」の甘さ（比較対象）が甘さの最小識別量（砂糖の濃度0.34%）以上であるため甘さが感知されることを表している。また、「この水」の甘さは話し手が予想した甘さの程度より大きいことを表している。例えば、砂糖の濃度が30%の場合、話し手が期待した砂糖の濃度が20%であれば、砂糖の濃度は話し手の期待した程度を上回ることになる。このことを図式化すると図6-5のようになる。

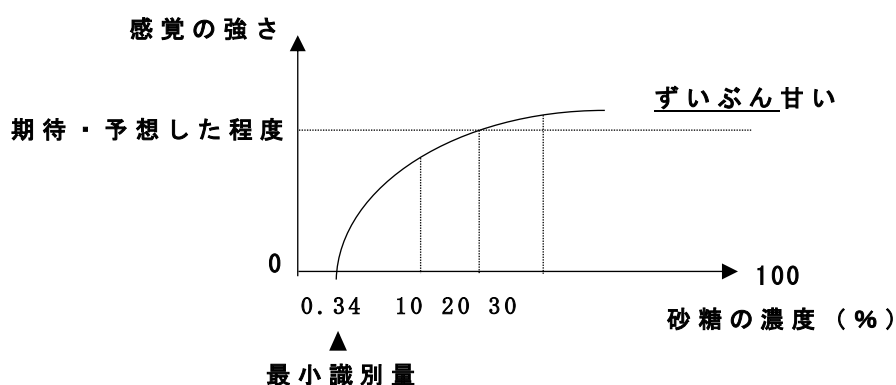


図6-5 感覚基準の文における「ずいぶん」

一方、(6-124) は「ずいぶん」が感情を表す「嬉しい」と共起する例であるが成り立たない。

(6-124) * 私はずいぶん嬉しい。

(6-124) は「私」の嬉しさ（比較対象）が嬉しさの最小識別量以上であるため嬉しさが感知されることを表している。さらに、「私」の嬉しさと嬉しさの最小識別量の差（比較差）は「私」が期待した嬉しさの程度（ex. 満面に笑顔になるほどの嬉しさ）より大きいことを表すことになるが、その瞬間に感じた感情を表出する際、その感情の程度を予想すること

は通常考えにくいいため「ずいぶん」と感情を表す形容詞は共起しにくいと思われる。

「話し手の期待した程度」が程度を判断する基準になるのは、「ずいぶん」のみでなく「なかなか」「だいぶ」にも同様に適用されると思われる。このように、本章では「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は「話し手の期待した程度」が程度を判断する基準になることを主張する。これに基づき、これらの程度副詞が感情を表す形容詞と共起しにくいのは、感情を表出する際その感情の程度への期待値を想定することが考えにくいためであると考える。

6.6 本章のまとめ

第6章では11語の程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいぶ」「ちょっと」「少し」「やや」について、BCCWJでそれぞれと共起する言い切りの現在形の形容詞を調査した。

その結果、表6-20のように程度副詞11語と共起する形容詞の範囲に違いが見られるが、それに基づき形容詞は太い線のように①②類、③類、④⑤⑥類、⑦類の四つの段階に分けることができた。

表6-20 程度副詞11語と形容詞の七分類の共起関係（表6-1の再掲）

	感情を表す			感覚を 表す	評価を 表す	属性を表す	
	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類
非常に～い	○	○	○	○	○	○	○
とても～い	○	○	○	○	○	○	○
かなり～い	○	○	○	○	○	○	○
ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○
少し～い	○	○	○	○	○	○	○
やや～い	○	○	○	○	○	○	○
相当～い	○	○	○	○	○	○	○
大変～い	○	○	○	○	○	○	×
なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×
ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○
だいぶ～い	×	×	○	○	○	○	○

第7章 終わりに

7.1 形容詞の分類

最後にこれまでの考察をまとめ、今後の課題について論じる。本研究では第3章～第6章で形容詞の分類に用いる構文の特徴を考察して、形容詞を七つの類型に分類した。指標と形容詞の七分類をまとめると表7-1のようになる。

表7-1 本研究の形容詞分類の指標と形容詞の七分類

		感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す			
		① 「憎 い」類	② 「嬉し い」類	③ 「寂し い」類	④ 「熱 い」類	⑤ 「危な い」類	⑥ 「少な い」類	⑦ 「赤 い」類		
3章	～てならない	○	○	○	×	×	×	×		
	～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×		
	～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×		
4章	く クスル	有情物	×	×	○	○	○	○	○	
		有情物 の部分	心	×	△	○	○	○	○	○
			カラダ	×	×	△	○	○	○	○
		非情物	コト	×	×	○	○	○	○	○
	モノ		×	×	×	○	○	○	○	
	く クサセル	有情物	×	○	○	○	○	○	×	
		有情物 の部分	心	×	○	○	○	○	○	×
			カラダ	×	×	×	○	○	○	○
非情物		コト	×	×	○	○	○	○	○	
	モノ	×	×	×	○	△	△	×		
5章	人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	×	×	△	△	○	○	○		
	モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	×	△	○	○	○	○	○		
	コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	×	○	○	○	○	○	○		
6章	非常に～い	○	○	○	○	○	○	○		
	とても～い	○	○	○	○	○	○	○		
	かなり～い	○	○	○	○	○	○	○		
	ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○		
	少し～い	○	○	○	○	○	○	○		
	やや～い	○	○	○	○	○	○	○		
	相当～い	○	○	○	○	○	○	○		
	大変～い	○	○	○	○	○	○	×		
	なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×		
	ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○		
だいたい～い	×	×	○	○	○	○	○			

7.2 形容詞分類の四つの指標

本研究では、形容詞の意味（属性・感情）の違いは構文的な振る舞いの違いと関わるという考えに基づき、第3章～第6章の構文を形容詞分類の指標として用いて形容詞の分類を行った。以下、各構文から考えられる形容詞の意味の特徴を論じる。

7.2.1 「～てならない／たまらない／しかたがない」と自発性（3章）

これらは「寂しくて {ならない／たまらない／しかたがない}」「赤くて {*ならない/*たまらない/*しかたがない}」のように、自発的に生じる感情・感覚を表す語と共起するものである。これに基づくと、「～てならない／たまらない／しかたがない」と共起する形容詞は自発性を持つ。

7.2.2 他動詞構文「XガYヲ～クスル」・使役構文「XガYヲ～クサセル」とコントロール性（4章）

他動詞構文「XガYヲ～クスル」（ex. 花子がスカートを短くする）はXがYの状態（属性・感情）を直接的にコントロールすることを表し、「XガYヲ～クサセル」（ex. 花子が太郎を悲しくさせる）はXがYの状態（属性・感情）を間接的にコントロールすることを表す。これに基づく、と、「XガYヲ～クスル」と共起する形容詞は直接的にコントロールできるが、「XガYヲ～クサセル」と共起する形容詞は間接的にコントロールできることになる。

7.2.3 比較構文「XガYヨリ～い」と比較（5章）

比較構文「XガYヨリ～い」は「花子が太郎より背が高い」「*花子が太郎より嬉しい」のようにXとYの状態の程度の上下を比べるものである。これに基づくと、「人₁ガ人₂ヨリ～い」「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」「コト₁ガコト₂ヨリ～い」と共起する形容詞は、人・モノ・コトの状態の程度の上下を比較できる。

7.2.4 程度副詞との共起と比較（6章）

「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」は「予想した以上に」「思ったよりも」「予想外だ」のように話し手の予想や期待値を想定する副詞である。これを踏まえて6章では、「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」はその程度を判断する基準が「話し手の期待した程度」であることを主張した。例えば、「なかなか大きい」は「大きさ」の程度が話し手の予想・期待した大きさの程度より強いことを表す。一方で、「*なかなか嬉しい」は「嬉しさ」の程度が話し手の予想・期待した嬉しさより強いことを表すことになる。しかし、感情を表出する際、その感情の程度への期待値を想定することは通常考えにくいいため、「*なかなか嬉しい」は不自然になると考える。

これに基づくと、「{なかなか／ずいぶん／だいぶ}～い」と共起する形容詞は話し手の期待値を想定できる。

7.3 本研究における形容詞の七分類

形容詞275語を四つの指標を合わせて分類すると表7-2のようになる。

	明るい、あくどい、浅い、新しい、厚い、荒い、著しい、薄い、上手い、偉い、多い、大きい、幼い、遅い、夥しい、重い、かたい、軽い、汚い、きつい、厳しい、清い、暗い、詳しい、険しい、濃い、細かい、親しい、しぶとい、少ない、素早い、鋭い、狭い、高い、容易い、小さい、近い、強い、でかい、尊い、遠い、乏しい、長い、名高い、鈍い、のろい、儂い、激しい、甚だしい、華々しい、はやい、低い、久しい、広い、深い、相応しい、太い、古い、細い、貧しい、短い、見すばらしい、目覚ましい、珍しい、物珍しい、脆い、易しい、安い、緩い、良い、弱い、若い、悪い (73語)																										
⑦ 「赤い」類	×	×	×	○	×	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○
	青い、赤い、黄色い、黒い、四角い、白い、正しい、等しい、平たい、丸い (10語)																										

以下、七つの形容詞類の特徴について述べる。

① 「憎い」類の特徴

「憎い」類の四つの指標における可否をまとめると表7-3のようになる。

表7-3 四つの指標の可否と「憎い」類

① 「憎い」類	3章			4章						5章			6章														
	〜てならない	〜てたまらない	〜てしかたがない	〜クスル			〜クサセル			人 ¹ ガ	モノ ¹ ガ	コト ¹ ガ	非常に	とても	大変	かなり	やや	少し	ちよつと	相当	なかな	ずいぶん	だいたい				
	心	カラ	コト	モノ	心	カラ	コト	モノ	人 ² ガ	モノ ² ガ	コト ² ガ	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い	〜い		
	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×

「憎い」類は、「〜てならない」「〜てたまらない」「〜てしかたがない」が全て可であることから自発性を持ち、他動詞構文「XガYヲ〜クスル」と使役構文「XガYヲ〜クサセル」のどちらも不可であることから直接的にも間接的にもコントロールしにくいことになる。

比較構文において「人₁ガ人₂ヨリ～い」「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」「コト₁ガコト₂ヨリ～い」は、どちらも不可であることから人・モノ・コトの状態として両方の程度が比較しにくい。また、程度副詞「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」と共起できないことから、程度差を判断する際期待値を想定できない。

②「嬉しい」類の特徴

「嬉しい」類の四つの指標における可否をまとめると表7-4のようになる。

表7-4 四つの指標の可否と「嬉しい」類

②「嬉しい」類	3章			4章						5章			6章												
	～てならない	～てたまらない	～てしかたがない	～クスル			～クサセル			人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	非常に～い	とても～い	大変～い	かなり～い	やや～い	少し～い	ちよつと～い	相当～い	なかなか～い	ずいぶん～い	だいぶ～い		
				有 情 物	の 部 分	有 情 物	有 情 物	の 部 分	非 情 物															有 情 物	の 部 分
	心	カラ	コト	モノ	心	カラ	コト	モノ																	
	○	○	○	×	△	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○

「嬉しい」類は、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」が全て可であることから自発性を持つ。また、他動詞構文「XガYヲ～クスル」は不可であるが、使役構文「XガYヲ～クサセル」は「Y」が「有情物」「心」の場合可であり、間接的にコントロールできる。

比較構文において「人₁ガ人₂ヨリ～い」「モノ₁ガモノ₂ヨリ～い」は不可であることから、人・モノの状態として両方の程度が比較しにくい。ま

た、程度副詞「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」と共起できないことから、程度差を判断する際期待値を想定できない。

③ 「寂しい」類の特徴

「寂しい」類の四つの指標における可否をまとめると表7-5のようになる。

表7-5 四つの指標の可否と「寂しい」類

③ 「寂しい」類	3章			4章						5章			6章											
	〜てならない	〜てたまらない	〜てしかたがない	〜クスル			〜クサセル			人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ〜い	モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ〜い	コト ₁ ガコト ₂ ヨリ〜い	非常に〜い	とても〜い	大変〜い	かなり〜い	やや〜い	少し〜い	ちよつと〜い	相当〜い	なかなか〜い	ずいぶん〜い	だいぶ〜い	
				有 情 物 の 部 分 心	有 情 物 カ ラ ダ	非 情 物 コ ト	有 情 物 の 部 分 心	有 情 物 カ ラ ダ	非 情 物 コ ト															
	○	○	○	○	○	△	○	×	○	○	×	○	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

「寂しい」類は、「〜てならない」「〜てたまらない」「〜てしかたがない」が全て可であることから自発性を持ち、他動詞構文「XガYヲ〜クスル」と使役構文「XガYヲ〜クサセル」が可である場合があることから直接・間接的にコントロールできる場合がある。

比較構文において「人₁ガ人₂ヨリ〜い」は不可であるが「モノ₁ガモノ₂ヨリ〜い」「コト₁ガコト₂ヨリ〜い」は可であることから、人の状態としては比較できないがモノ・コトの状態としては比較できる。また、程度副詞「なかなか」「だいぶ」と共起できることから、程度差を判断する際期待値を想定できる。

表7-8 四つの指標の可否と「少ない」類

⑥ 「少ない」類	3章			4章						5章			6章											
	〜てならない	〜てたまらない	〜てしかたがない	〜クスル			〜クサセル			人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ〜い	モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ〜い	コト ₁ ガコト ₂ ヨリ〜い	非常に〜い	とても〜い	大変〜い	かなり〜い	やや〜い	少し〜い	ちよつと〜い	相当〜い	なかなか〜い	ずいぶん〜い	だいたい〜い	
				有情物 の部分 心	有情物 カラ ラダ	非情物 コト モノ	有情物 の部分 心	有情物 カラ ラダ	非情物 コト モノ															
	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

「少ない」類は、「〜てならない」「〜てたまらない」が不可であるが「〜てしかたがない」は可の場合があることから、通常自発性を持たないが文脈によって感情を伴うことがあり自発性が感じられると考える。また、他動詞構文「XガYヲ〜クスル」と使役構文「XガYヲ〜クサセル」は可であることから直接・間接的にコントロールできる。

比較構文において「人₁ガ人₂ヨリ〜い」「モノ₁ガモノ₂ヨリ〜い」「コト₁ガコト₂ヨリ〜い」は全て可であることから、人・モノ・コトの状態としては比較できる。また、程度副詞「なかなか」「ずいぶん」「だいたい」と共起できることから、程度差を判断する際期待値を想定できる。

表 7-10 本研究の形容詞の七つの類型の特徴

	① 「憎い」 類	② 「嬉しい」 類	③ 「寂しい」 類	④ 「熱い」 類	⑤ 「危ない」 類	⑥ 「少ない」 類	⑦ 「赤い」 類
3章	自発性を持つ	自発性を持つ	自発性を持つ	自発性を持つ	自発性を持つ	自発性を持たない (ただし、文脈によって感情を伴う場合もある)	自発性を持たない
4章	コントロールできない	間接的にコントロールできる	直接・間接的にコントロールできる	直接・間接的にコントロールできる	直接・間接的にコントロールできる	直接・間接的にコントロールできる	直接的にコントロールできる
5章	人・モノ・コト同士の状態は比較できない	人・モノ同士の状態は比較できないが、コト同士の状態は比較できる	人同士の状態は比較しにくいですが、モノ・コト同士の状態は比較できる	人同士の状態は比較しにくいですが、モノ・コト同士の状態は比較できる	人・モノ・コト同士の状態は比較できる	人・モノ・コト同士の状態は比較できる	人・モノ・コト同士の状態は比較できる
6章	「話し手の期待値」を想定できない	「話し手の期待値」を想定できない	「話し手の期待値」を想定できない	「話し手の期待値」を想定できる	「話し手の期待値」を想定できる	「話し手の期待値」を想定できる	「話し手の期待値」を想定できる

七つの類型は、自発性・コントロール性・比較という特徴が連続していることが分かる。一番左の「憎い」類は自発性を持ちコントロールすることができず、その状態の上下を比較することができないという特徴を持つが、一番右の「赤い」類は自発性を持たず直接的にコントロールすることができて、その状態の上下を比較することができる。「憎い」類と「赤い」類の中間に位置する「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類は自発性・コントロール性・比較の特徴が連続している。

7.4 今後の課題

本研究では現代日本語の形容詞の分類について考察した。本研究では他動詞構文・使役構文・比較構などの構文を提示し、各構文における形容詞述語と対象語（人・モノ・コトなど）との関連性を見たが、(7-1)のような形容詞述語文の基本文型の構造は見えていない。これに関しては今後の考察の対象とする。

(7-1) 私はピクニックが嬉しい

また、本研究ではより客観的な分類の指標を提示することを目指したが、次のように文脈の想定が必要になる部分が残されている。例えば、他動詞構文の「コトヲ～クスル」において「嬉しい」が成り立つかを判断する際に、「ピクニックを嬉しくする」のように「コト」として「ピクニック」を想定する必要がある。同様に、比較構文の「コト₁ガコト₂ヨリ～い」も、「嬉しい」が成り立つかを判断する際に、「子供が健康であることがお金持ちになることより嬉しい」のように「コト₁」に「子供が健康であること」を、「コト₂」に「お金持ちになること」を想定する必要がある。今後はこのような主観的な判断を最小限にする分類指標を考えていきたい。

また、(7-2) (7-3)のように同じ程度副詞でも「とても」や「非常に」は⑦「赤い」類と共起するのに、「大変」「なかなか」は共起しにくいという特徴が見られる。このような程度副詞と形容詞との共起に関する説明も今後の課題とする。

(7-2) 月が {とても／非常に／*大変／*なかなか} 白い。

(7-3) 月が {とても／非常に／*大変／*なかなか} 丸い。

また、比較構文は①「憎い」類とは共起しにくい、この中で「欲しい」のみ(7-4)のように比較構文と共起する。

(7-4) 私は水よりもお湯がほしい。(Yahoo!知恵袋)

このように「欲しい」は感情でありながら、人・モノ・コトの程度が比較できるという点で、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類、⑦「赤い」類のような属性度の高い形容詞と共通している。しかし、本稿では「欲しい」の特殊性については論じられなかった。この点についても今後考察していきたい。

さらに、本研究で提示した形容詞を分類するための四つの分類指標の間関係についてはなお考察する必要がある。例えば、「～てならない／たまらない／しかたがない」は「自発性」、他動詞構文と使役構文は「コントロール性」が関わっているが、両者の関連性についてはほとんど触れられなかった。「自発性」と「コントロール性」は属性や感情の発生に関わる特性であると考え、今後その関係について明らかにしていきたい。

また、比較構文と程度副詞と共起する構文はいずれも「比較」と関連していることを述べたが、両者の関連については考察できなかった。これも今後明らかにしていきたい。

参考文献

- 浅野百合子（1984）「程度副詞の分析—ずいぶん・だいぶ・なかなか・相当・かなり—」『日本語教育』52号，pp.47-54，日本語教育学会
- 安達太郎（2001）「比較構文の全体像」『広島女子大学国際文化学部紀要』第9号，pp.1-19，県立広島女子大学国際文化学部
- 荒正子（1989）「形容詞の意味的なタイプ」『ことばの科学3』，pp.147-162，むぎ書房
- 池上素子（2003）「変化表現の共起関係—「～なる」「～する」「～化（する）」を対象に」『國語國文研究』123，pp.77-92，北海道大学国語国文学会
- 大曾美恵子（1987）「誤用分析5 結局ぎりぎりになってしまったから、電車の中で私は立たせられました。」『日本語学』6，pp.131-134，明治書院
- 大曾美恵子（2001）「感情を表す動詞・形容詞に関する一考察」『言語文化論集』22(2)，pp.21-30，名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 金熹成（2003）『状態述語文の他動化と使役化』筑波大学博士学位論文
- 草薙裕（1977）「日本語形容表現の意味—情報提供という観点からの考察—」『文藝言語研究 言語編』2，pp.89-110，筑波大学文芸・言語学系
- 工藤浩（1983）「程度副詞をめぐって」渡辺実（編）『副用語の研究』，pp.176-198，明治書院（工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房に所収 pp.99-121）
- 工藤真由美（1999）「否定と呼応する副詞をめぐって—実態調査から—」『大阪大学文学部紀要』39，pp.69-107
- 権勝林（2010）「状態性述語の使役化について—日・韓対照研究—」『日

- 本研究』43, pp. 507-524, 韓国外国語大学校日本研究所
- 権裕羅 (2018) 「日本語の感情形容詞と感情動詞の使役表現をめぐって」
『日本語教育』第86輯, pp. 15-29, 韓国日本語教育学会
- 権裕羅 (2020a) 「感情・感覚形容詞の新しいミ形について—Twitter上の
使用に注目して—」『日本語教育』第92輯, pp. 65-77, 韓国日本語教
育学会
- 権裕羅 (2020b) 「日本語と韓国語の感情形容詞の連体修飾用法の対照研
究」『ことばの科学』34, pp. 93-112, 名古屋大学言語文化研究会
- 権裕羅 (2021) 「感情・感覚形容詞の新しいみ形の推移—2006年から2019
年に渡るツイッターでの使用に基づいて—」『日語日文学研究』116,
pp. 37-60, 韓国日語日文学会
- 小山敦子 (1966) 「「の」「が」「は」の使い分けについて—展成文法理
論の日本語への適用—」『国語学』66, pp. 61-84, 国語学会
- 佐野由紀子 (1998) 「程度副詞との共起関係による状態性述語の分類」
『現代日本語研究』第6号, pp. 32-50, 大阪大学文学部日本学科現代
日本語学講座
- 佐野由紀子 (1999) 「程度限定における「主観性」について」『現代日本
語研究』第5号, pp. 111-120, 大阪大学文学部日本学科現代日本語学
講座
- 杉村泰 (2007) 「「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかた
がない」の使い分け—日本語母語話者と日本語学習者の比較—」『世
界の日本語教育』17, pp. 1-15, 国際交流基金
- 疏蒲剣 (2018) 『現代日本語における程度副詞の研究』名古屋大学博士学
位論文
- 田中寛 (2004) 「“心情の強調”をあらわすモダリティ形式と命題の評価
性—「てならない」「ずにいられない」などを中心に—」『語学教育
研究論叢』21, pp. 185-206, 大東文化大学

- 寺村秀夫（1971）「‘タ’の意味と機能—アスペクト・テンス・ムードの構文的位置づけ」『言語学と日本語問題』くろしお出版（寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版に所収 pp. 313-358）
- 寺村秀夫（1973）「感情表現のシンタクス—「高次の文」による分析の一例—」『月刊言語』2-2, pp. 18-26, 大修館書店
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 時枝誠記（1950）『古典解釋のための日本文法』至文堂
- 西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 服部匡（1994）「副詞「なかなか」の意味用法の分析」『言語学研究』13, pp. 79-90, 京都大学言語学研究会
- 樋口文彦（1996）「形容詞の分類—状態形容詞と質形容詞—」『ことばの科学』7, pp. 39-60, むぎ書房
- 細川英雄（1989）「現代日本語の形容詞分類について」『国語学』158集, pp. 14-26, 国語学会
- 村上佳恵（2017）『感情形容詞の用法 現代日本語における使用実態』笠間書院
- 森篤嗣（2004）「形容詞連用形に後接するスル・サセルの置換について」『日本語教育』120, pp. 33-42, 日本語教育学会
- 頼錦雀（2008）「日本語感情形容詞の使役表現についての一考察—中国語との対照分析—」『台湾日本語文学報』23, pp. 43-64, 台湾日本語文学会
- 劉笑明・吉田則夫（2006）「情意表現における副詞の働きについて」『岡山大学教育学部研究集録』第131号, pp. 167-174, 岡山大学教育学部
- 山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』くろしお出版
- 楊凱榮（1986）「「XがYヲZニスル」構文と「XがYヲZニサセル」構文との異同について:Zが形容詞の場合」『言語学論叢』5, pp. 17-30, 筑波

大学一般応用言語学研究室

渡辺真央（1998）「日本語の副詞「ずいぶん」の一考察：モダリティ形式と人称との関連から一」『神戸大学留学生センター紀要』5, pp.63-78, 神戸大学留学生センター

渡辺実（1991）「「わがこと・ひとごと」の観点と文法論」『国語学』165集, pp.1-14, 日本語学会（渡辺実（2002）『国語意味論』塙書房に所収 pp.94-122）

<引用辞典>

デジタル大辞泉 (<https://daijisen.jp/digital/index.html>)